Hokkaido University News

北大時報

令和7年
4
No. 853　April　2025

令和6年度学位記授与式の挙行
令和7年度入学式の挙行
半導体フロンティア教育研究機構を設置

No.853　令和7年

目　次

令和6年度学位記授与式の挙行

令和7年度入学式の挙行

全学ニュース

1　令和6年度学位記授与式の挙行
5　令和7年度入学式の挙行
8　半導体フロンティア教育研究機構を設置
9　「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」における連携研究プラットフォーム採択課題への認定証交付式及び事業説明会を実施
10　令和6年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行
12　名誉教授に41氏
13　令和6年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
14　令和7年度北海道大学の予算
16　令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行
17　新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙行
18　令和6年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
19　令和6年度Integrated Science Program（ISP）修了式を挙行
20　令和6年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
21　令和6年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行
22　令和6年度北海道大学クラーク賞授与式を挙行
23　令和6年北大えるむ賞授与式を挙行
24　「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン」第34回FSPアジアを実施
25　令和6年度北海道大学 HUCI&教育改革室フォーラム／SGU総括・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業採択キックオフシンポジウム「HOKUDAI国際教育のパラダイムシフト：SGUから多文化共修への深化」を開催
26　Vlog動画コンテスト「How's your HokuDay?」の開催
27　北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
29　キャリアセンターと先端人材育成センターが合同で北海道大学キャリア支援シンポジウムを初開催
30　一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「夢を再び（PBL授業）」を開講
31　「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」に参加
32　起業シミュレーション型アントレプレナーシップ教育イベントを開催
33　レジリエンスアントレプレナー育成イベント「『知る』から『動く』へ法律×実践力で、災害に立ち向かう力を学ぶ」を開催
34　国際スタートアップカンファレンス「Hokkaido Innovation Week」にてサイドイベント等を実施
35　メルボルン大学とのマッチングファンド2025を採択
36　「帝国の世界秩序とその後を考える北大・UMAシンポジウム」を開催
37　北海道大学×日本証券業協会SDGsシンポジウム「北海道から拓く持続可能な未来－産官学連携によるGX金融の推進－」に横田　篤理事・副学長が登壇
38　ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」の健康イベントに364人が参加
39　第2回北大女性教授ネットワーキングの会を開催
40　「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ　講師が講義、見学を実施

部局ニュース

42　経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
43　メルボルン大学とのジョイントワークショップを開催
44　令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第2期生修了式を開催
45　令和6年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
46　医学研究院医理工学グローバルセンターが第7回GCB分子生物医科学・診断学ウィンタースクール及び第11回GCB医学物理ウィンタースクールを開催
47　医学部が令和6年度最終講義・退職記念式典を挙行
48　歯学研究院で統合URA本部との共同企画セミナー「共同研究がもたらす研究力向上と今後の発展～国内共同研究から国際協働へ～」を開催
49　薬学研究院で生成AIに関するFD研修会を開催
50　薬学研究院が「第20回薬学研究院研究発表会」を開催
51　工学部で救急救命講習会を開催
52　国際広報メディア・観光学院が台北にて留学生向け説明会を実施
53　国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・セッション」を開催
54　日米緊急対話「トランプ復活とロシア・ウクライナの行方」を開催
55　令和6年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
56　臼尻水産実験所・七飯淡水実験所で樹木処理の作業を通じた技術交流事業を実施
57　「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催
58　環境健康科学研究教育センターがクイーンズランド大学CHRCとLOIを締結
59　脳科学研究教育センター脳科学（発達脳科学）専攻第21期修了生に修了証書授与
60　総合博物館で第17回「卒論ポスター発表会」を開催

博士学位記授与　61

表敬訪問　85

人事　86

94　新任副学長等紹介
96　副学長（再任）紹介
97　新任部局長等紹介
101　部局長等（再任）紹介
103　新任部課長等紹介
109　新任教授紹介

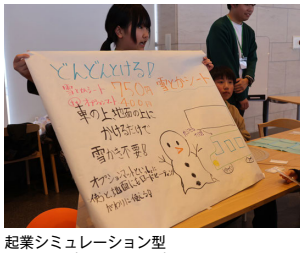
訃報

115　名誉教授　眞嶋　二郎　氏

資料

116　令和7年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
117　令和7年度入学者の都道府県分布及び地域比率

令和6年度新渡戸カレッジ修了式
（学部教育コース）を開催


起業シミュレーション型
アントレプレナーシップ教育イベントを開催

「冬の植物園ウォッチングツアー」を開催

環境健康科学研究教育センターが
クイーンズランド大学CHRCとLOIを締結

表　紙：令和7年度入学式の挙行（関連記事5頁に記載）
裏表紙：キャンパス懐古①　入学式当日の部・サークル勧誘風景（1960年代初め）

令和6年度学位記授与式の挙行

令和6年度学士学位記授与式

学位記を受ける総代

札幌キャンパス会場の様子

令和6年度学士学位記授与式を3月25日（火）に、第一体育館において挙行しました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部及び現代日本学プログラム課程の卒業生2,214名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。また、新渡戸カレッジの修了者43名を代表し、総代へ修了証書が授与されました。

寳金清博総長は告辞の中で、「皆さんが北海道大学の4つの基本理念から得た知識と能力をもってすれば、必ず未来を創造するフロントランナーになれると確信している」と述べ、「クラーク先生の『Be ambitious!』の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください」との言葉を贈りました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長杉江和男氏は祝辞の中で「北海道大学での学びと経験を胸に、自分が正しいと思うことに向けて、自信と熱意をもって社会のために生きてください」と述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

翌日3月26日（水）には、プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産学部の学位記授与式が挙行されました。

式典では、水産学部卒業生191名を代表し、各学科の総代へ、水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には、山本新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。

告辞を述べる寳金総長

祝辞を述べられる杉江会長

学位記を受ける総代（函館キャンパス）

令和6年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

令和6年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式の終了後に、第二体育館において挙行しました。

役員、研究科等の長の列席の下、水産科学院を除く16研究科等の修士課程修了者1,440名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者31名、経済学院会計情報専攻修了者21名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者24名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、19研究科等の博士課程修了者317名、論文博士8名を代表し、各研究科等の総代へ、寳金清博総長から博士学位記が授与されました。

この後、寳金総長より告辞があり、最後に北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で、式は締めくくられました。

翌日3月26日（水）には、プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産科学院の修士課程修了者115名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者4名に対し、寳金総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号61ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）

学位記を受ける総代（札幌キャンパス）

函館キャンパス会場の様子

学部別卒業者数一覧

学部名	卒業者
文学部	168
教育学部	52
法学部	212
経済学部	161
理学部	308
医学部	267
歯学部	49
薬学部	79
工学部	648
農学部	211
獣医学部	（78） 41
水産学部	191
現代日本学プログラム課程	18
計	（2,442） 2,405

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
法学研究科	15	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	31
水産科学院	115	経済学院会計情報専攻	21
環境科学院	118	公共政策学教育部公共政策学専攻	24
理学院	114		
農学院	139		
生命科学院	93		
教育学院	33		
国際広報メディア・観光学院	41		
保健科学院	51		
工学院	（338） 323		
総合化学院	143		
経済学院	33		
医学院	16		
医理工学院	14		
国際食資源学院	14		
文学院	93		
情報科学院・情報科学研究科	200		
計	（1,570） 1,555	計	76

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
法学研究科	1	
水産科学院	4	
環境科学院	30	1
理学院	24	
農学院	13	2
生命科学院	31	1
教育学院	12	
国際広報メディア・観光学院	10	1
保健科学院	8	
工学院	22	

研究科等名	課程博士	論文博士
総合化学院	31	1
経済学院	4	
医学院・医学研究科	46	
歯学院・歯学研究科	27	
獣医学院	5	1
医理工学院	2	
国際感染症学院	5	
国際食資源学院	4	
文学院・文学研究科	22	1
情報科学院	20	
計	321	8

総長告辞

学士学位記授与式

北海道大学総長　寶金　清博

本日、本学を卒業される2,405名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北海道大学を代表して、心からお祝い申し上げます。

さらに、また、皆さんを支えてこられた家族、関係者の皆さまに対しても、お祝いを申し上げます。この間、本学へのご支援をいただいた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

皆さんは、これから、「世界」に飛び込むことになります。言い換えると、いよいよ、「世界」に放り出されることになります。まさに、「卒業」ということです。

今、皆さんが放り出される世界では、毎日、驚くような変化が起こっています。その動きは、一見すると、とても複雑で、秩序のないものに見えます。しかし、私は、その全ての変化には共通したものを見ることができます。それは、既存の民主主義を曖昧にし、時に民主主義を変容させ、場合によっては、その一部を否定するという共通した動きです。これらの変化は、世界のあらゆる地域と国で顕在化しています。日本でも、SNSなどのメディアを通して私たちを揺さぶっています。

そうした大きなうねりは、本来、複雑で多様である私たちの世界を単純なイデオロギーで支配しようとしているように思えます。今、世界を覆っている巨大な力は、多様性と複雑性を強みとしてきた民主主義やグローバリゼーションの弱点を巧みに顕在化し、それに代わる別の夢と可能性を示して、世界を別の方向に向けようとしています。

科学を学んできたアカデミアの人間としては、私たちは、こうした世界の動きを傍観することができません。特に、皆さんのように、科学の基盤的な考え方を学び、これから世界の主人公になる若い方々にとっては、避けることのできない深刻な課題です。なぜなら、現在の世界を動かしているこの大きな動きは、しばしば誤情報で人々を操作し、あるいは意図的な単純化を通して、私たちの基盤である「科学」そのものを都合よく利用しています。

一例を挙げると、例えば、多様性の課題です。多様性に対して、今、世界では、強い逆方向のベクトルが勢いを増しています。私自身にも、弱点がありました。多様性が私たちの世界を良くする根本的な理由を見出すことができないでいました。なぜ、多様性が必要なのか？　なぜ、多様性が優れていると言えるのか？　多様性は本当に勝ち残ることができるのか？　などの問に対して、自信を持って答えることができませんでした。

しかし、最近、いろいろな人々との対話の中で、私なりに理解できたことがあります。多様性は、生命や生態系にとって、必須、なくてはならない最強の「生存戦略」であるということです。言い換えれば、地球、生命体、国、組織など、あらゆるシステムが、健全に生き残るためには、多様性を持った生態系、エコシステムが必要不可欠であり、その結果、多様性はさらに強化されます。多様性のある生態系が、豊かさを生み出し、人のWell-beingをもたらし、勝ち残るのだと確信します。

生成系AIが日常に定着しました。皆さんが放り出される「世界」は、AIが存在する世界です。実用的なAIが存在しなかった20世紀までとAIが爆発的に実用化した今世紀21世紀との間には、人類史的な分界点があります。数百万年続いてきた人類の歴史における人間の知性のあり方に対して大きな衝撃が与えられました。

このAIの登場と今述べたように世界を席巻しつつあるイデオロギーの組み合わせは、大きなシナジー効果を持っており、世界を大きく変容させる危険を有しています。

AIの基盤となる先端半導体は、今や、ナノのレベルを超えて、微小なオングストロームの微細構造となり、エネルギー消費の課題も克服すれば、私たちの世界がUbiquitousにAIで埋め尽くされることになるのは時間の問題です。その世界で、私たち・人間が主人公でなくなり、価値の主体が、人から離れることは、あってはならないことです。しかし、傍観していれば、どんなことも起こりえます。

我が国では、半導体の復活を国策として、間もなく、北海道で世界最先端の半導体のFabが稼働し、2nanometerの先端半導体の生産が始まります。この事業に北海道大学も深く関わっています。このことを考えると、AIの基盤となる先端半導体を牽引する私たち、北海道大学と皆様を含めた関係者は、AIと民主主義の在り方に関して、取り分け、大きな責任があることは間違いありません。

皆さんは、これまで本学で学んだ専門知識に加えて、これからの人生や仕事において必要なtransferable competenceを学びました。これは、北海道大学の4つの基本理念である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」そのものです。世界の将来は、確かに、不透明で不確実です。しかし、皆さんがこの4つの基本理念から得た専門知識と広範な適応能力をもってすれば、必ず、人間が主人公である健全で多様性のあるAI社会と未来

を創造するフロントランナーになれると確信しています。

私のメッセージが、多様性や科学を否定する世界の変化に対して、科学者として抵抗することを重要視していることは間違いありません。しかし、もっと、重要なことは、どちらにしても、世界は、大きな変化、Changeの時期にあり、従来の成功体験やestablishされた人々の考えでは突破できない状況になりつつあることも事実です。決して、現状にとどまることがあってはなりませんし、とどまることのリスクやその失敗の大きさは、この30年の日本の停滞が証明しています。皆さんには、この大きな変化の時代を大きな成功のチャンスと捉え、変わることに勇気を持って頂きたいと思っています。

本日の学位記授与式の最後に、本学の礎を築いた、札幌農学校初代教頭であるW.S.クラーク博士の人生について、改めて、思いを寄せたいと思います。

彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで、心に突き刺さるメッセージを学生たちに残して、札幌を去ります。彼の人生は、生涯を通じて、チャレンジそのものでした。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、世界・社会を変えようとし続けたものであり、彼自身の言葉通りambitionに満ちた果敢な人生でした。

そして、クラーク先生と彼に同行した教師たちが目指したグローバル人材育成の結晶が、新渡戸稲造であり、内村鑑三であり、宮部金吾です。そして、こうした先人のDNAを受け継ぐ後継者が、ここにいる皆さん一人一人です。

皆さんは、私たちの最高のロールモデルであるクラーク先生の「Be ambitious!」の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください。

卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、私の結びの言葉といたします。

令和7年度入学式の挙行

令和7年度の入学式を、4月4日（金）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

式は、来賓の校友会エルム会長の杉江和男氏、在札幌米国総領事館領事のジェフ・フリーマン氏、北海道大学第18代総長の山口佳三氏、本学の協定締結機関等の方々、エクセレントビジョナリースポンサー及びビジョナリースポンサーの方々、役員、副学長及び学部長等の列席の下、新渡戸カレッジフェローの森　順子さんが司会を務め、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、寳金清博総長から新入生に対し告辞が述べられました。

総長は告辞の中で、北海道大学の歴史、私たちが直面している世界的な価値観の大きな危機、それに対抗しうる能力を養う北海道大学の4つの基本理念について述べられ、新入生の皆さんに、地域的な多様性を持っている仲間との素晴らしい出会いを生かしながら、リベラルアーツという広い知識や学びを自ら獲得していってほしいと激励しました。

続いて、初代教頭のWilliam S. Clark先生の生涯がいかにチャレンジングなものであったかについて述べ、クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉であり、北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious!」の精神を150年脈々と受け継いできた大学であると述べられました。

総長告辞に続いて、2,592名の入学者を代表して本岡典雅さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学理事、監事、副学長及び学部長等の紹介が行われ、北海道大学応援団による「永遠の幸」の演舞、北海道大学合唱団による「I've been working on the railroad」の合唱、北海道大学交響楽団による「雷鳴と電光」の演奏の後、北海道大学交響楽団及び北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の演奏・斉唱が行われ、式は終了しました。

入学式終了後には、山本文彦副学長による「北海道大学における学び」と題したガイダンスの後、クリスティーナ・アメージャン理事による「Out of Your Comfort Zone!」と題した講演が行われ、全ての行事が無事に終わりました。

（学務部学務企画課）

会場の様子

告辞を述べる総長

総代による入学者宣誓

北海道大学応援団による演舞

北海道大学合唱団による合唱

北海道大学交響楽団による演奏

山本副学長によるガイダンス

アメージャン理事による講演

総長告辞

令和7年度入学式

北海道大学総長　寶金　清博

2,592人の新入生の皆さん、本日は、北海道大学ご入学、おめでとうございます。

北海道大学を代表して、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。また、本日は、ご家族、関係者、多くの皆様にご臨席いただきました。皆様にも、心からお祝い申し上げます。

さらに、本年より、北海道大学が強化している「社会と共に成長する大学」の観点から、企業、自治体、寄附者の皆様へ入学式をご案内しましたところ、株式会社アークス様、SCSK北海道株式会社様、株式会社ニトリホールディングス様、日本航空株式会社様、株式会社日立製作所様、北海道ガス株式会社様、株式会社北海道新聞社様、株式会社読売新聞東京本社北海道支社様、Rapidus株式会社様など企業の関係者各位、北海道、札幌市など自治体の方々、そして、大学を支援していただいている寄附者の皆様にも多数ご参加いただきました。ご多忙なところ、誠にありがとうございます。

今日の入学式では、入学生の皆様に三つのことをお話しいたします。一つ目は、北海道大学の歴史について、二つ目は、北海道大学の四つの基本理念が今の時代にどのような意味を持っているのかについて、三つ目として、William S. Clark先生についてお話ししたいと思います。

まず、最初に、北海道大学の歴史についてお話しいたします。

今から150年ほど前の1876年、明治9年に、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。北海道大学の前身はこの「札幌農学校」で、日本で最も早く設立された高等教育機関の一つです。

札幌農学校では、米国流のリベラルアーツ教育が行われました。「リベラルアーツ」とは、「幅広い一般教養」のことです。設立当初の札幌農学校において、リベラルアーツ教育を大学教育の原点に置き、農学だけではなく、数学、化学、生物学から歴史学、経済学に至るまで多様な基礎教育が英語により実施されていたことは、本当に驚くべきことです。今日（こんにち）においても、極めて先進的なことであり、今後、北海道大学は、改めて、国際的な教育の基盤を強化しますが、その原点は、約150年前の札幌農学校にあります。

北海道大学札幌キャンパスは、日本でも有数の多様性とスケールを誇り、春夏秋冬を通して美しく、日本でも類を見ない素晴らしい大学キャンパスの一つです。また、函館キャンパス、多くの地方研究施設、そして、日本最大の研究林を含めると、大学の保有する土地面積として、国内第1位となっています。

また、この地は、北海道大学が設置される以前は、アイヌの人々が暮らす集落があり、日々の生活の糧を得ていました。水や緑などに恵まれ、とても豊かな土地で、アイヌの人々にとっても、非常に豊かな暮らしの場であったと想像されます。この地に学ぶ私たちは、こうした歴史を忘れてはならないと思います。

先ほど、この式に先立って、演奏された曲は、ゴジラのテーマ曲です。ご存知の方も多いと思いますが、ゴジラのテーマ曲の作曲者である伊福部昭氏は、本学の卒業生です。伊福部昭氏は、近代日本を代表する作曲家の一人ですが、アイヌの文化や北海道の自然からインスピレーションを得た多くの楽曲を遺されています。

二つ目として、北海道大学の四つの基本理念についてお話しします。北海道大学は、開学以来のリベラルアーツ教育を通して、四つの基本理念を培ってきました。すなわち、新しい学問領域を探求する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

この四つの基本理念は、どれも、素晴らしく、特別なものには思えないかもしれません。私も、この四つの理念が特別なものではない、当たり前であるべきだと思っています。ところが、今日（こんにち）、この四つの理念の価値が、改めて、見直されています。そのことを、今、私たちが直面している世界的な価値観の大きな危機との関係からお話しします。

今、世界が変化しつつあることを皆さんも実感されていると思います。例えば、いろいろな価値観を尊重する多様性の考え方、世界がつながることで世界に平和と豊かさがもたらされるという国際協調・グローバル化など、これまで、私たちが民主主義の中で育ててきた価値観が揺らいでいます。

北海道大学の四つの基本理念の一つは、多様性を尊重する「国際性の涵養」です。この理念も、揺らぐことのないものだと信じてきましたが、今、世界では、今述べたようにこれを揺るがすような価値観の変化があります。

また、これと関連して、「研究」の危機があります。残念なことに、今、世界では、誤った情報の広がりや科学的事実に反する意図的な活動がしばしば見られます。国際連合が科学的根拠を持って進めてきたSDGsの考え方や地球温暖化に対する世界的な協調に対しても、これを否定する動きがあります。

四つの理念で紹介した「フロンティア精神」や「実学の重視」を基本理念としている北海道大学で学ぶ皆さんには、こうした価値観の大きな危機や科学に対する誤った考えに対抗する能力を養える素晴らしい環境があります。何より、北海道大学には、12の学部と21の研究科・学院等があり、日本で最も広い学問領域を学ぶことができる総合大学です。

北海道大学に入学された皆さんには、この恵まれた教育環境を最大限に活用していただきたいと思います。多様性や国際協調、真理を求める実学などを通じて、今、世界を覆いつつある価値観の大きな危機を解決する力を養うことができるはずです。

特に、学部入学後の数年間は、是非、リベラルアーツという広い知識や学びを自ら獲得してください。北海道大学は、皆さんにその機会を提供いたします。ただし、皆さん自身に、自ら学ぶ意欲がない限り、その機会を逸することになります。私の経験では、大学入学後の数年は、人生で最良の時間だと思います。ただし、最良の時間にできるかどうかは、皆さんの自律性にかかっているのです。

本学の四つ目の基本理念である「全人教育」は、数年間の大学生活において、自ら広い知識と考え方を学び、そして、何より、一人でも多くの多様な仲間や先生に出会うことを意味しています。

本学は、道外の学生が約7割を占め、日本全国から学生が集まります。大学院では、海外からも多くの学生が入学します。このような地域的な多様性を持っているのは、日本でも北海道大学だけだと思います。是非、こうした多様な仲間との素晴らしい出会いを生かし、皆さんの大学生活を「人生最良の時」にしてください。

ほとんどの学生さんが、生まれて初めて、親元を離れての生活となり、4月5月は、きっと心細い思いも経験されると思いますが、それを乗り越えて、この数年間の北海道大学での生活を、人生における「最高の時代」にしてください。

以上、北海道大学の四つの理念が、今日（こんにち）、改めて、非常に重要な意味があり、これは、私たちが全力で守っていかなければならないものだということを皆さんにお伝えいたしました。

最後に、入学式で、必ずお伝えしていることがあります。それは、初代教頭のWilliam S. Clark先生のことです。

クラーク先生は、今から約150年前に、アメリカ東海岸、マサチューセッツ州ボストンに近い、マサチューセッツ農科大学の学長という重要な地位にいました。しかし、彼は、明治政府の依頼を受け、アメリカ大陸を横断し、西海岸から命をかけて太平洋を越え、1876年に札幌にやってきます。当時の札幌の人口は正確には分かりませんが2,000人程度であったと推定されます。どう考えても、大変なチャレンジのように思えます。

札幌農学校の礎を築くという大事業を成し遂げると、彼は、「Be ambitious!」という、実にシンプルで心に突き刺さるメッセージを残して、一陣の風のごとく、日本を去ります。

これは、彼の人生が、不断のチャレンジそのものであったことを意味します。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、今の言葉で言えば、アントレプレナーシップ、スタートアップを通して、世界・社会を変えようとし続けた実に果敢な人生でした。クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉なのです。

クラーク先生が目指した、当時の北海道大学の第一のAmbitious Challengeは、寒冷な北海道の地に先進的な農業を確立することでした。これは、当時の明治政府の国策でもありました。

それから、1世紀半、150年を経て、寒冷地農業の確立という第一のchallengeは、今、安定的で地球環境を再生させる新たな食糧生産のための研究というイノベイティブな第二の形に進化して、大きく発展しています。

そして、今、再生可能エネルギーの実用化、さらに、次世代先端半導体の生産を核とする北海道デジタルパーク構想の実現に向けて、北海道大学は、第二のAmbitious Challengeに向けて、動き出しています。

北海道大学は、クラーク先生以来、一貫して、イノベーションへの果敢な挑戦を続ける、まさに、Ambitious Universityです。

皆さん、今日の入学式が終わって、時間があれば、是非、中央ローンにある日本で最も知られている胸像の一つであるクラーク像の前で、彼の挑戦に満ちた人生へ思いを巡らせてください。

北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious!」の精神を150年脈々と受け継いできた比類なき大学です。皆さんのこの素晴らしい北海道大学への入学、本当におめでとうございます。

以上をもちまして、私から新入生の皆さんへの告辞といたします。

半導体フロンティア教育研究機構を設置

4月1日（火）、「半導体拠点形成推進本部」を改組し、半導体教育研究推進のヘッドクォーター機能を担う「半導体フロンティア教育研究機構」を設置しました。半導体関連の全学的な方針等の策定や学内の教育研究資源の効果的な統合、学外機関との連携強化、教育研究基盤の整備・運営を進め、教育研究機能の強化を図ることで、日本全体及び北海道地域における持続的な人材の確保、研究開発の高度化、産業政策の推進と地域社会の活性化に貢献します。

本機構は、半導体拠点形成推進本部長を務めた山口淳二理事・副学長（北海道半導体人材育成等推進協議会人材育成・確保ワーキンググループ座長）が機構長、葛西誠也総長補佐・量子集積エレクトロニクス研究センター教授、江崎敦雄元産学・地域協働推進機構副機構長が副機構長となり、「半導体教育研究開発戦略室」（室長：秋永広幸情報科学研究院教授）、及び半導体の開発・利用に必要な要素ごとに統合する「半導体材料スマート創製部門」（部門長：島田敏宏工学研究院教授）、「次世代プロセス開拓部門」（部門長：松尾保孝電子科学研究所教授）、「次世代デバイス創発部門」（部門長：植村哲也情報科学研究院教授）、「半導体機能解析部門」（部門長：柴山環樹工学研究院教授）、「次世代応用システム創生部門」（部門長：浅井哲也情報科学研究院教授）を設置し、各学内組織とも密に連携しながら半導体教育研究推進機能の強化を実現します。

半導体関連企業からの実務家教員派遣、研究開発面での連携や、国内外の半導体分野におけるトップクラスの大学等との連携を進めながら、以下のような活動を進めていきます。

【半導体教育機能の強化】

先端半導体と本学の強みである「AI・データサイエンス」「フィールド科学」を活かし、半導体を「つくる」人材、半導体を「つかう」人材の育成を推進します。

● 半導体を「つくる」人材

自らの専門を高めつつ自由な発想に基づき価値創造に資する半導体を生み出す人材

● 半導体を「つかう」人材

半導体や半導体×デジタルの新たな使い方を暮らしに取り入れ社会の持続的な発展をもたらす人材

【半導体研究機能の強化】

半導体開発に資する研究に加え、半導体の新たな利用開拓（ユースケース開拓）を見据えた研究を推進し、半導体製造における課題解決、半導体の新たな利用先の創出による産業創出・経済社会システムの構築等に寄与します。

【「半導体プロトタイピングラボ」の整備・運営】

教育研究の実践の場として、設計・前工程・後工程・評価に係る一連の装置を備えた「半導体プロトタイピングラボ」を整備し、半導体分野の高度人材育成・輩出や研究成果の社会実装を加速していきます。

（経営企画本部企画課）

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」における連携研究プラットフォーム採択課題への認定証交付式及び事業説明会を実施

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の一環として、昨年10月から学内の研究者を対象として公募していた「連携研究プラットフォーム事業」による採択課題認定証交付式、並びに事業説明会が、3月18日（火）に事務局大会議室にて実施されました。

はじめに、寳金清博総長から激励の挨拶があり、採択課題に対する大きな期待が述べられた後、引き続き、研究代表者（研究代表者代理を含む）に対して一人ずつ認定証が交付され、その後、記念写真の撮影が行われました。

事業説明会では、最初に瀬戸口剛理事・副学長から、総合イノベーション創発機構J-PEAKS企画・運営室員の紹介があり、引き続き、齊藤大地総長補佐から、採択課題や研究ユニットに対して今後予定している支援方策等の説明が行われました。

質疑応答、意見交換の部では、当初の制限時間を超えて多数の質問や意見が寄せられるなど、研究代表者の熱い思いが感じられ、今後の各研究ユニットにおける研究活動の展開に非常に期待が持てる有意義な会となりました。

採択課題及び研究ユニットの一覧は、総合イノベーション創発機構ウェブサイトのJ-PEAKS企画・運営室のページにおいて公開中です。

（研究推進部研究支援課）

瀬戸口理事・副学長による説明

寳金総長から研究代表者への認定証交付

記念写真

令和6年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行

3月31日（月）、学術交流会館において、令和7年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された108名に対する「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式が執り行われました。

関係者列席のもと、被表彰者の代表として、人獣共通感染症国際共同研究所 教授 鈴木定彦氏に、寳金清博総長から表彰状及び記念品が授与された後、寳金総長から被表彰者の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

なお、この度表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

寳金総長からの挨拶

総長、理事、被表彰者との記念撮影

永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所属	氏名
高等教育推進機構	FIRKOLA PETER
法学研究科	池田清治
〃	嶋　拓哉
〃	空井　護
水産科学研究院	工藤　勲
地球環境科学研究院	露崎史朗
〃	渡邉悌二
〃	工藤　岳
〃	豊田和弘
〃	渡辺　豊
理学研究院	北　孝文
〃	根本幸児
〃	洞　彰人
〃	松本圭司
〃	西村裕一
〃	三品具文
〃	鈴木敦生
薬学研究院	松田　正
〃	佐々貴之
〃	室本竜太
農学研究院	井上　京
〃	長谷川英祐

所属	氏名
先端生命科学研究院	西村紳一郎
教育学研究院	大野栄三
〃	松田康子
〃	守屋　淳
メディア・コミュニケーション研究院	西川克之
保健科学研究院	加藤千恵次
〃	結城美智子
工学研究院	岩井一彦
〃	大熊　毅
〃	大島伸行
〃	小澤丈夫
〃	菊地　優
〃	長野克則
〃	藤田　修
〃	矢久保考介
〃	黒田明慈
〃	友田基信
〃	山形　定
経済学研究院	田中嘉浩
医学研究院	山本有平
〃	工藤正尊
〃	堀之内孝広

所属	氏名
医学研究院	武田真人
〃	津田弓子
歯学研究院	山崎裕
〃	池田考績
獣医学研究院	稲波修
〃	稲葉睦
〃	苅和宏明
文学研究院	金沢英之
〃	藏田伸雄
〃	櫻井義秀
〃	佐藤知己
〃	弥和順
情報科学研究院	五十嵐一
〃	富田章久
〃	山下裕
〃	岡本淳
北海道大学病院	佐藤典宏
〃	石黒信久
〃	早川峰司
〃	大岡智学
〃	川合真次
〃	宮本剛典
〃	横山英辰
〃	石塚千恵子
〃	鹿内三起子
〃	新山久美
〃	伊藤千奈美
〃	熊倉寿希
〃	上田陽子
〃	江澤恵美
〃	大嶋美紀
〃	城木三千代

所属	氏名
北海道大学病院	坪田麻未
〃	中澤貴代
〃	吉田ゆか
低温科学研究所	江淵直人
〃	三寺史夫
電子科学研究所	玉置信之
人獣共通感染症国際共同研究所	鈴木定彦
情報基盤センター	山本裕一
量子集積エレクトロニクス研究センター	原真二郎
北方生物圏フィールド科学センター	生田稔
〃	角田貴敬
総合博物館	大原昌宏
埋蔵文化財調査センター	髙倉純
監事支援室	桃山光樹
経営企画本部	瀧川翼
安全衛生本部	佐藤哲也
学務部入試課	笹川鉄馬
研究推進部研究支援課	荒谷正樹
施設部施設企画課	田中陽二
社会共創部広報課卒業生・基金室	入澤秀次
附属図書館事務部	富樫理香
函館キャンパス事務部	菊地茂
環境科学事務部	澤田浩一
理学・生命科学事務部	岩佐俊明
薬学事務部	山羽好幸
農学・食資源学事務部	佐藤成嘉
教育学事務部	千葉良秀
工学系事務部	相内征也
医学系事務部	鴨志田敏則
歯学事務部	栗林哲也
文学事務部	白川孝子
北海道大学病院事務部	西村公子

名誉教授に41氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月19日（水）開催の教育研究評議会において、次の41氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月3日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

嶋　　拓　哉	（元大学院法学研究科教授）
工　藤　　勲	（元大学院水産科学研究院教授）
露　崎　史　朗	（元大学院地球環境科学研究院教授）
渡　邉　悌　二	（元大学院地球環境科学研究院教授）
岩　崎　克　則	（元大学院理学研究院教授）
小　澤　　徹	（元大学院理学研究院教授）
根　本　幸　児	（元大学院理学研究院教授）
洞　　彰　人	（元大学院理学研究院教授）
松　本　圭　司	（元大学院理学研究院教授）
松　田　　正	（元大学院薬学研究院教授）
井　上　　京	（元大学院農学研究院教授）
西　村　紳一郎	（元大学院先端生命科学研究院教授）
大　野　栄　三	（元大学院教育学研究院教授）
松　田　康　子	（元大学院教育学研究院教授）
守　屋　　淳	（元大学院教育学研究院教授）
加　藤　千恵次	（元大学院保健科学研究院教授）
結　城　美智子	（元大学院保健科学研究院教授）
岩　井　一　彦	（元大学院工学研究院教授）
大　熊　　毅	（元大学院工学研究院教授）
大　島　伸　行	（元大学院工学研究院教授）
小　澤　丈　夫	（元大学院工学研究院教授）
菊　地　　優	（元大学院工学研究院教授）
藤　田　　修	（元大学院工学研究院教授）
矢久保　考　介	（元大学院工学研究院教授）
山　本　有　平	（元大学院医学研究院教授）
山　崎　　裕	（元大学院歯学研究院教授）
稲　波　　修	（元大学院獣医学研究院教授）
稲　葉　　睦	（元大学院獣医学研究院教授）
金　沢　英　之	（元大学院文学研究院教授）
藏　田　伸　雄	（元大学院文学研究院教授）
櫻　井　義　秀	（元大学院文学研究院教授）
佐　藤　知　己	（元大学院文学研究院教授）
弛　　和　順	（元大学院文学研究院教授）
五十嵐　　一	（元大学院情報科学研究院教授）
富　田　章　久	（元大学院情報科学研究院教授）
山　下　　裕	（元大学院情報科学研究院教授）
三　寺　史　夫	（元低温科学研究所教授）
玉　置　信　之	（元電子科学研究所教授）
中　村　貴　義	（元電子科学研究所教授）
鈴　木　定　彦	（元人獣共通感染症国際共同研究所教授）
大　原　昌　宏	（元総合博物館教授）

令和6年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行

3月27日（木）、事務局において「北海道大学職員表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、寶金清博総長から被表彰者の石黒信久北海道大学病院准教授に賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

表彰式の様子

記念撮影（左から渥美達也病院長、寶金総長、石黒准教授、山口淳二理事・副学長、行松泰弘理事）

令和7年度北海道大学の予算

令和7年度　北海道大学収入・支出予算書

（単位：千円）

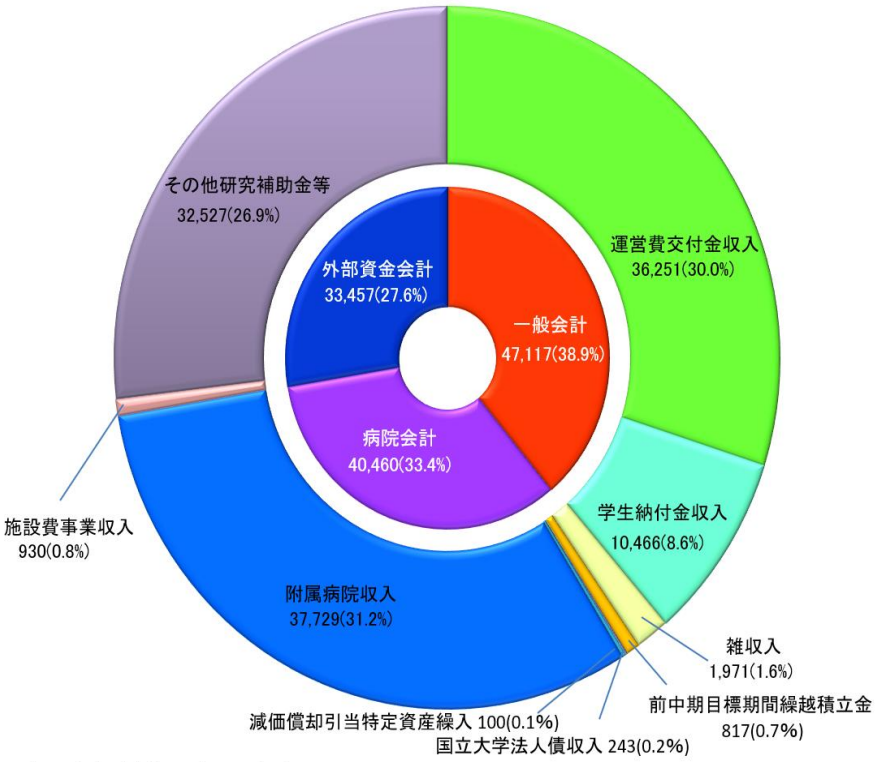
収入 事項	前年度予算額	令和7年度予算額	増減額	支出 事項	前年度予算額	令和7年度予算額	増減額
〔一般会計〕	45,751,464	47,117,178	1,365,714	〔一般会計〕	45,751,464	47,117,178	1,365,714
運営費交付金収入	32,980,753	33,759,642	778,889	人件費	27,620,582	28,288,898	668,316
学生納付金収入	10,523,261	10,466,302	△56,959	教育研究組織改革分	750,437	1,384,250	633,813
雑収入	1,647,450	1,731,163	83,713	共通政策課題分	754,611	1,139,604	384,993
前中期目標期間繰越積立金	600,000	817,499	217,499	特殊要因経費	2,321,241	2,187,310	△133,931
減価償却引当特定資産繰入	0	100,000	100,000	退職手当	2,271,760	2,143,475	△128,285
国立大学法人債収入	0	242,572	242,572	建物新営に伴う設備費	18,420	11,309	△7,111
				移転費	31,061	32,526	1,465
				大学ビジョン推進経費	4,269,561	3,498,175	△771,386
				既定分	3,782,993	3,092,499	△690,494
				機能強化促進事業費	486,568	405,676	△80,892
				調整費	100,000	100,000	0
				特定経費	3,920,615	4,484,106	563,491
				電子計算機借料	387,456	802,953	415,497
				公租公課、保険料等	1,135,471	1,196,458	60,987
				授業料等減免費	879,574	893,951	14,377
				収入見合経費	1,518,114	1,590,744	72,630
				基盤配分経費	6,014,417	6,034,835	20,418
〔病院会計〕	38,801,565	40,460,215	1,658,650	〔病院会計〕	38,801,565	40,460,215	1,658,650
運営費交付金収入	2,495,494	2,491,728	△3,766	人件費	8,863,958	9,203,404	339,446
附属病院収入	36,071,092	37,728,925	1,657,833	病院診療経費	29,354,296	30,681,236	1,326,940
雑収入	234,979	239,562	4,583	大学ビジョン推進経費（既定分）	483,466	475,730	△7,736
				基盤配分経費	99,845	99,845	0
〔外部資金会計〕	30,113,750	33,456,523	3,342,773	〔外部資金会計〕	30,113,750	33,456,523	3,342,773
施設費補助金等収入	1,078,700	929,700	△149,000	施設整備費	1,078,700	929,700	△149,000
保育園運営費補助金収入	87,287	84,458	△2,829	保育園運営費補助金事業費	87,287	84,458	△2,829
授業料等減免費交付金収入	300,831	320,957	20,126	授業料等減免費交付金事業費	300,831	320,957	20,126
寄附金収入	2,883,020	3,745,660	862,640	直接事業費	24,411,669	27,913,002	3,501,333
受託研究収入	9,638,923	10,969,229	1,330,306	寄附金事業費	2,829,052	3,691,507	862,455
共同研究収入	2,657,459	2,797,328	139,869	受託研究費	7,952,959	9,060,952	1,107,993
受託事業収入	1,485,289	1,247,841	△237,448	共同研究費	2,122,153	2,216,094	93,941
大学改革補助金等収入	4,799,216	6,377,690	1,578,474	受託事業費	1,412,480	1,175,243	△237,237
文部科学省科学研究費補助金	7,024,355	6,837,698	△186,657	大学改革補助金等事業費	4,755,318	6,350,290	1,594,972
厚生労働省科学研究費補助金	81,030	52,312	△28,718	文部科学省科学研究費補助金	5,206,133	5,292,423	86,290
その他助成金等	77,640	93,650	16,010	厚生労働省科学研究費補助金	55,934	34,103	△21,831
				その他助成金等	77,640	92,390	14,750
				間接経費	4,235,263	4,208,406	△26,857
				大学ビジョン推進経費（既定分）	0	425,602	425,602
				特定経費（電子計算機借料）	687,000	0	△687,000
				特定経費（燃料費）	836,654	794,160	△42,494
				特定経費（電子ジャーナル経費）	650,000	720,000	70,000
				特定経費（全学共用施設等管理経費）	134,568	200,000	65,432
				部局配分経費	1,927,041	2,068,644	141,603
			5.6%増				5.6%増
合計	114,666,779	121,033,916	6,367,137	合計	114,666,779	121,033,916	6,367,137

令和7年度　北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

収入予算 全体

121,034百万円

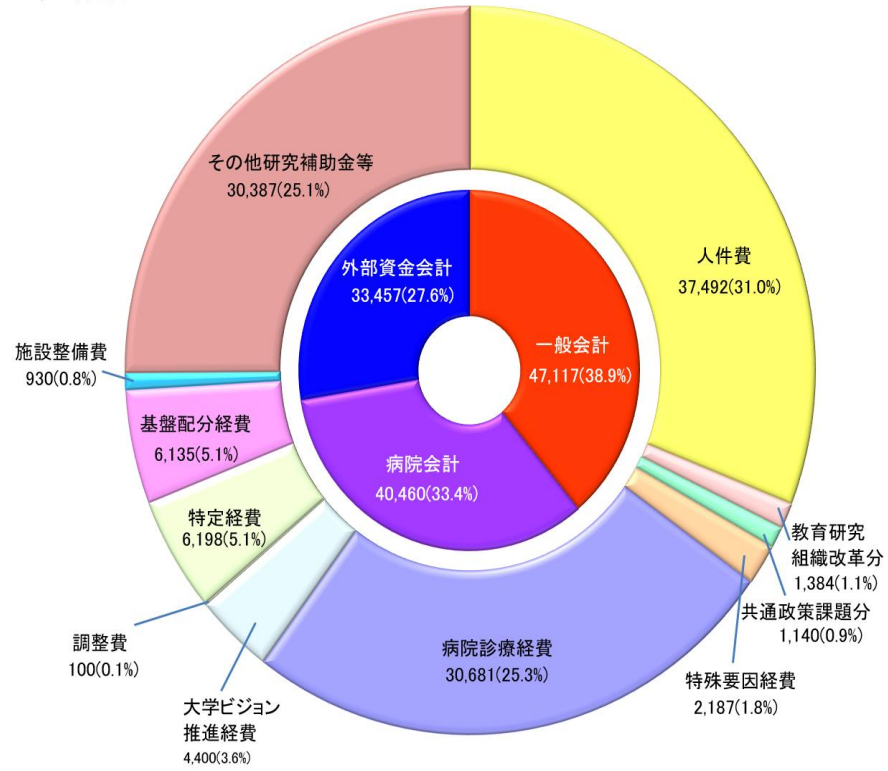


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

（単位：百万円）

支出予算 全体

121,034百万円



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を3月25日（火）に高等教育推進機構にて挙行しました。修了式には修了生17名のうち12名が出席し、寶金清博校長（総長）、山本文彦校長代理（理事・副学長）、弛　和順副校長、杉江和男副校長、ラ フェイ・ミシェル教頭及び新渡戸カレッジ関係教職員から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、工学部情報エレクトロニクス学科卒業の新田敦之さんに寶金校長から修了証書が授与されました。次に寶金校長が挨拶し、所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、経済学部経営学科卒業の近松真帆さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会エルム会長でもある杉江副校長と新渡戸カレッジフェローの森　順子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

（学務部教育推進課）

修了証書の授与

寶金校長の挨拶

修了生代表による挨拶

出席者による記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙行

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を3月19日（水）に高等教育推進機構にて執り行いました。

今年度は、留学生3名を含む25名が修了しました。はじめに、弥　和順副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。

引き続き、弥副校長の挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で逞しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、「オナーズプログラムで、修得した知識やスキルの応用と発展をめざし、高度な専門性とそれらを「活かす力」を存分に発揮して、グローバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表のデ オカンポ マシュー セルナさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）
井上 敦子（生命科学院）
デ オカンポ マシュー セルナ（理学院）

（学務部教育推進課）

修了証書の授与

修了生代表による挨拶

令和6年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催

外国人留学生を対象とした4年間の学士課程プログラムである現代日本学プログラム課程の第7期生18名が3月25日（火）に卒業の日を迎え、高等教育推進機構において挙行された現代日本学プログラム課程学士学位記授与式に出席しました。

学位記授与式では、山本文彦理事・副学長（現代日本学プログラム課程長）、髙橋　彩理事・副学長をはじめ、同課程担当教職員が参列する中、山本理事・副学長から卒業生一人一人へ学位記が授与されました。また、現代日本学プログラム課程最優秀学生賞、現代日本学プログラム課程特別賞、及び現代日本学プログラム課程最優秀卒業論文賞の表彰が併せて行われました。

引き続き、山本理事・副学長から卒業生へ祝辞が述べられ、母国を離れ異国の地での予備課程を含む4.5年間の長く険しい留学生活を自らの糧にできたこと、またグローバルな変容にも柔軟に対応し、それを乗り越えてきたことに対する労いの言葉に、卒業生は感銘を受けていました。

卒業生の多くは、卒業後に国内の企業への就職や本学をはじめとする国内外の大学への進学を予定しており、日本の良きパートナーとして日本と世界の架け橋の一端を担っていくことが期待されます。

（学務部教育推進課）

山本理事・副学長と現プロ卒業生との記念写真

令和6年度Integrated Science Program（ISP）修了式を挙行

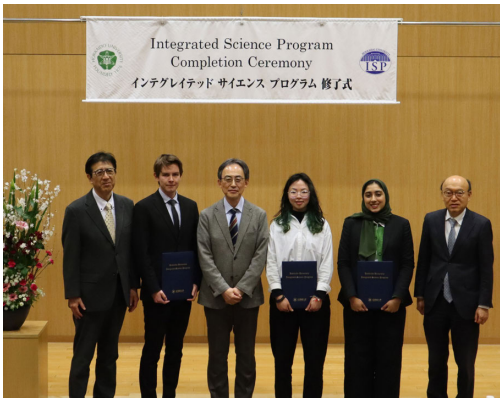
外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program（インテグレイテッドサイエンスプログラム；ISP）」の修了式を3月27日（木）に高等教育推進機構において挙行しました。令和元年10月入学の第3期生4名（1名欠席）の門出を祝い、プログラム長である山本文彦理事・副学長をはじめ、鈴木久男教授（副プログラム長）、永井隆哉教授（理学院長）が参列し、厳粛な中にも和やかな雰囲気で式典が執り行われました。

山本理事・副学長から修了生に修了証書が授与された後、祝辞が述べられ、母国を遠く離れ、様々な困難を乗り越えて学業を成し遂げた修了生を称えると共に、本プログラムを通じて身につけた知識や経験を活かして、今後もグローバルに活躍することを期待する言葉が贈られました。

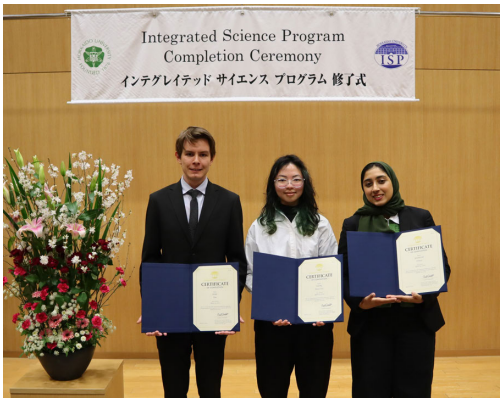
続いて、修了生3名がそれぞれスピーチを行い、ISPへの思いと関係者への感謝の言葉を述べました。

最後は、式典を見守っていた先生方、ご家族、後輩学生も交えて、記念撮影が行われ、ISPを巣立つ修了生の前途を祝しました。

（学務部教育推進課）



式典参加者の記念撮影



修了生（左からジェリック・ティムさん、
ナング・ムーン・シーリさん、クレシ・イルターザさん）

令和6年度北海道大学大塚賞授与式を挙行

3月14日（金）、事務局において、北海道大学大塚賞授与式を挙行しました。

大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は令和6年度内の博士課程修了予定者9名及び既修了者1名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、髙橋　彩理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長列席の下、寶金総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

（学務部学生支援課）

受賞者

環境科学院	勝　島　日向子
理学院	宗　像　みずほ
生命科学院	藤　本　　愛
保健科学院	櫻　井　知　子
工学院	中　島　芽　梨
工学院	陳　　美　琪
総合化学院	ファン　トン
総合化学院	佐　藤　美　優
経済学院	岩　田　知　子
国際感染症学院	シュー　イン　ウィン

総長の祝辞

記念撮影

令和6年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行

3月18日（火）、高等教育推進機構において、令和6年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式が挙行されました。

この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、山本文彦高等教育推進機構長、鈴木久男総合教育部長の列席の下、山本機構長から7名の受賞者のうち2名の欠席者を除く5名に賞状が授与されました。

続いて山本機構長から、鈴木名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育っていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）

被表彰者

【第1学期被表彰者】

17組	杉尾有雛
22組	谷口智樹
24組	信定優季名
27組	佐藤　拓

【第2学期被表彰者】

16組	小林七海
47組	大塚稜平
52組	相花梨湖

授与の様子

記念撮影

令和6年度北海道大学クラーク賞授与式を挙行

3月24日（月）、高等教育推進機構において、令和6年度北海道大学クラーク賞授与式を挙行しました。

北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、北海道大学を卒業される学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

授与式では、髙橋　彩理事・副学長から、13名の受賞者のうち所属学部において表彰式を行う5名を除く8名に賞状盾が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部における表彰式は3月25日（火）、水産学部では3月26日（水）に挙行されました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	吉　江　健太郎
教育学部	蔦　保　亜　佑
法学部	鈴　木　宗　太
経済学部	岩　川　　等
理学部	原　澤　頑　太
工学部	伊　藤　　開
農学部	佐　藤　　桃
獣医学部	青　柳　博　太
水産学部	本　名　弘　忠
医学部医学科	鉢　呂　広　介
医学部保健学科	結　城　妃彩良
歯学部	小　田　彩　香
薬学部	花　沢　　瞬

授与の様子

記念撮影

令和6年北大えるむ賞授与式を挙行

3月14日（金）、事務局において、令和6年北大えるむ賞の授与式を行い、寶金清博総長から表彰状が授与されました。

北大えるむ賞は、平成9年に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を図ることを目的として創設されたものです。本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導等に優れた評価を受けたものなどに対して表彰するもので、今回は3件が採択されました。

寶金総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体受賞理由

◆ 団 体

○ 漕艇部

第51回全日本大学ローイング選手権大会に、男子舵手つきフォアにエントリーし、平成18年以来、18年ぶりにインカレでメダル獲得（準優勝、銀メダル）という偉業を成し遂げたこと。

○ 躰道部

躰道の公式大会のうち最大規模の全国学生躰道優勝大会において、男子団体実戦競技の部門で優勝（部の創立以降12年ぶり2度目の優勝）を果たしたこと。

○ 相撲部

全国国公立大学相撲選手権及び全国七大学総合体育大会において優勝したこと。

授与式での記念撮影

「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン」第34回FSPアジアを実施

高等教育推進機構では、全学教育科目「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」（通称：ファースト・ステップ・プログラム［FSP］）を開講し、海外の教育機関での授業受講、学生交流、グローバルに事業を展開する企業、研究機関、国際機関等での講話や対話、プロジェクト視察等を通して、国際インターンシップ、ボランティアや交換留学等、具体的な行動を起こしていくことを目標としています。第34回は、学生33名が引率者とともに、2月24日（月）から3月10日（月）にかけて、マレーシア、シンガポールで海外渡航研修を行いました。

大学訪問では、マネジメント＆サイエンス大学、マレーシアプトラ大学、シンガポールマネジメント大学、カーティン大学シンガポールキャンパスにおいて、授業受講や本学の紹介プレゼンテーション、マレー式の食事体験、文化交流、ディスカッション等といった学生交流を実施しました。企業・機関訪問では、国際労働機関（国連）、Bee Informatica Sdn. Bhd.、P&G APAC FABRIC CARE/BRAND、シンガポール国立大学医学研究所、Singapore Institute of Food and Biotechnology Innovation（A*STAR）、世界銀行東アジア大洋州総局環境局等で活躍されている方々に、業務の詳細や、これまでとこれからのキャリア形成についてとても印象深いお話を伺いました。

2週間という限られた期間で、受講学生は、多様な業種のキャリア・デザインの状況を実感することができました。帰国後、国際インターンシップ受講や語学研修、交換留学など具体的な行動計画をまとめて、在学中にそれらの計画を実行し、セカンド・ステップと更にその先に進むことが期待されます。

次回は令和7年度2学期に「グローバル・キャリア・デザイン」として開講します。より多くの皆さんに本プログラムを受講してもらい、留学を含む海外体験をより身近なものと感じてもらえるようさらに努めていきます。

（学務部国際交流課）

カーディン大学シンガポールキャンパス講義

マレーシアプトラ大学マレー式食事体験

スルタン・サラフディン・アブドゥル・アジズ・シャーモスク（ブルーモスク）訪問

世界銀行でのご講話

令和6年度北海道大学 HUCI&教育改革室フォーラム／SGU総括・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業採択キックオフシンポジウム「HOKUDAI国際教育のパラダイムシフト：SGUから多文化共修への深化」を開催

3月7日（金）に、シンポジウム「HOKUDAI国際教育のパラダイムシフト：SGUから多文化共修への深化」をオンライン（Zoomウェビナー形式）で開催しました。

本学は、文部科学省補助事業「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」に採択され、平成26年度から10年間にわたり大学改革と国際化に取り組んできました。本シンポジウムは、SGUの成果を総括しつつ、新たな文部科学省補助事業「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択された構想「HOKUDAI国際共創の構築」の展望を学内外の関係者に共有し、今後目指すべき道をともに考える目的で開催されました。

シンポジウムの冒頭では、寳金清博総長からの開会挨拶として、大学のグローバル化への絶え間ない努力の必要性が述べられ、髙橋　彩理事・副学長からは、10年間におけるSGUの成果が語られました。

続いて、岡田美弥子総長補佐の進行により、国際教育の特徴的な取組に関する講演が行われました。まず、弛　和順副学長から新渡戸カレッジにおけるグローバルリーダー育成教育の特色や成果の紹介がありました。石塚真由美副理事からは、Hokkaido サマー・インスティテュート、海外ラーニング・サテライト両プログラムの取組紹介や、各部局等からの協力を得てプログラム規模を拡大させたプロセスなどが語られました。加えて、教員のグローバルな研究ネットワークを活性化させ、両プログラムの仕組みを活用しボトムアップ型の「研究の教育への展開」をシームレスに行い、「ウェルビーイング社会の実現に貢献するグローバル人材育成」を実現するという、新たな構想の説明がありました。

パネルディスカッションでは、ファシリテーターとしてラフェイ・ミシェル総長補佐が加わり、髙橋理事・副学長と4名の学生（農学院修士2年坂井恭佳さん、環境科学院修士1年中山智博さん、現代日本学プログラム課程3年トンタインミンさん、農学部2年平山愛梨さん）がパネリストとして、実体験に基づき国際共修の重要性について語りました。学生からは、留学を含む国際共修を通じて、自主性や課題発見・解決力を獲得した経験が語られました。学生からは「英語を使って発信する能力を高める教育の充実」「多様なバックグラウンドを持つ教員と学生が対等に意見を交わす機会の醸成」といった提案があり、新構想を推進するにあたっての重要な示唆となりました。「海外に実際に身を置くことで得られる刺激を、多様な国際共修プログラムに積極的に参加し体験してほしい」との在学生へのメッセージがパネリストから発信され、シンポジウムが締めくくられました。

本シンポジウムは、高等教育研修センターのFDとしても実施され、本学の教職員・学生110名と22の高等教育機関から関係者41名が参加しました。なお、シンポジウム終了後には、学内の教職員を対象に令和7年度の事業実施に関する説明会が開催されました。

（学務部国際交流課、国際部国際企画課）

講演者一同（左から：岡田総長補佐、髙橋理事・副学長、石塚副理事、弛副学長、ラフェイ総長補佐）

学生を交えたパネルディスカッションの様子

Vlog動画コンテスト「How's your HokuDay?」の開催

国際連携推進本部リクルーティングオフィスでは、北海道大学の在籍学生を対象に、北大生の1日を英語で紹介するVlog（Video blog）コンテストを実施しました。当該コンテストは、リクルーティングオフィスが雇用しているインターンシップ学生が企画した初めてのイベントとなります。

このコンテストは、実際の学生が作成した北大生の1日を紹介するVlog動画を、リクルーティングオフィスのSNS（Instagram・Facebook・LinkedIn）に投稿することにより、世界中の北大留学希望者に学生目線の情報を発信し、北大の魅力を知ってもらうことを目的としています。令和6年10月から募集を開始し、令和7年1月に募集を締め切った後、審査を経て、2月26日（水）に長編部門及び短編部門の入賞者に対して授賞式を行いました。

今回の企画の入賞作品をSNSにて公開した際には、通常よりも多くの閲覧数・シェア数・コメント数があり、実際に本学に在籍する学生の声の発信に対しては、北大留学希望者からの関心も高いということを確認できるものとなりました。開催期間が晩秋から冬にかけての時期であったため、応募があった動画は冬の様子が中心の映像が多数でした。令和7年夏にも同コンテストを開催し、北大の夏の魅力も伝わってくるようなVlogを世界に向けて発信する予定です。

（国際部国際連携課）

【各部門の受賞者】

＜長編部門＞
1位：プラハ マドゥリーさん・プラティク プラシャンタ ビスワスさん（工学院）
2位：岩本琴音さん（工学院）
＜短編部門＞
1位：ハルティカイネン・エートゥ＝アンッティさん（国際広報メディア・観光学院）
2位：カーン ティッパヤックライスリさん（水産科学院）
3位：シティ カミラ ナジャさん（農学院）

授賞式参加者と三代川典史国際連携推進本部副本部長

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をすることとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	（2月28日現在）／52,920件	7,849,981,252円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	（2月28日現在）／15,872件	1,685,212,695円

＜ご寄附状況＞

2月は195件25,106,918円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団青柳皮膚科医院、医療法人社団阿部皮フ科クリニック、株式会社一寸房、浦河赤十字病院、一般社団法人Ezofrogs、医療法人社団宏仁会北郷皮膚科医院、医療法人スワンアイクリニック、医療法人社団静和会静和記念病院、株式会社Sereno、特定医療法人社団千寿会三愛病院、北大茨城県同窓会、北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同、北海道厚生農業協同組合連合会、株式会社ムラタ、株式会社ヤマナカ中原水産

寄附者ご芳名（個　人）

青井　良平	青木　俊介	赤平　幸郎	朝倉　浩司	浅沼　佳南	渥海　航	阿部　雅史	安齋　洋一
石井　哲夫	石川　久会	市川　聡	伊藤　宏	伊藤　雄三	井上　将希	猪股　路子	井原　博
今井　晋	上江洲安宏	上田　雅敏	梅本　由佳	縁記　和也	遠藤　公憲	大沢　正人	大澤　倫子
大場　耕造	大原　正範	小川　俊弘	沖崎　遼	奥芝　義人	小田原一史	小原　大和	加藤　元
兼古　学	川崎　昌美	川嶋　利瑞	川瀬　紀子	河村　裕	菅野　彰一	岸　大輔	北河　徳彦
衣川　暢子	工藤　俊哉	倉元　祥伍	栗原　誠治	上月　浩	國分　純	小林　賢人	駒井　孝博
齊藤　晋	齊藤　俊也	崎元　大志	佐々木誠一	佐々木達人	佐藤　雅彦	佐藤　優子	澤村　大輔
志済　聡子	白鳥　貴久	菅原　新也	菅原　弘士	杉江　和男	鈴木　貴之	高瀬登志彦	髙橋　彩
田栗　和奈	田代理枝子	建部紫小里	田中　智章	玉置アツコ	千明　藤二	辻　義之	辻井　正人
常泉　竜太	戸田　智弘	飛澤由紀子	内藤　輝章	長島　正剛	中村　徹	南須原康行	西田　和代
新田　秀彦	根本　叔治	花田　秀一	塙　隆夫	原　啓介	廣重　勝彦	日和　優人	福田　正晴
福永　悟郎	藤澤　裕子	藤田　芳康	古川夕里香	松井　耕二	松原　謙一	松村　若菜	真屋　幹雄
三木　證永	御園生　眞	南田　大朗	宮田　信幸	村上　広輝	村瀬徳啓充	森川　玲子	安陵　智代
山崎　勲	山田　知充	山本　聡	余湖　兼右	横山　考	吉木　咲枝		

＜寄附者への特典＞

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。

なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/ ）

＜感謝状の贈呈＞

齋藤和雄様（令和7年2月17日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

キャリアセンターと先端人材育成センターが合同で北海道大学キャリア支援シンポジウムを初開催

3月14日（金）、高等教育推進機構キャリアセンターと大学院教育推進機構先端人材育成センター合同で、北海道大学キャリア支援シンポジウムを初めて開催しました。

シンポジウムは大きく3つのコンテンツで構成され、①本学の特徴である「学部から博士まで一貫したキャリア支援に関する現状と課題の講演」、②本学・他大学・企業によるポスターセッション、③パネルディスカッションと、様々な形式でキャリア支援に関する現状・課題を共有し議論する場となりました。

冒頭、寳金清博総長から開会の挨拶、パネリストとして本シンポジウムに参加いただいた文部科学省の高見暁子氏からの挨拶の後、山本文彦理事・副学長から、本学の人材育成の取組と課題について話題提供を行いました。続いて、キャリアセンターの亀野　淳センター長、先端人材育成センターの吉原拓也センター長から、両センターのキャリア支援に関する取組の紹介と、後半のシンポジウムに向けて問題提起がありました。

続いて行われた、キャリア支援に関係する取組を掲出したポスターセッションでは、本学の様々な部署からキャリア支援に関する取組が発表されました。他大学、民間企業等もあわせて35件ものポスターが掲出された会場は大賑わいとなり、各ポスターの前では活発に質問や意見の交換が行われました。

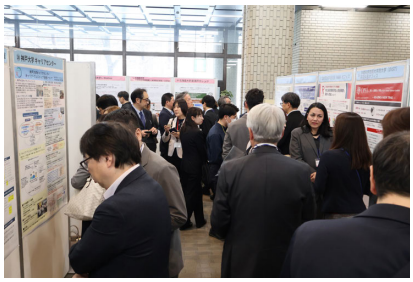
パネルディスカッションでは、文部科学省の高見氏、本学の卒業生で学生を採用する企業側の立場から旭化成株式会社の伊勢田一也氏、就職を支援するエージェントの立場である株式会社エマージングテクノロジーズの深澤知憲氏、大学で就職活動を支援・研究する立場として摂南大学の平尾智隆氏がパネリストとして登壇し、それぞれの立場からキャリア支援に関する意見交換を行いました。特に、研究大学ならではの博士人材の育成や活用について時間をとって意見交換が行われ、会場・オンライン双方から多くの質問が寄せられました。

最後に、シンポジウムを総括して本学の髙橋　彩理事・副学長から、今後のキャリア支援や人材育成の取組に期待する旨の挨拶が述べられ、閉会となりました。

初めて開催したシンポジウムでしたが、全国から対面・オンラインあわせて300名以上の参加があり、参加者からは「北大の様々な取組がよく理解できた」「定期的に開催してほしい」など多くの声が寄せられました。

（キャリアセンター・先端人材育成センター）

パネルディスカッションの様子



様々なキャリア支援の取組が発表されたポスターセッション会場

懇親会でも意見交換が活発

登壇者で集合写真

タ イ ト ル：北海道大学キャリア支援シンポジウム
日　　時：2025年3月14日（金）13:00～17:00
会　　場：シンポジウム…北海道大学学術交流会館講堂、1Fホール、懇親会…カフェdeごはん
主　　催：高等教育推進機構キャリアセンター/大学院教育推進機構先端人材育成センター
共　　催：大学院教育推進機構博士人材育成部/高等教育推進機構高等教育研究部
パネリスト：文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課　人材政策推進室長　高見暁子氏
旭化成株式会社研究・開発本部イノベーション戦略総部R&D戦略部　伊勢田一也氏
株式会社エマージングテクノロジーズ　代表取締役社長　深澤知憲氏（北海道大学博士人材コンサルタント）
摂南大学経済学部　教授　平尾智隆氏
URL　https://career-navi.synfoster.hokudai.ac.jp/career-symposium.html

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「夢を再び（PBL授業）」を開講

高等教育推進機構では、昨年度第1学期に全学教育科目「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）夢を再び（PBL授業）」を新たに開講しました。

課題解決活動を通じて実社会で必要とされる能力の習得を目指して設定された授業科目です。大学での学びと実社会を融合させた課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）にて、1年次から2年次までを対象とします。学生は自ら問題を発見し、自ら解決する能力を身に付け、主体的に物事に取り組むことが求められます。

北海道はもちろん日本を代表する洋菓子店「きのとや」を運営する北海道コンフェクトグループ株式会社（札幌市）より課題をご提供いただき、実産業社会と直結した課題設定並びに学習方法を特徴とするキャリア教育科目です。北海道コンフェクトグループ株式会社取締役会長の長沼昭夫氏よりいただいた課題に対して、科目受講生15名は5つのチームに分かれて取り組みました。

［課題1］洋菓子事業について「革命的」な改革案を構築せよ

［課題2］特定商品「札幌農学校（ミルククッキー）」販売高を10年後に現在の10倍にする根本策を提案せよ

［課題3］北海道コンフェクトグループがシンガポールで新ブランド進出にあたり業界No.1の地位確保のための戦略立案を求む

［課題4］「きのとや」が海外進出を図る際に道内企業の同業他社（競合相手）との優位差別化を提案せよ

［課題5］「きのとや」の新たなブランディング戦略－自社製造や広告によるターゲット層の拡大－

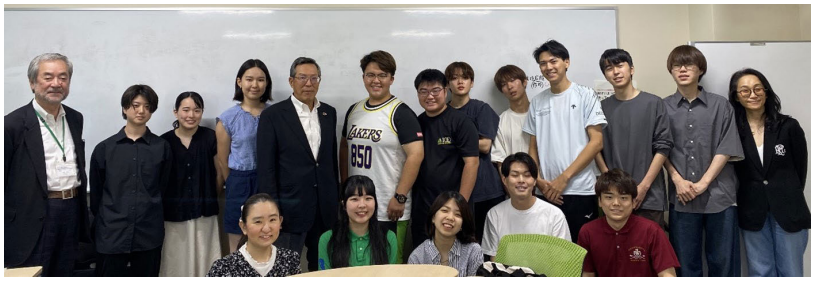
全15回の授業とチームワークを通して、受講生は「課題を発見する力」「自ら分析して目的や課題を明らかにする力」「多様な人々と目標に向けて取り組む力」を身につけました。

今年度1学期には「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）北海道のお菓子企業と世界に挑む（PBL授業）」を開講します。今年度も同社のご支援を賜りながら、グローバルに事業を展開する大手企業での経営・プロジェクトマネジメント経験を豊富に有し、幅広く産業界に熟通する教員を迎え、企業実務に直結した講義が展開されます。初年次から早い段階でのキャリア教育の展開になお一層励んでいく所存です。

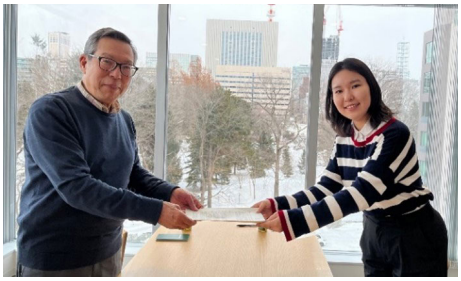
（高等教育推進機構）

長沼会長より直接ご指導（第3回授業）

大通公園店にてフィールドワーク（第6回授業）



成果報告及び御講評を終えて（第15回授業）



科目修了後、ご支援いただいた長沼会長宛てに
受講生全員より御礼状のお渡し

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」に参加

2月1日（土）・2日（日）にTokyo Innovation Baseにて開催された「2024年度文部科学省主催全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」に本学の学生4名と産学・地域協働推進機構の職員1名が参加しました。

本プログラムは、全国の大学生・大学院生・高等専門学校生を対象とした、新しいプロジェクトを立ち上げる際に役立つアントレプレナーシップを体感する2日間のプログラムです。参加者は、実践を通じてアントレプレナーシップを学ぶだけでなく、全国各地から集まる仲間とのグループワークを通じて、自己認識を深め、参加者同士の相互フィードバックによって、自身の行動様式を見直すヒントを得ることが期待されるプログラムです。

参加した学生からは「学んだことを持って帰り、北大で仲間と新しい取り組みを始めたい」「このプログラムに参加したおかげで色々な地方の学生と交流できた。同じ日本でも住んでいる場所で価値観が全然違うことに驚いた」などの声がありました。

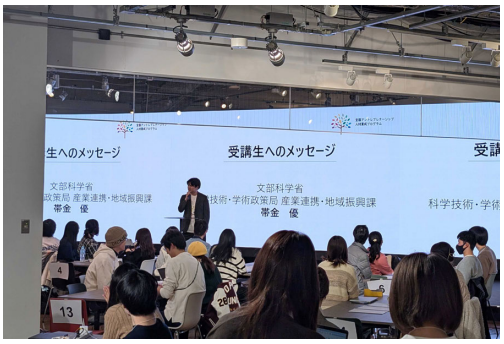
また、大学、高等専門学校の教職員向けのFDプログラムもあわせて開催されました。本プログラムは、学生が参加するプログラムの設計意図の講義や見学を通して、アントレプレナーシップ教育プログラム構築手法を学び、大学間連携の機会を得ることが期待されたものです。FDプログラムで得られた知見は本学のアントレプレナーシップ教育に活かし、他大学の教員と構築したネットワークを使った学生の国内越境プログラム構築を予定しております。

今後も産学・地域協働推進機構は、学生のアントレプレナーシップ涵養に向けた機会創出を続けてまいります。

（産学・地域協働推進機構）

概要

日　時：2月1日（土）～2日（日）
会　場：Tokyo Innovation Base（Sushi Tech Square 2階／東京都千代田区）
参加者：学生プログラム約250名（うち北大生4名）
　　FDプログラム約30名（うち産学・地域協働推進機構職員1名）



主催である文部科学省の挨拶

本学学生のプログラム参加の様子

起業シミュレーション型アントレプレナーシップ教育イベントを開催

2月1日（土）・2日（日）に、小中学生向け起業シミュレーション型アントレプレナーシップ教育イベント「起業の翼をひろげよう！」を開催しました。本イベントは本学創基150周年記念事業の一環として、産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部が主催、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）が共催し、株式会社セルフウイングが運営協力をしました。

小中学生25名、大学生・大学院生11名、中学校・高校の教員3名が参加し、課題解決型ワークショップや会社設立シミュレーションを通じて、実践的な起業体験を行いました。

1日目は大学生・大学院生、教員対象の指導者（メンター）研修を行いました。課題発見やアイデア創出、ビジネスモデルの構築の実践を通して、指導者としての役割を学びました。参加した大学生や教員からは「自分も起業に関する一連の流れを体験することで、指導法の理解が深まった」「未来の選択肢を広げる重要性を感じた」という声が寄せられました。

2日目は小学4年生から中学3年生までの25名が参加し、メンターとともに会社設立や資金調達、商品開発、販売、決算を体験しました。アンケート結果では約90％が「また参加したい」と回答し、「自分のアイデアを形にするのが楽しかった」「チームで協力する大切さを学んだ」という感想が寄せられました。

本イベントの特徴は、大学生らがメンターとなり、教育を受ける側と教育を授ける側が互いに学び合い、その学びが循環する循環型学習であることです。また、イベント内で地域の現役銀行員が銀行員役として協力するなど地域との連携の強化にも繋がりました。自ら考え、行動する力を養うアントレプレナーシップ教育を通じて、今後も次世代のリーダー育成を推進していきます。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日　程：2月1日（土）～2日（日）
会　場：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」
参加者：小学4年生～中学3年生25名、大学生・大学院生11名、中学校・高校の教員3名

模擬銀行で融資を依頼する様子

商品の宣伝をする様子

商品を販売する様子

グループワークの様子

レジリエンスアントレプレナー育成イベント「『知る』から『動く』へ法律×実践力で、災害に立ち向かう力を学ぶ」を開催

2月12日（水）にオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」にて、レジリエンスアントレプレナー育成イベント「『知る』から『動く』へ　法律×実践力で、災害に立ち向かう力を学ぶ」を開催しました。本イベントは、災害時に自らの命を守り、迅速な支援を実現するリーダーシップを養うことを目的とし、産学・地域協働推進機構及び公共政策大学院の共催で実施しました。

災害復興法学の第一人者であり、弁護士・法学博士・気象予報士でもある岡本　正氏を講師としてお招きし、東日本大震災や熊本地震などの復興支援に携わってきた経験をもとに、災害救助法の仕組みやその活用方法について講演いただきました。また、ワークショップでは「被災した際の支援制度」や「避難所運営の課題解決」など、実践的な内容が展開され、特に、男女共同参画や福祉支援を考慮した避難所環境の整備については、参加者が主体的に議論し、解決策を考える貴重な機会となりました。

参加者からは、「法律を知ることで、自分や周囲の人を守ることができると実感した」「緊急時こそ柔軟に対応する力が必要だと具体的にイメージできた」といった声が寄せられ、単なる知識の習得ではなく「社会課題に向き合い、行動できる力」を育むイベントとなりました。

北海道大学は2026年に創基150周年を迎えるにあたり、未来のリーダー育成を目指しており、本イベントはその一環としても実施され、今後も社会課題に対応できるアントレプレナー人材の育成を目指していきます。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日　時：2月12日（水）17:00～20:00
会　場：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」
参加者：高校生、大学生、大学院生、一般　45名
共　催：産学・地域協働推進機構、公共政策大学院
後　援：STARTUP HOKKAIDO、HSFC、北海道新聞社

岡本　正氏によるワークショップ

グループディスカッションの様子

参加者の様子

国際スタートアップカンファレンス「Hokkaido Innovation Week」にてサイドイベント等を実施

産学・地域協働推進機構、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）は、スタートアップのグローバルマインドの醸成、スタートアップへの投資の推進及び北海道へのスタートアップの誘致を目的とした国際カンファレンス「Hokkaido Innovation Week」において、本学や小樽商科大学の学生が中心となって企画・運営するサイドイベント等を実施しました。本サイドイベント等は道内3か所で開催し、次世代のスタートアップを生み出す中高生・大学生へのアントレプレナーシップやグローバルマインドの育成を目指した内容です。

札幌開催の「THE NORTHERN CHALLENGE 2025」ではアントレプレナーシップを学べるボードゲーム「チャレンジピッツァ」、本学金融研究会の学生が開発した投資や資産形成を学べるカードゲーム、ゲストの海外の投資家に向けた大学生らによる英語での事業ピッチコンテストを行いました。

函館開催の「Do-nan Innovation Gathering（DIG）」では、海外の投資家・起業家によるパネルディスカッションや函館の旧市街地・漁場・地域企業でのフィールドワーク、大学生による事業ピッチを行いました。

小樽開催の「Otaru Innovation Wave」では、学生起業家による海外での起業に関する講演、小樽の課題を解決するビジネスアイデアを考えるグループワークを行いました。

参加者からは「カードゲームを通して起業について知ることができ楽しかった」「英語でピッチをすることで海外にも進出できるかもしれないという自信がついた」などの声が寄せられ、参加者のアントレプレナーシップやグローバルマインドを育むきっかけを作ることができました。

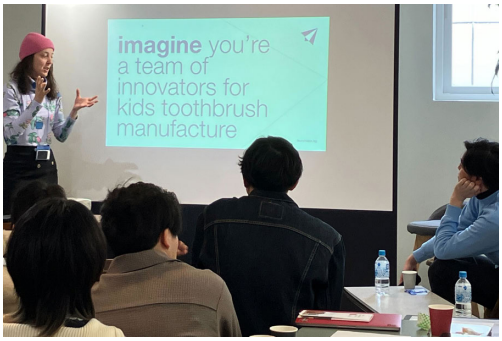
今後も北海道のアントレプレナーシップの涵養に資するべく、国際的な視野を持つ起業家人材の育成を目指し、このようなイベントを積極的に実施してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日　程：2月13日（木）、2月16日（日）
場　所：札幌（Deep Tech CORE SAPPORO）、函館（わらじ荘、航路等）、小樽（小樽経済センター）
参加者：中高生・大学生・一般

ピッチコンテストの様子（札幌）



パネルディスカッションの様子（函館）

フィールドワークで地域企業へ訪問（函館）

集合写真（函館）

メルボルン大学とのマッチングファンド2025を採択

北海道大学は戦略的国際パートナー校である豪州メルボルン大学と、令和4年に共同研究ワークショップファンドを立ち上げています。初年度は哲学、ナノ材料、住環境、高齢者医療、機械薬理学、令和5年度は先住民研究、ユーラシア研究、畜産、ウイルス学、作物遺伝、同6年度は天然物探索、持続可能なインフラ、デジタルヘルス、女性の健康、スマート材料と、3年で15件のワークショップを採択してきました。両校共同出資の下、北海道かメルボルンのいずれかでオンサイトもしくはハイブリッドの研究ワークショップを開催した研究チームからは、外部資金の獲得（高齢者医療、畜産）、デュアルディグリーの博士学生の入学開始（ナノ材料）、大学院生の双方向研究滞在、国際学会での共同セッション開催に成果が広がっています。

3月4日（火）には、4年度目の採択課題を選出する両校の合同審査会が開催され、14件の申請の中から、本学で開催する「健康の架け橋：メルボルンと北海道のこども、思春期世代、若者のウェルビーイングを統合するコホート研究」「豪日における気候変動が移民の健康に与える影響への取り組みの課題と機会」「テロワール、国、そして風土～ピノ・ノワール生産地における場所の感覚への尊重」、メルボルン大学で開催する「戦争、移民、アイデンティティ：アジア太平洋地域におけるウクライナ研究の新たな課題を探る」「先住民アートの空間と場をつくる～アートをとおした先住民の人間性を支える集いの場の開発」の計5件を採択しました。4年目に至った両校のマッチングファンドは申請件数が増加し続けており、両校の審査委員からは、研究分野と研究チームのキャリアステージが多様で、よく練られた申請が多かったことが示されました。

（国際連携推進本部、
研究推進部研究振興企画課）

「帝国の世界秩序とその後を考える北大・UMAシンポジウム」を開催

北海道大学は戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst, UMA）と、3月7日（金）、11日（火）に「HU-UMA Symposium on Post/Imperial Political Ecosystems: How Our World Has Been Shaped（北大・UMAシンポジウム　帝国の世界秩序とその後：いかに我々の世界は作られてきたのか）」を開催しました。両校は札幌農学校、マサチューセッツ農科大学の時代から長く連携関係にあり、近年は研究者のジョイントアポイントメント等を経て、主として高分子工学、情報・計算機科学、農学、工学、水圏の研究連携、文書館が所有する農学校時代の資料共有等での動きが活発化しています。

昨年11月の両校の中東地域研究者・現代史研究者のマッチングを経て開催される運びとなった本シンポジウムには、講演者及びモデレータとして本学スラブ・ユーラシア研究センターの長縄宣博センター長、青島陽子教授、デイヴィッド・ウルフ教授、メディア・コミュニケーション研究院のジョナサン・ブル講師、公共政策学連携研究部の池炫周直美教授、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職、UMAユダヤ・近東学科のデイヴィッド・メドニコフ学科長、政治学科のアンドリュー・マーチ教授、歴史学科のガレット・ワシントン准教授、アイゼンバーグ経営大学院のボフダン・プロコポヴィッチ上席講師が集いました。「アジア・中東から20世紀を再考する」「帝国の遺産：日本帝国の終焉、国境を跨ぐ人の移動、比較の文脈」「帝国後のウクライナ」の3つのセッションとパネルディスカッションから成る今回のシンポジウムは、20世紀における諸帝国の崩壊が今日の世界で我々が直面する危機にまでいかに影響を与えているかを改めて考える機会となりました。

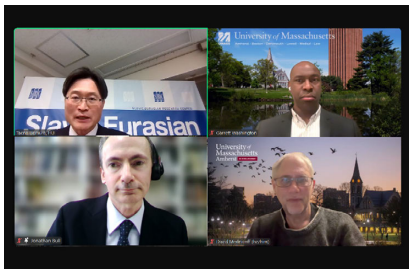
本シンポジウムには、両校の教職員と学生に加え、両国の大学教員、研究支援機関、外務省出身者、病院関係者から、インド科学技術大学、ポルトガルのリスボン大学、イスラエルの医療機関、インドネシアの漁業関係者まで70名が参加登録し、地域を超えた関心の高さがうかがえました。参加者からは、「大戦後や帝国崩壊に伴う引き揚げの状況を伝える戦争資料博物館の展示物を比較することで我々が学ぶべきことは何か」「博物館のキュレーターにインタビューする場合、インタビュアーの国籍や立場が回答に影響することは否めないのではないか」「ソ連崩壊後のロシアが西側に溶け込もうとしてきたのは意図的な策略だったのか」「多民族国家における権威主義体制には先行する帝国秩序の遺産が作用しているのではないか」「欧米がよかれと思って行う法秩序形成の支援が中東において感情的な反発を招き、対話を難しくする局面がある」等の質問や意見がありました。

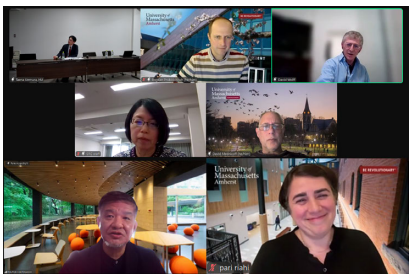
本学の髙橋　彩理事・副学長（国際担当）からは、「スラブ・ユーラシア研究センターの『生存戦略研究プラットフォーム』とUMAの連携により、更に多角的な視点と研究の深化を期待する」ことが述べられ、瀬戸口剛理事・副学長（研究担当）からは、「人文社会学は異分野融合研究においても重要性が認識されているが、大学コミュニティの中と外とを繋ぐ力でもある」との発言がありました。UMAのカルペン・トリヴェディ国際担当副プロボストからは、「数年前にUMA研究担当執行部が国際連携方針を固める際、北大との連携に力を割くということで一致した。両校の連携は2025年度から始まる、研究者のモビリティ支援でも広がっていく」との見立てが示され、人文学・芸術学研究院のパーリ・リアーヒ副研究院長（研究連携担当）からは「人の心と想いには物語る力が、人文社会学には物事を可視化し理解する力がある。今回も分野をまたぐ研究者が集まり、時間と空間を超越した思索の共有となった」との話がありました。帝国崩壊の遺産を引きずる中東とウクライナ、冷戦が完全には終わっていない東アジアの日本について日米の研究者が議論を交わすことの学術的な意義は大きく、今般のイベントで得たアイディアをさらに発展させるべく、講演者たちは今年度中に本学で再会することが決まっています。

・生存戦略研究プラットフォーム
https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/srcw/

（スラブ・ユーラシア研究センター、国際連携推進本部）

フライヤー


1日目の様子


2日目の様子：パネリストたちと瀬戸口理事（左下）とリアーヒ副研究院長（右下）

北海道大学×日本証券業協会SDGsシンポジウム「北海道から拓く持続可能な未来－産官学連携によるGX金融の推進－」に横田　篤理事・副学長が登壇

3月14日（金）に、本学及び日本証券業協会の主催によりSDGsシンポジウム「北海道から拓く持続可能な未来－産官学連携によるGX金融の推進－」（会場：東京ミッドタウン八重洲カンファレンス）をハイブリッド形式で開催し、両機関及び証券業・金融業界関係者など115名が参加しました。

シンポジウムでは、横田　篤理事・副学長が「北海道大学のサステイナビリティ・SDGsへの取り組み」と題して基調講演を行いました。横田理事・副学長は、札幌農学校を前身とする本学の歴史的背景から、本学がSDGs課題解決の中核をなすフィールドサイエンスに強みを持つ大学として国際的に高く評価されていること、戦後、教養課程の設置に際して、教養教育と専門教育を峻別せず、学部や研究所に所属する教官が全学出動で講義を担当する「全学支援方式」を採用することで学際的な教育研究活動が進んでいることを紹介しました。具体例として、「スマート農業教育研究センター」「リニューアブルエナジーリサーチ＆エデュケーションセンター（REREC）」の設置及び「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に本学が採択されたことなどを説明し、本学が社会から共感（学外エンゲージメント）を得ながら、社会的インパクトを与える大学を目指していると述べました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、横田理事・副学長及び宮下和士北方生物圏フィールド科学センター長がパネリストとして登壇しました。宮下センター長は、REREC の代表として、ネイチャーポジティブ*1及び地域社会ポジティブ*2の両立に貢献するGXを目指していることを説明しました。横田理事・副学長は、本学がTeam Sapporo-Hokkaidoに参画し、GX推進に向けた産学官連携による技術開発や、日本証券業協会や三菱UFJ信託銀行株式会社と協同して、金融人材育成に取り組んでいることなどを紹介しました。

*1 ネイチャーポジティブ…生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること。

*2 地域社会ポジティブ…地域のコミュニティ自身で地域の課題解決力を高められるよう、場づくり及び仕組みづくりをデザインの力で支援し、地域が自律的・持続的な社会へと変化していくための活動となる地方創生を実現すること。

（サステイナビリティ推進機構）

基調講演を行う横田理事・副学長

シンポジウム（会場）の様子

パネルディスカッションの様子（右から1人目：宮下センター長、同2人目：横田理事・副学長）

パネラーを務める宮下センター長

シンポジウム概要

タ イ ト ル：北海道大学×日本証券業協会SDGsシンポジウム
　　北海道から拓く持続可能な未来－産官学連携によるGX金融の推進－
日　　時：令和7年3月14日（金）18:00～19:30
場　　所：東京ミッドタウン八重洲カンファレンス　※オンライン配信有
プログラム：開会挨拶　日本証券業協会専務理事　松尾元信
　　基調講演　北海道大学理事・副学長　横田　篤
　　パネルディスカッション
　　タイトル：北海道におけるGX金融、産官学連携による推進可能性
　　モデレーター　DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
　　サステナビリティサービス統括部プリンシパル　金留正人
　　パ ネ リ ス ト　脱炭素成長型経済構造移行推進機構（GX推進機構）理事　高田英樹
　　北海道大学理事・副学長　横田　篤
　　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長　宮下和士
　　三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社フェロー　吉高まり

ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」の健康イベントに364人が参加

北海道大学他4者で進めるウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」では、3月9日（日）に令和7年の第1弾となる「無料で健康チェック！」（以下、本イベント）を実施し、過去最多となる364人の参加がありました。

令和5年から開始した本イベントは、これまで合計1,400人以上が参加し、回を重ねるごとに、満足度やリピート率が向上しており、参加者の健康意識の醸成に大きく寄与する取組となっています。また、本学を含む複数大学の学生が運営に参加しており、地域の健康づくりに興味がある学生に向けたボランティア活動の機会にもなっています。

今回は、「ハカル」「タベル」「ウゴク」をテーマに、従前から実施している「脳年齢測定」「骨健康度測定」及び推定野菜摂取量が測定できる「ベジチェック®」に加え、エア・ウォーター・ライフサポート株式会社の協力のもと、新たに身体のゆがみチェックや自身にあった運動ができる「TANO（タノ）」でのトレーニング体験を実施しました。

また、大塚製薬株式会社による「大人の栄養バランス診断＆試飲ブース」、札幌市北区介護予防センター新道南による「認知症予防ブース」及び健康チェックの結果について薬剤師に相談できる「結果相談ブース」などへも多くの参加があり、「ハカル」「タベル」「ウゴク」をテーマとして実施した本イベントは盛況のうちに終了しました。次回は6月1日（日）に開催予定です。

（サステイナビリティ推進機構、保健科学研究院）

名　称：無料で健康チェック！
日　程：令和7年3月9日（日）10:00～17:00
場　所：スーパーアークス北24条店1F及び2F（札幌市北区）
主　催：北海道大学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、札幌市
協　力：エア・ウォーター・ライフサポート株式会社、大塚製薬株式会社、
　　札幌市北区介護予防センター新道南、北海道キリンビバレッジ株式会社
対　象：一般市民
参加費：無料

身体のゆがみチェックと自身にあった運動ができる「TANO（タノ）」

骨健康度測定の様子

従前から実施する脳年齢測定は、今回も多くの方が体験した

管理栄養士がアドバイスを行う「栄養相談」ブース

第2回北大女性教授ネットワーキングの会を開催

3月11日（火）、第2回北大女性教授ネットワーキングの会を、附属図書館本館にて開催し、計27名（オンライン10名含む）が参加しました。本会は、北大の女性教授を対象に、まだまだ数が少ない女性上位職者が孤立することなくそれぞれの能力を発揮して活躍できるよう、学内のネットワーク強化を目的に、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部（以下、DEI推進本部）女性研究者育成支援部門の教員が企画・運営を行いました。

第1部では、スラブ・ユーラシア研究センターの青島陽子教授、地球環境科学研究院の三輪京子教授、歯学研究院の樋田京子教授に「女性教授からの話題提供」と題し、マイノリティである女性研究者として、研究室運営や日々の困りごとをどのように解決すると良いか、DEIを推進していくためにこれまで考えてきたこと等についてお話しいただきました。続く第2部では、女性研究者育成支援部門長の小川美香子薬学研究院教授がファシリテーターとなり、第1部でのお話を基に、参加者によるグループトークと全体共有が行われました。

参加者からは「身近に女性教授が少ない環境にいる私たちにとって、他の分野の多くの人の体験や悩みを共有することは、励みになります」「ダイバーシティを考える上でも視野が広がり、良い刺激になりました」「事務補助員の雇用について様々な事例等お話をうかがえてよかったです」等の感想がありました。

今回が2回目の開催となりましたが、初めて参加される方も多く、部局や研究分野を越えて交流を深める貴重な場となり、終了後もお話が尽きず大変盛会裏に終えることができました。DEI推進本部では、今後も女性研究者のネットワーキングの会を年に数回、継続して実施していく予定です。

（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部）

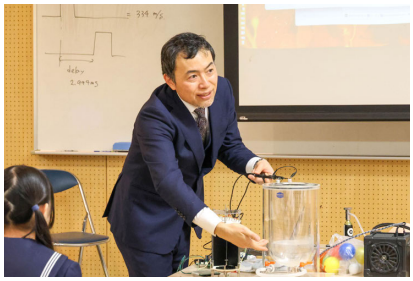
グループトークの様子

女性教授及びDEI女性研究者育成支援部門の教員

「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ講師が講義、見学を実施

大学での学びや最新の研究についての講義を受講した生徒、及び教員の皆様から、感想をいただきましたのでご紹介します。

「超音波で「観る」固体中の電子」　理学研究院　教授　柳澤達也



受講した生徒からは、「身の回りに超音波を利用している装置がこんなにたくさんあると知らず驚いた。社会への応用は工学が強いイメージだったが、物理もかなり応用されていると分かった」「基礎研究が非常に重要であることを実感した。高校の学習をもとに、新たな学習を大学で進めていきたい」「実験で面白さを感じることができた」との感想が聞かれました。

日　　時：2024年11月27日（水）15:50～17:20
会　　場：北海道札幌北高等学校
参加生徒：1・2年生　18名

「環境と健康のデータサイエンス」　環境健康科学研究教育センター　特任講師　田村菜穂美

受講した生徒からは、「研究計画を立てる図を作ることを実際に経験することができ、今後の研究でどのような手順を踏めばうまくいくのか知ることができてよかった」「ひとつの結果に何個もの要因があることがとても興味深く、それを研究で突き止めていくのがとても面白かった」との感想が聞かれました。

日　　時：2024年12月9日（月）13:25～15:05
会　　場：北海道釧路湖陵高等学校
参加生徒：1年生　約200名

「人工知能（AI）を使って未来の医療を作る」　医学研究院　教授　工藤與亮

受講した生徒からは、「AIと医療の関わりについて、知らなかった側面や、今後どのようにアプローチしていけば良いのかについて知ることができた」「医学における人工知能の利用というものをイメージできた」の他に、「医療に関わる方法は医療従事者になるだけではないことが分かって、視野が広がった」などの声が寄せられました。

日　　時：2024年12月10日（火）15:50～17:20
会　　場：北海道札幌北高等学校
参加生徒：1・2年生　53名

「放射線を利用した生体内イメージングと治療」　北海道大学病院　助教　渡邊史郎

受講した生徒からは、「将来の自分の仕事について考えることができ、勉強に対するモチベーションが上がった」「核医学分野の面白さを知ることができ、興味がわいた」「学生時代の話や、医師になってからのビジョンについて考えるきっかけになり、より具体的に進路について考えることができた」などの声が寄せられました。

日　　時：2024年12月16日（月）16:00～17:30
会　　場：北海道札幌東高等学校
参加生徒：1・2年生　21名

「ロボットとコンピュータによる化学空間探索」　創成研究機構化学反応創成研究拠点　特任准教授　原渕　祐

生徒からは「専門用語を多く使った説明だったため、より高度な領域に踏み込むことができ、大学での学びに関心が持てた」との声や、「もしも計算コストが一般人でも使えるレベルで安くなったら、架空の物質を作ってそれに至りそうな経路を計算して遊びたい。全体的に夢のある内容だった」「普段だと見ることができない世界でもトップレベルの研究施設を見学して、化学に対してますます興味を持つことができた」などの感想が寄せられました。

日　　時：2024年12月17日（火）14:30～16:30
会　　場：創成研究機構化学反応創成研究拠点（ICReDD）
参 加 校：北海道北広島高等学校
参加生徒：2年生　29名

「ナノテクノロジーが拓く新しい電池」　理学研究院　准教授　小林弘明

生徒からは「電池の構造について難しく感じたが、電池の可能性が広いことを知ることができてとても興味深かった」との声や、「内容は難しかったが、わかりやすく説明してもらい、話についていくことができた。北海道大学への関心がたいへん深まった」などの感想が寄せられました。

日　　時：2024年12月17日（火）①13:30～14:20　②14:30～15:20
会　　場：北海道登別明日中等教育学校
参加生徒：3・4回生（中学3年生～高校1年生）①10名　② 5名

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ（Academic Fantasista）」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。2024年度は北海道の高校等を対象に29名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/
・Facebook　　@Hokkaido.univ.taiwa

（広報・社会連携本部）

リサーチタイムズ

Facebook

▌部局ニュース

経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催

経済学院では、令和元年度から、教育・研究の国際化及び留学生支援を促進することを目的として、優れたチューターに対して「ベスト・チューター賞」を授与しています。今年度は、最優秀賞に修士課程1年生の野口颯馬さん、優秀賞に修士課程2年生の趙　文燦さんが選出され、3月25日（火）に百年記念会館大会議室において表彰状が授与されました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

受賞者との記念撮影

メルボルン大学とのジョイントワークショップを開催

理学研究院の上野貢生教授は、メルボルン大学のクリストファー・ホール博士と共同で、3月3日（月）～4日（火）にメルボルン大学において「Photochemistry, Nanophotonics, and Smart Materials」をテーマにした共同ワークショップを開催しました。本ワークショップは、北海道大学とメルボルン大学間での国際研究協力を深めることを目的としており、双方の研究者が集まり、最新の研究成果を発表し、今後の共同研究に向けた意見交換を行いました。

本ワークショップは、北海道大学・メルボルン大学合同研究ワークショップファンドの支援を受けて開催されました。この助成金により、研究者間の活発な議論や共同研究の基盤を築く貴重な機会を得ることができました。この場を借りて、ワークショップファンドに対して深い感謝の意を表したいと思います。

ワークショップには、理学研究院や情報科学研究院から教員4名、また、総合化学院や情報科学院から博士課程学生5名が参加し、それぞれの研究成果を発表しました。メルボルン大学側からは、ホール博士をはじめとする研究者たちとともに、双方の研究者たちが互いの専門領域について知見を深め、協力関係を築くための貴重な場となりました。本学からは、理学研究院の教員や情報科学研究院の教員が最先端の研究結果を紹介し、また、総合化学院や情報科学院の博士課程学生が国際的な舞台で研究発表を行い、英語での発表や質疑応答を通じて、国際的な研究者としてのプレゼンテーション能力を高めることができました。

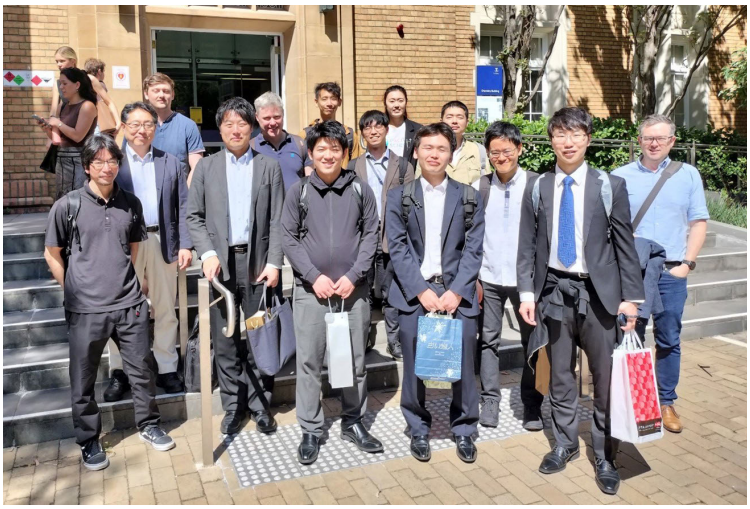
ワークショップでは、共同研究の方向性についても具体的な議論が行われました。研究サンプルの交換や共同実験、さらには国際的な研究助成金の申請に向けた協力体制について、詳細な話し合いが進められました。これにより、両大学間での共同研究の基盤がさらに強化され、今後の研究活動を進めるための具体的なステップが設定されました。特に、日本学術振興会助成金などの国際的な研究助成金の申請に関しても協力し、共同研究を推進するための資金調達を目指しています。

参加した北海道大学とメルボルン大学の研究者たちは、今後さらに連携を深め、共同研究を進展させることに強い意欲を示しました。これにより、両大学間での共同研究が一層進展し、将来的には国際的に発信できる研究成果を生み出すことが期待されます。

（理学研究院・理学部）

北大側代表の上野教授（左）と
メルボルン大学側代表のホール博士（右）

オープニングリマークスを行うホール博士



化学科の前での記念撮影

令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第2期生修了式を開催

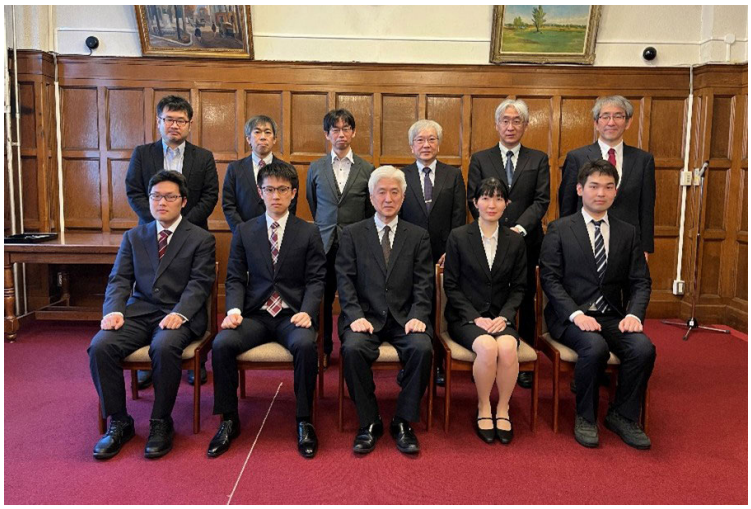
3月18日（火）、令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラムの第2期生（博士後期課程3年次4名）の修了式が、理学部大会議室にて執り行われました。このプログラムは、広義の物質科学分野を専門とする大学院生に対して、専門分野の研究にとどまることなく、スマート物質科学力並びに社会実装実現力を養成するものです。

修了証書授与の後、修了した4名がこれまでの活動を振り返って挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、武次徹也プログラムコーディネーター（理学研究院教授）が2期生にはなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）をご覧ください。

https://phdiscover.jp/phd/article/3183

（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院・情報科学院）



プログラム教員・指導教員と第2期生の集合写真

はなむけの言葉を贈る武次コーディネーター

修了証書授与

令和6年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催

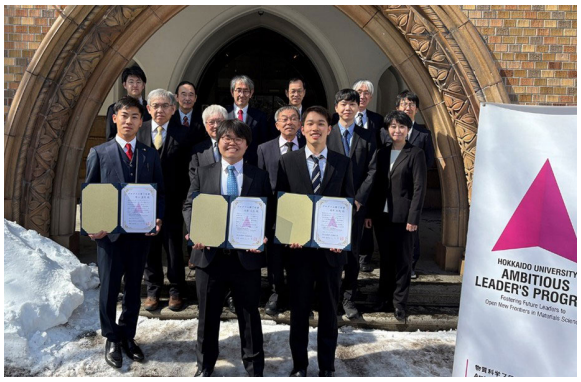
3月19日（水）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）7期生3名の修了式が、90年以上の歴史がある理学部本館大会議室にて執り行われました。ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけではなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成するための博士課程大学院教育プログラムです。令和2年3月に文部科学省の補助金事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。

修了証書授与の後、第7期生として修了した3名がこれまでの活動を振り返って、一人ずつ挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、石森浩一郎理学研究院教授（プログラムコーディネーター・副学長）が7期生にはなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）をご覧ください。
https://phdiscover.jp/phd/article/3192

（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院）

修了するALP7期生（3名）



プログラム教員と第7期生の集合写真

はなむけの言葉を贈る石森コーディネーター

医学研究院医理工学グローバルセンターが第7回GCB分子生物医科学・診断学ウィンタースクール及び第11回GCB医学物理ウィンタースクールを開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、2月17日（月）～21日（金）の5日間、米国スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で第7回GCB分子生物医科学・診断学ウィンタースクール及び第11回GCB医学物理ウィンタースクールを開催しました。

例年はサマースクールとして、夏に開催している本スクールですが、冬開催の要望が多かったことから、本年度は開催時期を変更して行いました。今回も例年に劣らず海外から多くの応募があり、厳正な書類選考の結果、ドイツ、ポーランド、エジプト、インドネシア、韓国、タイ、アメリカ、日本から、医学物理ウィンタースクールには4名、分子生物医科学・診断学ウィンタースクールには6名が参加しました。また、本スクールは医理工学院の科目としても開講しているため、4名の履修登録もあり、多様なバックグラウンドを持つ受講者が一堂に会しました。

本スクールは毎回多彩な講師をお招きし、理論と実習を網羅した包括的な教育プログラムを提供しています。スタンフォード大学の教員のみならず、今回はアリゾナ州立大学、京都大学、量子科学技術研究開発機構、日立製作所、統計数理研究所からも講師陣を迎え、学内からは、医学研究院、工学研究院、保健科学研究院、歯学研究院、理学研究院、北海道大学病院、アイソトープ総合センター、獣医学研究院所属の教員が全編英語のオムニバス形式にて講義を実施しました。また、受講者が主体的に参加できるハンズオントレーニングや自身の研究について発表できる機会があるのも本スクールの魅力の一つです。研究発表会では、言語・文化・社会的背景を持つ受講者がお互いから学び合う姿が大変印象的でした。プログラム最後のセッションでは、本センター副センター長兼医理工学院長の久下裕司教授から受講者一人一人に修了証が手渡されました。

受講者によるアンケート結果からはプログラムの充実度と運営面で大変高い評価が得られ、「また参加したい」「友人や職場の仲間にも参加を勧める」との声が多く寄せられました。海外から参加した受講者のみならず、本学の学生にとってもグローバルな研究交流が深められる貴重な機会となりました。今後も本センターの特色を活かした国際連携教育活動に取り組んでまいります。

（医学研究院）

講義の様子

実習の様子

修了証を手にする受講者

スタンフォード大学の教授を囲んで

医学部が令和6年度最終講義・退職記念式典を挙行

医学部では、3月10日（月）、医学部学友会館「フラテ」ホールにて、令和6年度最終講義・退職記念式典を挙行しました。

3名の教員による最終講義が行われた後、引き続き退職記念式典が行われ、畠山鎮次医学研究院長、浅香正博医学部同窓会会長及び教授会代表者として真部　淳教授から挨拶がありました。続いて、長年の功績をたたえ、感謝の意を込めて、医学部医学科学友会の畠山会長と医学部同窓会の浅香会長から記念品が贈られ、学友会及び所属教室からは花束が贈呈されました。

【最終講義】
解剖発生学教室　渡邉雅彦　教授
最終講義題目「北大での33年間を振り返って」

形成外科学教室　山本有平　教授
最終講義題目「私の顔面外科史～形態、機能、美」

先進医療マネジメント学教室
佐藤典宏　教授
最終講義題目「新しい医療の創出を支えるために」

（医学院・医学研究院・医学部）

最終講義をする渡邉教授

最終講義をする山本教授

最終講義をする佐藤教授

関係者による記念撮影

歯学研究院で統合URA本部との共同企画セミナー「共同研究がもたらす研究力向上と今後の発展～国内共同研究から国際協働へ～」を開催

歯学研究院では、統合URA本部との共同企画により、3月13日（木）に「共同研究がもたらす研究力向上と今後の発展～国内共同研究から国際協働へ～」と題したセミナーを開催しました。これは、組織や個人など、様々な評価の場面において、国内外の協働、特に国際共同研究に焦点が当てられる中、時間的、マンパワー的な観点から、各専門分野の研究者、そして世界のトップランナーとの協働により、自らの研究目標を達成するための一助としてもらうべく企画されたものです。

セミナー当日は、まず統合URA本部の佐藤　崇URAから、「科研費を含めた外部資金獲得の今後の変遷と学部評価」と題して説明があり、令和7年度における歯学研究院の科学研究費助成事業への応募及び採択率は、全学的に見て良好であるが、科学研究費助成事業が国際性の重視されるものに変更されてきている状況下で、国際共同研究や国際共著論文の増加が、各研究者及び大学への高評価並びに研究環境の強化のため非常に重要であるとの話がありました。

その後、歯学研究院の長谷川智香准教授、友清　淳教授及び岩崎正則教授から、それぞれ大学、企業、自治体そして海外の研究機関との協働について、自身の経験を基に講演がありました。3名の教員からは、「共同研究が自らの研究力を高める手段の一つになり、新たな外部資金獲得の基盤にもなる」「餅は餅屋であり、それを得意としている相手先を探すことも重要」「常に外に対してアンテナを張っておくことが大事」「大学、学部及び教室間の国際交流は国際共同研究の基となる人脈形成の格好の場」「国際会議や学会では、とりあえずたくさん挨拶し、自分の研究業績や研究内容をいつでも話せるよう準備しておく」等々、特に新たに共同研究に踏み出そうという研究者に対して、多くの示唆に富んだ内容であるとともに、平易な言葉を使っての和やかな雰囲気の中で、心構え次第で誰にでもそのチャンスはあるということを印象付ける機会となりました。

終了後のアンケートでは、「科研費の今後の変更点についてわかりやすい説明を聞くことができた」「歯学研究院での研究取り組みが、学内のみならず国内、国外を含めたプロジェクトになっていることを知ることができた」「人脈と技術が共同研究の創出、発展に重要であることがわかった」などの意見が寄せられました。

最後に、網塚憲生研究院長から、本日発表された教員の成果は、決して共同研究ありきではなく、日々の自身のまっすぐな仕事を通じて生まれた出会いを契機として発展したものであり、出席者の今後の研究活動に大いに期待したいとの激励の挨拶が述べられました。

（歯学研究院）

講演する佐藤URA

講演する長谷川准教授

講演する友清教授

講演する岩崎教授

薬学研究院で生成AIに関するFD研修会を開催

薬学研究院では、2月13日（木）、臨床薬学講義室において令和6年度FD研修会を開催しました。本学高等教育研修センターの立花　優特任講師をお招きし、「生成AIを教育・研究にいかに統合するか：ツールから戦略まで」と題して講演いただきました。当日は、43名の参加者が対面で聴講し、活発な質疑応答が行われました。

令和4年のChatGPTの登場から、直近では中国におけるDeepSeekの開発など、生成AIは日々高度化、多様化が進むとともに、身近なツールとして徐々に社会に浸透してきています。そのため、教育・研究分野においても生成AIへの対応や有効利用は喫緊の課題として位置付けられます。しかし、そのツールは多岐にわたり発展途上にあるため、現時点で有効かつ画一的な対応策を取ることは難しく、まずは現状を知り、生成AIによってもたらされる教育現場の変化や研究活動への応用可能性を想定することが重要です。実際に立花特任講師からは生成AIの利用を禁止することは現実的ではないため、授業や評価法などをより厳密に設計していく必要があるとの提案がありました。最新の生成AIツールも数多く紹介いただき、さらに実際に使用方法についても解説いただき、非常に有意義なFD研修会となりました。

（薬学研究院・薬学部）

講師の立花特任講師

FD研修会の様子

薬学研究院が「第20回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、3月6日（木）に「第20回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、木原章雄薬学研究院長による開会の挨拶の後、精密合成化学研究室の森崎一宏助教による「金属の特性を活かした精密有機合成～含フッ素化合物と非天然アミノ酸の合成～」と題する発表及び、臨床薬剤学研究室の鳴海克哉講師による「医療データベースを活用した医薬品相互作用研究および臨床応用への展開」と題する2件の研究発表が行われました。

本発表会には、教員47名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーション能力の向上に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は8月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）

発表する森崎助教

発表する鳴海講師

工学部で救急救命講習会を開催

工学系部局では、2月28日（金）に札幌市消防局北消防署幌北出張所から講師を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAEDによる処置が可能となる」目安を満たすよう、13か所にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。

本講習会は、学内外にかかわらず心肺停止に陥った人がいた場合、AEDの利用などにより救急救命措置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に毎年実施しているものです。

今年度は教職員・学生ら7名が参加し、心肺蘇生法やAEDの使い方を学びました。前年度とは変わって、新しく消防署職員を講師として呼んだことにより、消防の観点から見た救命措置のあり方や、119番通報を行う際に役立つ知識が説明され、参加者は興味深く聞き入っていました。

工学系部局では、次年度以降も救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、
情報科学院・情報科学研究院、
量子集積エレクトロニクス研究センター）

講習会の会場

心肺蘇生法の実習の様子

国際広報メディア・観光学院が台北にて留学生向け説明会を実施

国際広報メディア・観光学院は、2月9日（日）、台北市内コンベンションホールにて、留学生向け説明会を開催しました。今回は対面とオンラインのハイブリット開催となり、約22名（対面8名、オンライン約14名）の参加がありました。加えて、在学生・修了生が対面3名、オンライン2名参加しました。

奥　聡学院長の挨拶に続き、例年通り、学院の紹介、入学試験の概要、研究生と大学院生としての学修システム、書類審査応募の注意点、研究生としての勉強、大学院修了後の進路など、留学希望者にとって必要な情報が提供されました。全体説明終了後は使用言語ごとに分かれ、ハイブリットで個別相談と質疑応答の時間が設けられました。また、在学生・修了生からも、自らの体験をもとにしたきめ細やかな説明や助言が行われました。

説明会後に実施した参加者アンケートでは、回答者全員が説明会を「とても役に立つ」（60.0％）、「役に立つ」（40.0％）と評価しました。具体的には、「入学の流れに関する説明」「入試内容や研究計画書の作成についての詳しい説明」などが高く評価されました。また、「先生方や院生の雰囲気を知ることができた」といった対面開催を好意的に評価する感想もいただきました。

説明会を通じて、参加者の本学留学への熱意と関心の高さを感じており、今後も対面とオンラインのそれぞれの強みを生かして、様々な地域で説明会を開催することを前向きに検討していきます。これにより、学院の多様性をさらに高め、より多様なバックグラウンドを持つ学生との交流を促進し、豊かな学びの機会を提供していきます。

（国際広報メディア・観光学院）

説明会の様子

国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・セッション」を開催

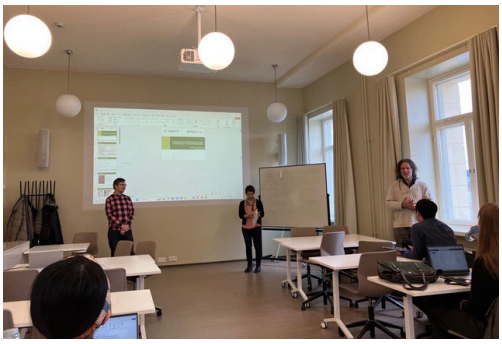
国際広報メディア・観光学院では、3月10日（月）～13日（木）にフィンランドのヘルシンキ大学において「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project: TLLP）・スタディ・セッション」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、英国シェフィールド大学、フィンランド・ヘルシンキ大学、オーストラリア・メルボルン大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。このプロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニング、またその進展をオンライン上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・セッション」を年に1回開催しています。

本年度のスタディ・セッションは、ヘルシンキ大学で海外ラーニングサテライト事業として開催されました。本学院からは6名（大学院生4名、教員2名）を派遣し、ヘルシンキ大学、メルボルン大学、ドイツのハインリッヒ・ハイネ・ドュッセルドルフ大学から各1名の大学院生と、開催校であるヘルシンキ大学から教員4名、メルボルン大学から教員1名が参加しました。セッションでは、学生による研究発表、教員による講義、ワークショップなど、様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、本学の学生は英語で、海外の参加大学の学生は日本語で研究発表を行いました。また、学生はセッションチェアも担当し、学会等でどのようにセッションをチェアするかを経験する機会となりました。数か月にわたり、発表要旨、パワーポイント、発表原稿などについてお互いの研究をオンライン上で研鑽してきた成果が、スタディ・セッションで発揮されました。

平成26年以降開催されてきたTLLPスタディ・セッションも11年目を迎えました。来年は本学での開催が予定されており、複数の大学からの教員と院生が集う予定です。今後も、国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学とのこのような教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



北大教員による挨拶

北大学生による発表風景

日米緊急対話「トランプ復活とロシア・ウクライナの行方」を開催

スラブ・ユーラシア研究センター「ウクライナ及び隣接地域研究ユニット（URU）」及び「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」は、東京大学先端科学技術研究センター・創発戦略研究オープンラボ（ROLES）との共催により、3月6日（木）にセンター大会議室において、日米緊急対話「トランプ復活とロシア・ウクライナの行方」を開催しました。米国よりロシア政治・外交研究の第一人者であるマイケル・キメッジ教授（ウィルソン・センター　ケナン研究所所長）が来日した機会を捉えた企画で、日本側からは、軍事面を中心にロシアを鋭く斬る論客として活躍の著しい小泉　悠東京大学先端科学技術研究センター准教授が登壇し、スラブ・ユーラシア研究センターの服部倫卓教授がモデレーターを務めました。

本年1月に米国で第2次トランプ政権が成立して以来、トランプ大統領の言動に世界が大きく翻弄される状態が続いていますが、ロシア・ウクライナ情勢はその最たるものです。対ウクライナ支援及び対ロシア制裁の姿勢を堅持し、G7の結束を重視していたバイデン前政権とは打って変わって、トランプ政権は早期停戦のためにはウクライナ支援の停止やロシアとの妥協も辞さない構えです。このように情勢が急変する中で、今回の日米緊急対話においては、キメッジ教授がバイデン政権からトランプ政権への移行に伴う米国の対応の変化につき報告を行い、小泉准教授はロシア・ウクライナ戦争の構図と基本的視点につき改めて問題提起を行いました。その上で、フロア及びオンライン参加者を交えて、討論が行われました。

日米を代表する論客がタイムリーなテーマについて議論する企画だっただけに、リアルタイムでは対面・リモートを合わせて300人を超える参加者がありました。また、後日YouTubeにアップした動画は、3月末時点ですでに3万回近く再生されています。
https://www.youtube.com/watch?v=97hUwDSOImg&t=2354s

（スラブ・ユーラシア研究センター）

小泉氏（一番左）とキメッジ氏（左から3番目）

日米緊急対話の会場の様子

令和6年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、1月28日（火）～30日（木）の3日間、本学及び全国の大学技術職員を対象とした令和6年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催しました。本研修は教育研究支援業務に関する専門的知識と技術を広く習得することを目的に毎年開催しており、令和元年度以来5年ぶりとなる対面（一部オンラインとのハイブリッド）形式での開催となりました。今年度は37名（うち、帯広畜産大学2名、鳥取大学3名、琉球大学1名）の参加があり、施設見学、技術発表、講義等を行いました。

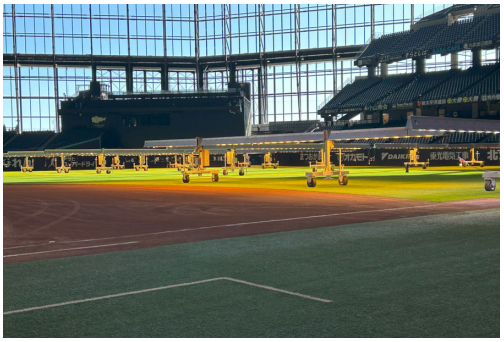
28日（火）は、北広島市のエスコンフィールドHOKKAIDOを訪問し、球場の概要や開閉式屋根付き施設における芝生の管理手法について説明を受けました。午後には隣接した農業学習施設KUBOTA AGRI FRONTに移動し、ガラスハウスや植物工場での作物栽培の様子の見学や、農業経営ゲームAGRI QUESTの体験などを行いました。

29日（水）からはスマート農業教育研究センターに会場を移しました。技術職員5名による技術発表の後、生物生産研究農場の佐藤浩幸技術専門員による講義を受けて、スマート農業教育研究センター内の遠隔監視室（NTT東日本ミライ共創Room）、スマートイノベーションルーム、ロボット格納庫を見学しました。午後は東日本電信電話株式会社北海道事業部の長部　功氏による「無線通信方式の最新状況とNTT東日本のスマート農業の取組み」及び室蘭工業大学の北沢祥一教授による「IEEE802標準化活動」の2件の講義が行われ、その後、水圏研究領域生態系変動解析分野の福井信一技術専門職員による「Wi-Fi HaLow™対応カメラシステム構築の実際」と題した実習により会場内外の様子を撮影しながら理解を深めました。

30日（木）は耕地圏研究領域の小松知未准教授による「スマート農業技術の利活用実態と農業経営に与える影響―トラクタ自動化を中心に―」、生物生産研究農場の中野有紗特任助教による「画像認識AIの活用」の講義及び生物生産研究農場の角田貴敬特命職による先輩講話が行われ、午前で研修は終了となりました。なお、30日（木）午後にはWi-Fi HaLow™アクセスポイントと遠隔カメラシステムによる通信試験を植物園で行い、一部の研修参加者が見学しました。

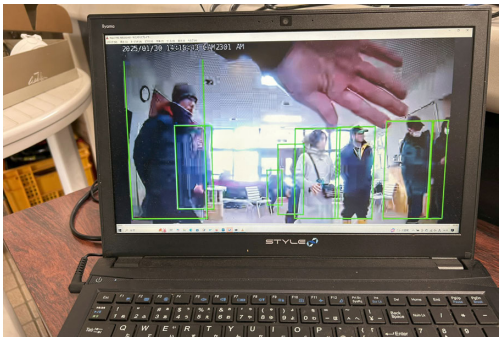
全体を通して活発な質疑応答が見られ、また研修参加者が所属する各部局・施設等における業務内容についての相互理解や技術交流・親睦が深められました。終了後に実施した受講者アンケートでは、「無線についての知識を得ることができて有意義でした。仕事に活かせるアイデアの幅が広がりました」などの感想がありました。参加者からの意見を踏まえ、引き続き今後の研修のあり方について模索していきます。開催にあたりご指導・ご協力・ご講演いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



エスコンフィールドHOKKAIDOでの芝生育成の様子

小松准教授の講義



植物園内でのWi-Fi HaLow™通信によるカメラ動画像

臼尻水産実験所・七飯淡水実験所で樹木処理の作業を通じた技術交流事業を実施

2月10日（月）～14日（金）の5日間、北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション臼尻水産実験所と七飯淡水実験所において、当センター技術職員による樹木のせん定及び伐採作業に関する技術交流事業が実施されました。本事業は、当センター各施設に所属する技術職員が擁したフィールド管理技術のノウハウを持ち寄り、施設運営上の問題を改善するための業務を共同で進めることで、互いのさらなる技術研鑽に資することを目的として企画されています。

臼尻水産実験所と七飯淡水実験所には、敷地外とを隔てる境界近くの位置に植栽、あるいは自然に育った20本前後の樹木が生えていましたが、近年これらの樹木が大きくなり過ぎてしまったことから、落葉・落枝・倒木等を原因とする安全管理上の重大なトラブルが発生する懸念が高まっていました。しかし、これを地方施設が単独で抜本的に解決することは技術的・資金的な問題から難しく、両実験所にとっては長らく悩みの種となっていました。

本事業ではこの問題の解決に向けて、当センター水圏ステーション（臼尻水産実験所、七飯淡水実験所、生態系変動解析分野）・耕地圏ステーション（植物園、生物生産研究農場（余市果樹園含む））・森林圏ステーション（中川研究林、雨龍研究林、苫小牧研究林）・企画調整室・事務部から総勢16名（うち技術職員13名）が参加し、それぞれの参加者、あるいは所属する施設で得意とする業務のノウハウを組み合わせながら、処理の対象とされた全ての樹木に対して伐採・あるいは当面トラブルの懸念がない樹形に整えました。また、技術交流の面においては、特に高所作業車やツリークライミング用具を使って大きな樹木の枝をせん定する作業、樹木を根元から安全に切り倒すためのチェンソー取扱作業、重量物の移動や運搬等で用いる重機やトラックの運転について、各施設で得意とする参加者が講師役となって他の参加者にレクチャーする場も設けられたほか、七飯淡水実験所においては施設見学会も行われ、終始活発な技術情報の共有等が行われました。

当センターは道内外に合計で17施設を擁していますが、日々の業務を通じて蓄積される技術は、それぞれの施設で調整と最適化が絶えず続けられています。フィールド管理業務を分野横断的に実施した本事業により、これまでとは異なるアプローチで参加者にとって新たな技術の蓄積が進められたことから、今後は各施設で持つ技術に新たな視点が加わり、更なる最適化のきっかけとなることが期待できます。

（北方生物圏フィールド科学センター）

樹木を処理している様子（臼尻水産実験所）

樹木を処理している様子（七飯淡水実験所）

作業終了後の集合写真（七飯淡水実験所）

施設見学の様子（七飯淡水実験所）

「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催

北方生物圏フィールド科学センター植物園では、2月22日（土）と23日（日）に「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催しました。このイベントは小学生とその家族を対象に、厳しい冬を生き抜く生き物の姿を観察し、生物の多様性について学ぶことを目的とした自然観察プログラムです。毎年この時期に開催し、冬季の園内を散策できる数少ない機会となっています。今年は2日間で14組32名の親子が参加しました。

参加者は園内での注意事項などの説明を受け、職員の案内のもとで園内の散策へと出発しました。ヨーロッパクロマツの根元では幹や葉の特徴やマツボックリの役割などを学び、自分のマツボックリと同じかどうか、参加者同士でマツボックリを比べたりしながら種類を確かめていました。リギダマツでは樹皮の間にチョウセンゴヨウやハイマツの種子が挟まっていることを発見し、何故挟まっているのか予想しながら進みます。思いついたことを親子で話したり、自分のマツボックリと落ちているマツボックリを比べたりと、移動の時間も楽しんでいる様子でした。園内にある博物館では野鳥やエゾリスの剥製の中からリギダマツに種子を挟んだ動物を探し、正解が候補の中で一番小さなヤマガラだと判ると驚いた表情が見られました。その後、イタヤカエデの樹液を味見して「甘い」「少し苦い」「味がしない」など、様々な感想が聞かれました。散策の最後には慣れないスノーシューに苦労しながらも次第に慣れて雪を踏む感触を楽しんでいるようでした。散策後の工作では作るものが中々決まらない児童もいましたが、最後には全員が思い思いの作品を完成させ、盛会のうちに終了しました。

児童からは「勉強になった」「想像以上に楽しかった」などの感想が寄せられ、保護者からは「初めて植物園に入った」「他の季節にも来てみたい」と言った声が聞かれました。地域の方々の憩いの場である植物園に触れるきっかけとして、今後もこのような活動を継続していきたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）

ヨーロッパクロマツの観察

イタヤカエデの樹液を味見

スノーシューに挑戦

たくさんの力作が完成

環境健康科学研究教育センターがクイーンズランド大学CHRCとLOIを締結

環境健康科学研究教育センターは、2月13日（木）、クイーンズランド大学Child Health Research Centre（CHRC、オーストラリア、ブリスベン）と部局間交流協定の締結を視野にLetter of Intent（LOI）を締結しました。

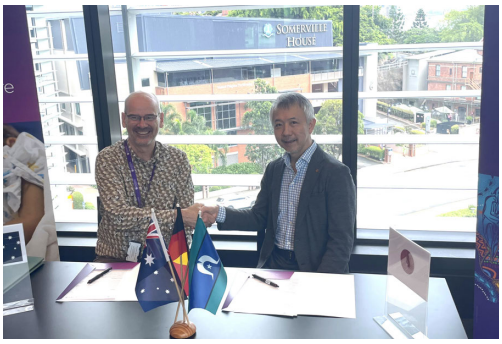
クイーンズランド大学で執り行われた調印式には、クイーンズランド大学CHRCのPaul Jagarls教授、本センターからは山内太郎センター長、アイツバマイゆふ国際連携部門長、池田敦子同副部門長の3名が出席しました。調印式後には、双方の組織及び研究の紹介を行い、今後の共同研究や教育について意見交換を行いました。CHRCは本センターと同じくWHO研究協力センター（WHOCC）でもあり、令和3年から継続的にHokkaidoサマー・インスティテュートでの講義を提供してきました。LOI締結を機に今後も更なる交流を深め、環境健康科学領域でのより広範囲な共同講義や研究交流などの活性化が期待されます。

ブリスベン滞在中には、同じくWHOCCであるクイーンズランド工科大学のInternational Laboratory for Air Quality and Health（ILAQH）を訪問し、Lidia Morawska特別招聘教授との意見交換や研究所の見学を行いました。また、新興化学物質のヒトや環境中のモニタリング事業をオーストラリアで先駆的に進めるクイーンズランド大学のQueensland Alliance for Environmental Health Sciences（QAEHS）を訪問し、実験室の見学や将来の共同研究の可能性、最新の知見の情報交換を行いました。

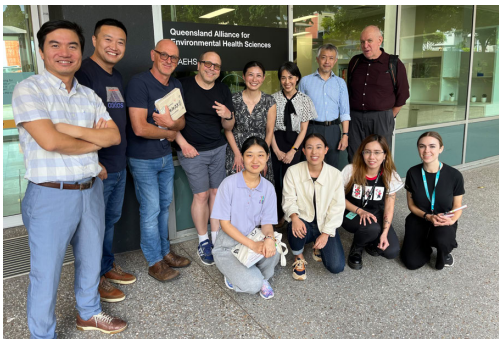
本センターはこれまでに、平成28年のソウル大学校公衆衛生大学院（韓国）、令和元年ワライラック大学公衆衛生大学院（タイ）、令和3年のマヒドーン大学熱帯医学部（タイ）及びアントワープ大学毒性学センター（ベルギー）の四つの部局間交流協定を締結しています。

今後、クイーンズランド大学CHRCとのさらなる連携強化が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）



調印を終えたCraig Munns教授（左）と山内センター長（右）



QAEHS訪問の際の記念撮影

脳科学研究教育センター脳科学（発達脳科学）専攻 第21期修了生に修了証書授与

3月25日（火）、修士・専門職学位・博士学位授与式後に、医学部百年記念館において、脳科学研究教育センターが実施している脳科学（発達脳科学）専攻教育プログラム修了生に対し、南　雅文センター長から修了証書を授与しました。

今年度は第21期生として、修士課程5名（鄭　鎭熊、竹内智美、ヌウェケ チノンソ ピーター：生命科学院、楊　秋旭、佐藤恒亮：保健科学院）、博士後期課程1名（エン冬陽：教育学院）が、所属学院の学位取得に加えて脳科学（発達脳科学）専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました（鄭さんは9月修了のため修了証書授与は5名）。

本センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局のセンター教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の大学院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

脳科学（発達脳科学）専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。令和5年度からは従来のグループ制を廃止するとともに「発達脳科学専攻」から「脳科学専攻」と専攻名称を変更し、より柔軟な研究交流を加速させ、学内10学院にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳に関した分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程143名及び博士（後期）課程28名、計171名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）

南センター長から修了証書の授与

今年度の修了生とセンター教員

総合博物館で第17回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、平成20年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、様々な年代の市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員に分かりやすく発表し、質問に受け答えします。北大生の研究を広く社会に伝えるだけではなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。17回目を迎えた今年度は、3月1日（土）・2日（日）に博物館にて新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで開催しました。

ポスターとWebサイトで発表者を募集した結果、農学部・理学部から3名が参加しました。発表者は、卒業研究を市民に発表するため、他学部の発表者や博物館担当教員と議論を交わしながらポスターをブラッシュアップするZoomでの中間発表会に3回参加し、本番前リハーサルを通して、専門分野外の方々にも広く伝わるようにポスターの内容・デザインの改訂や発表の練習を重ねてきました。当日は、年代も関心も様々な来場者に分かりやすく説明しようと努力し、質問に丁寧に答え、来場者との対話を楽しむことができました。来場者は、学生たちの発表に引き込まれた様子で、質問や感想が多数寄せられました。発表会の運営には理学部・工学部・文学部・文学院・公共政策大学院・水産科学院から6名の学生が参加しました。運営スタッフとして発表会の広報、運営方法の検討などを進め、会場の設営ではポスターの配置からライティング、また室内の換気に至るまで柔軟に対応し、当日発表がスムーズに進み、快適で和やかな場を創るように努力しました。当日会場で配布したリーフレットも広報ポスターと同様に運営担当学生が制作しました。

発表会終了後には、いつもと異なるスタイルで講評会を開催しました。講評会の司会は、運営担当学生2名が務めました。市民・本学教職員・ミュージアムマイスターから成る18名の審査員一人一人から、発表者3名の発表内容とその方法について、感想と意見、今後の研究について励ましの言葉をいただきました。今回の講評会は、大学生と高校生も参加し、青年期のフレッシュな視点からもコメントがありました。

発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館Webサイトで公開しています。
https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/20985/

（総合博物館）

発表者と発表題目：

1. 奥山修右（農学部）「根室地域の自然湖沼の水生植物相」
2. 城川響生（理学部）「北半球を旅する恐竜たち～日本産化石を用いた分析～」
3. 伴　直樹（理学部）「日本初！恐竜が栄えたジュラ紀前期の植物変遷点の発見」

運営担当学生：遊馬考輝（文学院修士課程1年）・岸田倖典（工学部3年）・為近昌美（水産科学院博士課程2年）・徳井　翠（理学部3年）・宮本英昌（公共政策大学院1年）・山中葉奈子（文学部3年）

審査員一覧

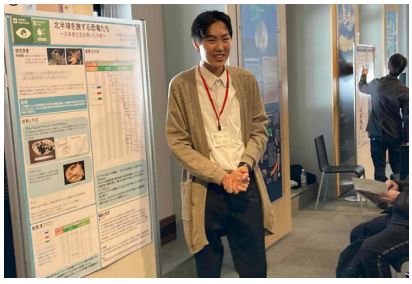
＜教職員審査員＞（敬称略）：
坪田敏男（総合博物館館長・獣医学研究院教授）、内田　努（工学研究院准教授）、高野　力（工学研究院助教）、高橋英樹（名誉教授・総合博物館資料部研究員）、出村　誠（サステイナビリティ推進機構総長特命参与）、山内彩加林（低温科学研究所助教）

＜市民審査員＞（敬称略）：
浅野目祥子（NPO法人手と手代表理事・ミュージアムカフェぽらす/ミュージアムショップぽとろ代表）、中道洋友（北海道札幌啓成高等学校教諭）、蛭川隆介（北海道新聞社論説主幹）、藤田良治（愛知淑徳大学創造表現学部准教授）、矢野ひろ（NPO法人北海道遺産協議会事務局長）

＜ミュージアムマイスター審査員＞（敬称略）：
太田　晶（むかわ町生涯学習課生涯学習グループ）、押野祐大（北海道中標津高等学校教諭）、高田健太郎（理学院博士課程3年）、大藪隼平（理学院博士課程2年）、長峰実央（理学院博士課程1年）、荒岡柊二郎（理学院修士課程1年）、佐藤　英（理学部3年）

担当：北野一平、小林快次、湯浅万紀子、市來紗都子、土田江里子、福岡久典（総合博物館）

発表会当日の会場風景


来場者に向けて説明する発表者

終了後の記念撮影

▌博士学位記授与

3月25日（火）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は321人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は8人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏　名	博　士　論　文　名
博士（法学）	左（サ）　婷雨（コウウ）	家庭内犯罪に関する横断的研究 主査：教授　小名木　明宏
博士（水産科学）	小幡（おばた）　光汰（こうた）	Comparative morphology and phylogenetic relationships of the family Samaridae and related taxa（Teleostei: Pleuronectiformes） （ベロガレイ科（真骨下綱：カレイ目）とその近縁群の比較形態学および系統類縁関係） 主査：教授　和田　哲
	戸澤（とざわ）　愛美（まなみ）	Quantitative assessment of factors contributing to variations in sea surface pCO_2 in the polar oceans （極域海洋における海洋表面二酸化炭素分圧の季節変化の定量評価） 主査：教授　大木　淳之
	西尾（にしお）　燦吾（さんご）	スケトウダラ稚魚の捕食者としてのソウハチの生理・生態学的研究 主査：教授　高津　哲也
	高（コウ）　赫（ヤキ）	Role of follicle-stimulating hormone in gonadal sex differentiation in Nile tilapia, *Oreochromis niloticus* （ナイルティラピア性分化における濾胞刺激ホルモンの役割に関する研究） 主査：教授　東藤　孝
博士（環境科学）	周（シュウ）　習霊（シュウレイ）	The mechanism of summer heatwaves over eastern Siberia and its linkage to atmospheric and oceanic variability in the western North Pacific （東シベリアにおける熱波のメカニズムおよび北西太平洋の大気海洋変動との関係） 主査：准教授　佐藤　友徳
	張（チョウ）　帥（スイ）	Development of solvatochromic fluorophores incorporating boron complex and application for biothiols detection in live-cell imaging （ホウ素複合体を含むソルバトクロミック蛍光色素の開発と生体内細胞イメージングにおける生体チオール検出への応用） 主査：准教授　山田　幸司
	凌（リョウ）　正一（ショウイチ）	Enzyme catalysis for algal secondary metabolites: Studies on halogenated compounds from *Laurencia* spp. and cyanobacterial homotyrosine （藻類の二次代謝における酵素反応：ソゾ類のハロゲン化合物および藍藻のホモチロシンに関する研究） 主査：教授　沖野　龍文
	向（コウ）　世柔（セイジュウ）	Proposing a geoeducation framework for China's geoparks through insights derived from Tokachi-Shikaoi Geopark, Japan （とかち鹿追ジオパークからの知見にもとづく中国のジオパークに対するジオ教育の枠組みの提案） 主査：教授　渡邉　悌二
	陳（チン）　新宇（シンウ）	Synergy of multi-source remote sensing and multi-model approaches for understanding post-disaster vegetation dynamics and terrain characteristics in Hokkaido, Japan （北海道における災害後の植生動態と地形特性の理解に向けたマルチソースリモートセンシングとマルチモデルアプローチのシナジー） 主査：准教授　Ram Avtar

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	ブイヤン BHUIYAN エムデ アラアムギル Md Alamgir ホセイヌ Hossen	Geospatial analysis of urbanization dynamics and ecosystem services for sustainable urban development in Dhaka city, Bangladesh （バングラデシュのダッカ市における持続可能な都市開発のための都市化動態と生態系サービスの地理空間分析） 主査：准教授　Ram Avtar
	モウ　ウ 孟　宇	Mapping periglacial landforms in Daisetsuzan National Park, Japan （大雪山国立公園における周氷河地形のマッピング） 主査：教授　渡邉　悌二
	ラジャット RAJAT	Development of radar polarimetry techniques for forest biomass retrieval and disturbance detection （森林バイオマス推定と撹乱検知のためのレーダーポラリメトリ技術の開発） 主査：准教授　Ram Avtar
	ツァイ　ユーハオ 崔　羽皓	Study on the origin and atmospheric emission process of secondary fatty alcohols in aerosols in cool-temperate forests （冷温帯林におけるエアロゾル中の脂肪族第二級アルコールの起源と大気放出に関する研究） 主査：教授　力石　嘉人
	シン　プオン 辛　鵬	Estimation of freshwater discharge into the Northeast Pacific from the Alaskan mountains and its effects on the subtropical and equatorial ventilated thermocline （アラスカ山岳地帯から北東太平洋への淡水流出の推定および亜熱帯と赤道の通気水温躍層への影響） 主査：教授　三寺　史夫
	たかはし　けいご 高橋　佳吾	Species-specific impacts of pollinators and herbivores on the seed production in *Rhododendron* plants （ツツジ属植物の種子生産に及ぼす送粉者と植食者の種特異的影響） 主査：准教授　工藤　岳
	いしぐろ　ともき 石黒　智基	Spatial perspectives of urbanization-induced plant evolution （都市化が駆動する植物の進化に関する空間的観点に基づいた研究） 主査：教授　内海　俊介
	こせき　まさと 古関　将斗	Elucidation of the mechanism of the wing color pattern formation in *Drosophila guttifera* from the perspective of tissue formation programs and gene network reorganization （組織形成プログラムと遺伝子ネットワーク再編の視点で明らかにするミズタマショウジョウバエの翅模様形成メカニズム） 主査：教授　越川　滋行
	ファン　ユウジュオ 方　玉琢	Influences of abiotic and biotic factors on plant-plant facilitation toward forest restoration （森林再生に関わる植物間の促進作用への非生物的・生物的要因の影響に関する研究） 主査：教授　内海　俊介
	かめお　しんさ 亀尾　辰砂	緑色植物の進化に伴う光化学系の変遷に関する研究 主査：教授　田中　亮一
	ファム ホウエン PHAM Huyen ティ タン Thi Thanh	Studies on reconstruction of a functional duckweed holobiont to reduce nutrient competition with microalgae for high-yield biomass production （高収率バイオマス生産に向けたウキクサホロビオントの再構築に関する研究～微細藻類との栄養競合の低減によるウキクサの成長促進） 主査：教授　森川　正章
	ヨウ　シゴウ 叶　子豪	An integrated study on the molecular mechanisms for sustained photosynthetic thermal dissipation in overwintering yew leaves （越冬中のイチイの葉における光合成の熱放散の分子メカニズムに関する統合的研究） 主査：教授　田中　亮一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	うえむら　ようすけ 植村　洋亮	Addressing the discrepancy between predicted and observed local extinction of Dolly Varden charr under global warming: the roles of local environments, seasonal timing, and interspecific competition （温暖化による局所絶滅予測と実際の絶滅とのギャップを説明する局所環境、影響する季節、および種間競争：サケ科魚類オショロコマにおける実証） 主査：准教授　小泉　逸郎
	かつしま　ひなこ 勝島　日向子	Bear marking sites and scats create diverse species interactions: roles in chemical communication and resource use （ヒグマのマーキングサイトと糞が生み出す多様な種間相互作用：化学コミュニケーションと資源利用における役割） 主査：准教授　小泉　逸郎
	こんの　ともあき 今野　友陽	Past, present, and future of Japanese branchiobdellidans: insights into evolutionary history and conservation （日本産ヒルミミズ類の過去・現在・未来：進化史と保全への洞察） 主査：准教授　小泉　逸郎
	ヨウ　エン 姚　遠	Context dependence of species interaction and coexistence: the influence of multiple environmental variables across spatial scales on a rocky intertidal two species system （種間相互作用と共存の状況依存性：岩礁潮間帯の2種系における空間スケールにまたがる複数の環境変数の影響） 主査：教授　野田　隆史
	おがわ　もにか 小川　萌日香	Marine mammals in a warming Arctic: Connections with ecosystem, environment and Inuit in Inglefield Bredning, northwest Greenland （温暖化する北極域の海棲哺乳類:北西グリーンランドにおける海洋生態系、環境、イヌイットとのつながり） 主査：教授　宮下　和士
	ヨハナ YOHANA ネーマヨナ Neema Yona	Establishment of the in vitro evaluation system for pollen viability in Japanese rice cultivars （日本のイネ品種における花粉稔性のin vitro 評価系の確立） 主査：教授　星野　洋一郎
	シュイ　シージエ 許　仕傑	Accurate and fast predictions of protein structures and properties via protein language models （タンパク質言語モデルによるタンパク質の構造と特性の正確かつ迅速な予測） 主査：教授　小野田　晃
	エン　ハクハク 閻　博博	Development of anion-exchange resin incorporating single metal particles for rapid removal and catalytic decomposition of nitrate in water toward groundwater purification （地下水浄化に向けた水中硝酸イオンの迅速除去と触媒分解のための単一金属粒子を取り込んだ陰イオン交換樹脂の開発） 主査：教授　神谷　裕一
	アクター AKTER ルマナ Rumana	Investigation of photoinduced electron transfer from CdSe-CdS and $FAPbBr_3$ nanocrystal assemblies to molecular acceptors （CdSe-CdSおよび$FAPbBr_3$ナノ結晶集合体から分子受容体への光誘起電子移動の研究） 主査：教授　Biju Vasudevan Pillai
	かなまる　かずや 金丸　和矢	ゲスト分子離脱を利用した分子結晶の機能開拓 主査：特任教授　中村　貴義
	クハタン KHATUN モーストファーリーダー Most Farida	Exploring exciton recombination, migration, and transfer in halide perovskite systems （ハロゲン化物ペロブスカイト系における励起子の再結合、移動、および転移の探求） 主査：教授　Biju Vasudevan Pillai
	はねだ　まさと 羽田　将人	超分子カチオン構造を利用した結晶の熱膨張制御 主査：特任教授　中村　貴義
	よしだ　かずや 吉田　和矢	スルホンロサミン誘導体による近赤外光機能性有機分子の開拓 主査：准教授　高野　勇太

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	大野（おおの） 優（ゆう）	Homogeneous structures of 3-dimensional Riemannian manifold （3次元リーマン多様体の等質構造） 主査：教授　小林　真平
	齋藤（さいとう） 琢弥（たくや）	A hierarchy of general positions for hyperplane arrangements, and their varieties （超平面配置の一般の位置の程度，及びその多様体） 主査：特任教授　齋藤　睦
	根岸（ねぎし） 崚（りょう）	Picard-Fuchs equations of the generalized Dwork family （一般化Dwork 族のPicard-Fuchs 方程式） 主査：教授　朝倉　政典
	橋堀（はしぼり） 恭矢（きょうや）	Geometry of Surfaces with Singular Points and the Gauss-Bonnet Theorem （特異点を持つ曲面の幾何学とGauss-Bonnetの定理） 主査：教授　古畑　仁
	日比野（ひびの） 瑠央（るお）	Ultrasonic Investigation of Phenomena Originating from the Electric Quadrupole in the *f*-Electron Caged Compounds （超音波測定を用いた*f*電子系籠状化合物における電気四極子由来の物性に関する研究） 主査：教授　柳澤　達也
	渡部（わたべ） 風太（ふうた）	Lower Bound of Entropy Production in an Underdamped Langevin System with Normal Distribution （正規分布にしたがう1次元underdamped Langevin系におけるエントロピー生成の下限） 主査：教授　根本　幸児
	有馬（ありま） 銀河（きらら）	原始大気海洋間のNH_3分配と前生物的地球表層環境 主査：教授　倉本　圭
	ZORIGOO（ゾリゴー） Garid（ガリド）	Development of novel method to make empirical Hemispherical Direction Reflection Factor (HDRF) model dedicated to vegetation measurement （植生計測における経験的半球方向反射係数（HDRF）モデル作成法の開発） 主査：教授　髙橋　幸弘
	清水（しみず） 一揮（かずき）	Objective Image Segmentation Method for Morphological Features in Spiral Galaxies （近傍渦巻銀河画像における形態学的特徴の客観的な分割手法） 主査：教授　徂徠　和夫
	戸田（とだ） 陽（よう）	Cosmological constraints on time-varying fundamental constant and extra component （物理定数の時間変化と余剰成分に関する宇宙観測制限） 主査：准教授　瀬戸　治
	那須（なす） 海渡（かいと）	Flavor structures from string compactification and moduli stabilization （超弦理論のコンパクト化およびモジュライ安定化から導かれるフレーバー構造） 主査：教授　小林　達夫
	槇口（まきぐち） 雄仁（かつひと）	微視的反応理論による中高エネルギー原子核反応の研究 主査：客員准教授　堀内　渉
	屋嶋（やしま） 悠河（ゆうが）	水溶液中観察の高空間分解能化を目的としたグラフェンベース液体セルの開発 主査：教授　木村　勇気
	渡辺（わたなべ） 証斗（しょうと）	ガウス過程回帰と核反応模型を用いた核子-原子核散乱断面積の推定 （Prediction of nucleon-nucleus scattering cross section using a combination of Gaussian process regression and Nuclear reaction model） 主査：客員教授　木村　真明
	青山（あおやま） 健太郎（けんたろう）	Physics-informed Neural Networkを用いた地下比抵抗構造解釈手法の高度化―地熱地域における適用可能性― （Advancing the Interpretation of Subsurface Resistivity Structure Using Physics-informed Neural Network: Applicability in Geothermal Fields） 主査：教授　橋本　武志

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	ABATO Jamael Cadampog（アバト ジャマエル ケーダムポグ）	Taxonomy and systematics of shallow-water and deep-sea nemerteans (phylum Nemertea) from the western Pacific region （西太平洋の浅海及び深海ヒモムシ（紐形動物門）の分類学・体系学的研究） 主査：教授　柁原　宏
	池上　森（いけがみ しん）	Early evolutionary history of soft-bodied cephalopods （軟体性頭足類の初期進化史） 主査：准教授　伊庭　靖弘
	邱　麗（キュウ レイ）	Development and Validation of a Question Classification Method for Refining Logical Reasoning （論理推論の精緻化に向けた問い分類手法の開発と検証） 主査：教授　重田　勝介
	近藤　誠（こんどう まこと）	Numerical study on the increase in lightning activity preceding downbursts using a meteorological model coupled with a bulk lightning model （雷を直接計算する気象モデルを用いたダウンバーストに先行する雷活動の激化に関する数値的研究） 主査：准教授　佐藤　陽祐
	沙　華哲（サ カテツ）	制作型授業における相互評価の効果に関する実証研究― フィードバック・リテラシー理論に基づいて ― 主査：教授　重田　勝介
	谷口　諒（たにぐち りょう）	Neuroanatomy of insects in amber （琥珀内昆虫化石の神経解剖学的研究） 主査：准教授　伊庭　靖弘
	垂水　洸太郎（たるみ こうたろう）	Seismological Structure and Source Studies with Teleseismic Body-wave Analysis （遠地実体波解析による地震学的構造および波源の研究） 主査：教授　吉澤　和範
	中垣　達也（なかがき たつや）	深海海底地すべりによる巨大津波励起過程の解明 （Generation mechanisms of large tsunamis caused by deep ocean landslides） 主査：特任教授　谷岡　勇市郎
	宗像　みずほ（むなかた）	Taxonomic and Phylogeographic Study in Non-marine Ostracoda (Crustacea) （非海棲貝形虫（甲殻類）の系統分類学的・系統地理学的研究） 主査：教授　柁原　宏
博士（農学）	金丸　大輔（かなまる だいすけ）	農業公社の事業展開と地域農業再編機能－栗山町農業振興公社の取り組みを事例として－ 主査：教授　板橋　衛
	川辺　亮（かわべ りょう）	地域ぐるみの6次産業化におけるソーシャル・キャピタルの醸成要因に関する研究 主査：教授　坂爪　浩史
	川合　慶拓（かわあい やすひろ）	直交集成板の面外せん断強度に関する実験的評価および数値解析的評価 主査：准教授　澤田　圭
	内林　大志（うちばやし ひろし）	Impact of basalt application on soil chemical properties and plant response, and enhanced rock weathering by plant （玄武岩の施与が土壌の化学性と植物の生育に与える影響および植物による岩石風化促進の可能性） 主査：教授　信濃　卓郎
	申　允植（シン ユンショク）	Effect of adding biochar to suppress ammonia emission during livestock manure composting process （家畜ふん堆肥化過程におけるアンモニア揮散抑制を目的としたバイオ炭添加の効果） 主査：教授　岩渕　和則
	徳山　芳樹（とくやま よしき）	Analysis of complex morphodynamics at the organ- and cellular-level by 4D imaging of rice （イネの四次元イメージングを用いた器官および細胞レベルにおける複雑な形態学的動態の分析） 主査：准教授　小出　陽平
	齋藤　隼（さいとう しゅん）	ウシ初期胚発生における転写共役因子YAP1の細胞内局在に関する研究 主査：准教授　川原　学

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（農学）	ショウ ブン 章　文	Introducing stable isotopes into small molecule to elucidate functional analysis of biologically active compounds （生理活性物質の機能解明を目指した低分子安定同位体標識法の検討） 主査：教授　橋本　誠
	おおこし ひなた 大越　陽	東日本大震災後の海岸部における生態系保全策の効果: 徘徊性昆虫に着目して 主査：教授　愛甲　哲也
	こやま まさと 小山　正登	木材腐朽菌に対する樹皮の恒常的防御機構に関する研究 主査：教授　佐野　雄三
	さが あやみ 佐賀　彩美	ニセコ地域を事例としたリスクガバナンスによる自然公園利用者の事故リスク管理についての研究 主査：教授　愛甲　哲也
	みはら くにひと 三原　州人	SWAT を用いた気候変動下の積雪寒冷農業流域における水循環及び非特定汚濁負荷の長期変動予測と不確実性分析 主査：教授　当真　要
	よしむら もとひろ 吉村　元博	Research on methods for soil quality assessment in arable soils in the Tokachi region, Hokkaido, Japan （北海道十勝地域の耕地土壌における土壌質の評価手法の研究） 主査：教授　当真　要
博士（生命科学）	うすい たくや 碓井　拓哉	Study on the reaction mechanism of tRNA seleno-modification enzyme SelU （tRNAセレン化修飾酵素SelUの反応機構の研究） 主査：教授　尾瀬　農之
	くまくら だいき 熊倉　大騎	Functional Specialization and Phenotypic Plasticity: A Mathematical Modeling Approach to Microbial Growth Dynamics （機能分業と表現型可塑性：微生物の生存戦略に基づく増殖モデル研究） 主査：准教授　中岡　慎治
	ツルバンチェリ THULUVANCHERY サリム ファジール SALIM Fazil	Development of Catenane-based Supramolecular Mechanophores （カテナン型超分子メカノフォアの開発） 主査：教授　玉置　信之
	パタク PATHAK ソウミトラ Soumitra	A study on the effect of guanine-quadruplex topology on immunostimulatory properties of CpG oligodeoxynucleotides （グアニン四重鎖構造のトポロジーがCpGオリゴ核酸の免疫活性化能に与える影響） 主査：客員准教授　山崎　智彦
	ふじもと あい 藤本　愛	Short repeat RNA-mediated suppression of the aggregation and cytotoxicity of TDP-43 and its C-terminal fragment TDP25 （TDP-43及びそのカルボキシ末端断片TDP25の凝集およびその細胞毒性の抑制に働く短リピートRNAの研究） 主査：准教授　北村　朗
	よしざわ こうや 吉澤　晃弥	Tetraploidy-linked sensitisation to CENP-E inhibition in human cells （ヒト四倍体細胞のCENP-E阻害に対する感受性の増大） 主査：准教授　上原　亮太
	リ ハオ 李　昊	Study on factors related to DNA replication in cell cycle （細胞周期におけるDNA複製に関連する因子の研究） 主査：教授　尾瀬　農之
	あおやま はるか 青山　悠	Translational regulation mediated by upstream ORF in Arabidopsis clock gene and diel genes （シロイヌナズナの時計遺伝子および日周遺伝子におけるuORFを介した翻訳制御に関する研究） 主査：教授　千葉　由佳子
	ギュウ ショウエイ 牛　小瑩	Analysis of Transcriptional and Transpositional Regulation of a Heat-Activated Retrotransposon in *Arabidopsis thaliana* （シロイヌナズナにおける熱活性型レトロトランスポゾンの制御機構の解明） 主査：准教授　伊藤　秀臣

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（生命科学）	久保（くぼ） 晃生（あきお）	Studies on cellular signaling mechanisms regulating plant responses to nutrient deficiency and energy starvation （植物の栄養欠乏およびエネルギー飢餓応答を制御する細胞内シグナル伝達機構の研究） 主査：准教授　佐藤　長緒
	佐藤（さとう） 圭祐（けいすけ）	Molecular Biological Studies on the Spatial and Temporal Regulation of mRNA Translation during Early Zebrafish Development （ゼブラフィッシュ初期発生におけるmRNA翻訳の時空間制御機構の分子生物学的研究） 主査：准教授　小谷　友也
	佐藤（さとう） 丈生（じょうせい）	Studies on the mechanism of transcriptional activation by a mouse testis-specific long noncoding RNA, *Tesra*, and its physiological role during spermatogenesis （マウス精巣特異的長鎖非コードRNAの*Tesra*による転写活性化メカニズムと精子形成過程での生理機能に関する研究） 主査：教授　木村　敦
	柴田（しばた） ゆき野（の）	Expanded song learning capacity in interspecies hybrid songbirds （異種間雑種歌鳥の歌学習能力拡張についての研究） 主査：教授　和多　和宏
	PRERNA（プレルナ） SINGH（シン）	Identification of novel factors involved in polarized cell expansion and development in the moss, *Physcomitrium patens* （コケ植物*Physcomitrium patens*における極性細胞の伸長と発生に関与する新規因子の同定） 主査：教授　藤田　知道
	MAENG（メン） CHANGHYUN（チャンヒョン）	Study on the Extreme Environmental Stress Tolerance of *Physcomitrium patens* and Its Adaptability to Space Environments （ヒメツリガネゴケの極限環境ストレス耐性とその宇宙環境への適応性に関する研究） 主査：教授　藤田　知道
博士（薬科学）	駒谷（こまたに） 優弥（ゆうや）	抗がん活性天然物サンドラマイシンの作用機序解明を指向した機能化誘導体の創製 主査：教授　市川　聡
	後藤（ごとう） 悠人（ゆうと）	がん光免疫療法における新規薬剤の理論的設計に資する基礎的研究 主査：教授　小川　美香子
博士（ソフトマター科学）	猿渡（さるわたり） 彩（あや）	Ionic liquid-polymer composite materials applicable for biomaterials （バイオマテリアルに適用可能なイオン液体／高分子複合材料） 主査：客員准教授　上木　岳士
	Sukamto（スカムト）	Study on Bone-Inspired Soft/Hard Composite with Unique Toughening Mechanism Through Multiple Sacrificial Structure （骨に着想を得た複数の犠牲構造による強靭化機構を備えたソフト/ハード複合材料に関する研究） 主査：准教授　野々山　貴行
	孫（ソン） 雁鵬（ガンホウ）	Study on the effect of stiffness of tumor microenvironment on cancer stem cell properties using hydrogels （ハイドロゲルを用いた腫瘍微小環境の硬さががん幹細胞の特性に及ぼす影響に関する研究） 主査：准教授　津田　真寿美
	竪山（たてやま） 瑛人（あきと）	Development of Functional Gels Based on Alkyl–π Molecular Liquids （アルキル—π分子液体を媒体とする機能性ゲルの創成） 主査：客員教授　中西　尚志
	鄭（テイ） 靖康（セイコウ）	Structural and Stability Analysis of GRP Family Allergens Pru p 7 and Cry j 7, Which Cause Pollen and Food Allergy Syndrome （花粉食物アレルギー症候群の原因となるGRPファミリーアレルゲンPru p 7およびCry j 7の構造および安定性の解析） 主査：教授　相沢　智康

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（ソフトマター科学）	マダプラム チェルドゥ ヌサイバ Madappuram Cheruthu NUSAIBA	Study on Azophotoswitches containing thiazole, isothiazole, thiadiazole and isothiadiazole （チアゾール、イソチアゾール、チアジアゾール、イソチアジアゾールを含むアゾフォトスイッチに関する研究） 主査：教授　玉置　信之
	ベーグム モスト ラボニ BEGUM Most Laboni	Study on Swelling Effects on the Structure, Deformation, and Fatigue Behaviors of Anisotropic Bilayer Hydrogel （異方性二分子膜ハイドロゲルの構造・変形・疲労挙動に及ぼす膨潤の効果） 主査：教授　龔　剣萍
	よしだ　まさひろ 吉田　匡宏	A Study on Yielding Process of Double Network Hydrogel via Trans-scale Direct Observation: From Macro to Molecular Level （マクロから分子レベルまでのトランススケール直接観察によるDNゲルの降伏過程に関する研究） 主査：教授　龔　剣萍
	ロ　ヒセツ 魯　非雪	Study on Effects of Network Topology and Chemistry on Tensile Behaviors of Double Network Gels （網目構造のトポロジーと化学構造がダブルネットワークゲルの引張力学特性に及ぼす影響に関する研究） 主査：教授　龔　剣萍
博士（臨床薬学）	いのうえ　ゆうき 井上　優希	リネゾリド誘発性血小板減少症の要因分析ならびにオキサゾリジノン系抗菌薬の唾液中濃度による治療モニタリング法の構築 主査：准教授　武隈　洋
	うえだ　ひなた 上田　一奈太	アルデヒドオキシダーゼを介した薬物間相互作用および個体間差に関する研究 主査：教授　小林　正紀
	おおかわ　りょうたろう 大川　凌太郎	可溶性リピドⅡ誘導体並びにシュードウリジマイシンの構造活性相関研究 主査：教授　市川　聡
	つゆき　たかひろ 露木　貴浩	成人T細胞白血病細胞に細胞死を誘導するモノクローナル抗体に関する研究 主査：教授　前仲　勝実
	やまぐち　あつし 山口　敦史	免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象のリスク因子の探索と治療効果に及ぼす影響の評価 主査：教授　小林　正紀
博士（教育学）	いしだて　かつみ 石立　克己	奥寺龍渓のボーイスカウト論に関する研究―英国規範の受容とアダプテッド・アスレティシズム―
	エン　トウヨウ 冬陽	母語及び第二言語の読みにおける文字-音統合に関する研究 主査：教授　河西　哲子
	かめやま　ゆうき 亀山　裕樹	ヤングケアラーと家族の貧困 主査：准教授　佐々木　宏
	くぼた　なおこ 久保田　直子	ウェアラブル機器を用いた概日リズムと睡眠覚醒リズムの評価・調整法の確立とその臨床応用 主査：准教授　山仲　勇二郎
	コウ　ナン 江　楠	シングルマザーの健康とエイジェンシー―子どもへの追加的なケアに着目して― 主査：准教授　佐々木　宏
	さたけ　たかあき 佐竹　貴明	対話主義的授業論の探求 主査：教授　守屋　淳
	ジョ　エツ 舒　悦	The Chain, Consequences, and Care of Aggravated Bullying Victimization: Based on a sequential process model （いじめ被害の悪化とその影響及びケアに関する検討） 主査：准教授　加藤　弘通
	たかしま　まさゆき 高嶋　真之	現代日本における公教育と学習塾の関係変容に関する検討―公設型学習塾の両義性を踏まえた補完的な教育機会保障の探究―

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（教育学）	ツァゲールニック TSAHELNIK タッチャナ Tatsiana	The Power of Ancestral Language:Exploring Language, Trauma and Empowerment in the Ainu Context （先祖の言語の力　―アイヌの文脈における言語、トラウマ、エンパワーメントの探求―） 主査：教授　Jeffry Gayman
	ジョセフ サミュエル Joseph Samuel トマシーン Tomasine	Documenting feedback during formal formative reading assessment:Writing-in-interaction and its consequences for second language students （正式な形成的読解評価におけるフィードバックの文書化：ライティング・イン・インタラクションと第二言語学習者への影響について） 主査：准教授　伊藤　崇
	なみおか ゆう 濤岡　優	自立を通した親子関係の変化と繋がりの再検討：関係の中に生きる者が自立を目指すことの意味とは 主査：准教授　加藤　弘通
	まつだ なおよし 松田　直祥	投射動作における自己および他者の誤差に基づく試行間学習 主査：教授　阿部　匡樹
博士（学術）	かたおか れい 片岡　恋惟	大学英語教員が認識する授業不安に関する実証的研究－影響要因と対処過程を視野に入れた混合研究法による分析－ 主査：特任教授　河合　靖
博士（国際広報メディア）	むらべ たかひろ 村部　貴浩	戦後日本の保守主義の研究―福田恒存と江藤淳の考察を中心に― 主査：教授　金山　準
博士（観光学）	こあらい りょう 小新井　涼	ポップカルチャーのファンによる越境的・メディア横断的・次元超越的な移動に関する研究―応援上映に参加する『キンプリ』ファンの実践を事例に― 主査：教授　西川　克之
博士（学術）	シュ テキ 朱　迪	社会理論から見るメディアと権力―白虹事件とロッキード事件を事例として 主査：教授　金山　準
博士（観光学）	ティッロネン ミア Tillonen Mia エミリア Emilia	都市祭礼と宗教的なモノの消費－東京都・鷲神社と花園神社の酉の市の事例－ 主査：教授　西川　克之
博士（国際広報メディア）	トウ シコウ 董　子昂	雲南の「近代」を考え直す－世紀転換期における空間、メディアと知の交錯－ 主査：特任教授　鈴木　純一
博士（学術）	ふくしま けんた 福島　健太	地方のスタートアップ・エコシステムの再検討―動機づけ理論に基づく起業家の多様性に関する実証研究― 主査：教授　中川　理
博士（観光学）	リ キョウ 李　嬌	Factors Influencing Tourists' Overall Re-Participation Intention in Wellness Tourism and Their Loyalty to a Specific Destination （観光客のウェルネス・ツーリズムへの再参加意図と特定の目的地へのロイヤリティに影響する要因） 主査：教授　辻本　篤
博士（学術）	わかすぎ まさし 若杉　雅史	Study of Factors to Promote Participation in Pro-Poor Tourism, One of the Measures to Alleviate Absolute Poverty （絶対的貧困の緩和策としてのプロプアー・ツーリズムへの参加を促進する因子の研究） 主査：教授　神山　裕之
	わたなべ ゆきのり 渡辺　幸倫	訪日旅行者接遇のための英語教育の研究 主査：教授　パイチャゼ　スヴェトラナ
博士（保健科学）	こまつざき みほ 小松﨑　美帆	中年期女性のメンタルヘルスに対するライフスタイル因子の影響とストレッチング運動の効果 主査：教授　遠山　晴一
	さくらい あきこ 櫻井　知子	ケンフェロールのミトコンドリア機能向上作用の解明 主査：教授　石津　明洋
	とみい やすおみ 冨居　泰臣	パーキンソン病患者における恐怖感情の特徴～模擬事故時の皮膚コンダクタンス反応と内受容感覚に着目して～ 主査：教授　澤村　大輔
	なかた あきみ 中田　光海	慢性非特異的腰痛症例における体幹運動時の体幹筋筋活動に関する研究 主査：教授　寒川　美奈

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（保健科学）	房（ボウ） 宛萱（エンケン）	Deep Learning-Based Automated Quantitative Analysis and Clinical Application of Synovitis and Joint Space Changes in Rheumatoid Arthritis （深層学習に基づく関節リウマチの滑膜炎および関節間隙変化の自動定量解析と臨床応用研究） 主査：教授　横澤　宏一
	李（リ） 泳翰（エイカン）	Development and application of highly sensitive LC/MS analysis of oxylipins and short-chain fatty acids （オキシリピンおよび短鎖脂肪酸の高感度LC/MS分析法の開発とその応用） 主査：教授　池田　敦子
	李（リ） 彦君（ヤンクン）	From Image Preprocessing to 3D Modeling: Deep Learning Approaches for Coronary Artery Analysis （深層学習手法を用いた冠動脈解析のための画像前処理から3D モデリングに関する研究） 主査：教授　神島　保
博士（看護学）	日野（ひの） 真莉絵（まりえ）	妊婦看護職における職業性ストレスおよび自己管理行動とその関連要因 主査：教授　鷲見　尚己
博士（工学）	李（イ） 在哲（ジェチョル）	Theoretical design for artificial spin-triplet superconductors （スピン三重項超伝導体のデザインに関する理論的研究） 主査：教授　浅野　泰寛
	姜（ジアン） 治宇（チウ）	Dual Symmetry Classification and Z_2 Point-gap Topology in Non-Hermitian Systems （非エルミート系における双対対称性分類とZ_2ポイントギャップ・トポロジカル相） 主査：准教授　小布施　秀明
	中島（なかじま） 博臣（ひろおみ）	Research on Ultra-Long Lifetime Development for Nano-Silicon Semiconductor Device Implementation （ナノSi半導体素子実装に向けた超長寿命化の研究） 主査：教授　市村　晃一
	亀水（かめすい） 豪（ごう）	その場観察技術を活用した拡散現象の解明によるリチウム電析機構の包括的研究 主査：准教授　松島　永佳
	牛（ニウ） 孟珂（メンガ）	Helium and hydrogen effect on the microstructural evolution and mechanical property of irradiated Co-free FCC medium entropy alloys for nuclear application （原子炉用CoフリーFCCミディアムエントロピー合金の照射下における微細組織変化と機械的特性に及ぼすヘリウムと水素の影響） 主査：教授　橋本　直幸
	刘（リウ） 鑫鑫（シンシン）	Influence of Metal Cations on Corrosion Behavior of Titanium in Sulfuric Acid Solutions （硫酸環境中におけるチタンの腐食に及ぼす金属カチオンの影響） 主査：准教授　坂入　正敏
	LEANG（レアン） So Khuong（クオン）	INVESTIGATION OF DROPLET EVAPORATION CHARACTERISTICS OF CONVENTIONAL AND CARBON-NEUTRAL TRANSPORTATION FUELS UNDER VARIOUS TEMPERATURE AND PRESSURE CONDITIONS （様々な温度・圧力条件下での従来型およびカーボンニュートラル輸送燃料の液滴蒸発特性に関する研究） 主査：准教授　橋本　望
	任（ニン） 福東（フウドン）	Landslide Risk Assessment and Bridge Disaster Management Using Machine Learning and Deep Learning Models （機械学習と深層学習モデルを用いた地すべり危険度評価と橋梁災害リスク評価） 主査：准教授　磯部　公一
	Duong（ズオン） Huu Nghi（ヒュウ ギー）	The Study of Varying Weights in Rational Basis Functions in Isogeometric Large-Displacement Analysis of Beams （梁のアイソジオメトリック大変位解析における有理基底関数の重み付けに関する研究） 主査：教授　松本　高志

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	段（ダン） 開峰（カイホウ）	Development of efficient solution algorithms based on sensitivity analysis for network design problems with user equilibrium constraints （利用者均衡制約付ネットワークデザイン問題に対する感度分析に基づく効率的解法の開発） 主査：教授　内田　賢悦
	MIN（ミン） Vuthea（ブティア）	DEVELOPMENT OF MATURITY MODEL FOR THE ASSESSMENT OF CONSTRUCTION WASTE MANAGEMENT （建設廃棄物管理に対する評価における成熟度評価モデルの構築） 主査：准教授　松本　浩嗣
	射場（いば）　淳（じゅん）	硬化型復元力特性と慣性質量ダンパーを組み合わせた変位抑制型免震構造に関する研究 主査：教授　菊地　優
	KRIVOROTKO（クリボロトコ） Margarita（マルガリータ）	Efficient Public Space Design for Pedestrian Network in Cold-Climate Cities （寒冷都市における歩行者ネットワークのための効果的な公共空間デザイン） 主査：教授　瀬戸口　剛
	SOMKUWAR（ソムクワール） Akshay（アクシェイ） Arun（アルン）	Influence of Modeling Choices on Nonlinear-Dynamic Behavior of a Single-Layer Reticulated Dome （単層ラチスドームの非線形動的挙動に解析モデルが及ぼす影響） 主査：准教授　松井　良太
	中川（なかがわ）　尚郁（なおふみ）	単一観測点の地震記録の自己相関関数を用いた地下構造の不整形性推定に関する研究 主査：准教授　高井　伸雄
	任（イム）　裕彬（ユビン）	発泡プラスチック系断熱材の劣化メカニズムとその耐久性に関する研究 主査：教授　北垣　亮馬
	中島（なかじま）　芽梨（めり）	DNA修飾金ナノ粒子を用いた微生物核酸の簡易分析法の開発 主査：教授　佐藤　久
	闫（エン）　震（シン）	Exploring the Solidification of Sand Using Biocement Technology with Kitchen Waste （生ごみを利用したバイオセメント技術による砂の固化に関する研究） 主査：教授　川﨑　了
	岡田（おかだ）　夏男（なつお）	環境調和型鉱山操業におけるハイパースペクトルイメージングと機械学習を用いた重金属鉱物検出に関する研究 主査：教授　川村　洋平
	DZIMUNYA（ジムンヤ） Nevaid（ネバイド） Zvikomborero（ツヴィコンボレロ）	Pillar Design in Jointed Shallow Room-and-Pillar Hard Rock Mines （亀裂性硬岩中の浅部柱房式鉱山における鉱柱の設計） 主査：特任教授　藤井　義明
	陈（チェン）　美琪（メイキ）	Exploration and utilization of airborne bacteria for soil improvement using microbial induced carbonate precipitation （MICPによる地盤改良のための空中浮遊菌の探索と利用） 主査：教授　川﨑　了
	張（チョウ）　誠（セイ）	Effects of Weak Rock Zones and Stone Wall on Mining-induced Deformation of Rock Slope at Mt. Buko （武甲山の残壁の掘削変位に与える弱層の影響と盛石の効果） 主査：特任教授　児玉　淳一
博士（理学）	岩間（いわま）　司（つかさ）	Operando X-ray Photoelectron Spectroscopic Study on Electrode Reactions of Positive and Negative Electrodes in All-Solid-State Lithium-Ion Batteries during Charge/Discharge Cycles （充放電過程における全固体リチウムイオン電池の正・負極反応に関するオペランドX線光電子分光研究） 主査：教授　村越　敬
	宇野（うの）　早映（さえ）	Study on the Regulation of Adipocyte Differentiation and Maturation by Ser/Thr Phosphatase PPM1D （Ser/Thrホスファターゼ PPM1Dによる脂肪細胞の分化および成熟に関する研究） 主査：教授　阿部　一啓

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	王　雨申（オウ　ウシン）	Study on The Effect of $LiNO_3$ on Solid Electrolyte Interface Structure and Electrolyte Degradation in Ether-based Low-concentration Electrolyte for Anode-free Lithium Metal Battery （低濃度エーテル系電解液を用いた負極フリーリチウム金属電池の固体電解質界面構造および電解質劣化における$LiNO_3$の影響に関する研究） 主査：教授　村越　敬
	大城　海（おおしろ　かい）	Theoretical Study on Catalytic Property of Ceria for the Reduction of Nitrogen Oxides （窒素酸化物還元における酸化セリウムの触媒特性に関する理論的研究） 主査：教授　前田　理
	加藤　蘭丸（かとう　らんまる）	Synthesis of Natural Terpenoids Using Anionic 8π Electrocyclic Reactions （アニオン性8π系電子環状反応を利用したテルペン系天然物の合成） 主査：教授　澤村　正也
	神名　航（かんな　わたる）	Quantum Chemical Calculation-Aided Design of Carboxylation Reactions and Their Experimental Demonstration （量子化学計算を活用したカルボキシル化反応の設計と実験的実証） 主査：教授　武次　徹也
	Fernando Garcia Escobar（フェルナンド　ガルシア　エスコバル）	Development of a Catalyst Informatics Pipeline for Heterogeneous Catalyst Design （不均一系触媒設計のための触媒インフォマティクス・パイプラインの開発） 主査：教授　前田　理
	佐藤　大樹（さとう　だいき）	Polaritonic Multi Electron Transfer Reactions Using Structured Electrodes （構造電極によるポラリトン多電子移動反応制御） 主査：教授　上野　貢生
	佐藤　美優（さとう　みゆ）	Design and Synthetic Use of Heterobimetallic Catalysts with *N*-Heterocyclic Carbene Ligands （含窒素複素環カルベン配位子を有する異種2核金属錯体触媒の設計と反応開発） 主査：教授　谷野　圭持
	諏訪　俊一（すわ　しゅんいち）	イオン–シアノ基双極子相互作用を利用した機能性液晶材料の研究 主査：教授　佐田　和己
	早乙女　広樹（そうとめ　ひろき）	Convergent Approach of Carbocations and Organolithiums Using Integrated Flow System （カルボカチオンと有機リチウム種の収束的フロー反応） 主査：教授　澤村　正也
	辻岡　一眞（つじおか　かずま）	Study on New Adhesion and Friction Based on Stress Dispersion Effects of Surface Microstructure of Organisms （生物表面微細構造の応力分散効果に基づく新たな接着・摩擦に関する研究） 主査：教授　佐田　和己
	西田　叡倫（にしだ　まさつぐ）	Development of Black-Box Static Electron Correlation and Extremely Large-Scale Electronic Structure Methods （ブラックボックスな静的電子相関計算法と超大規模電子状態計算手法の開発） 主査：教授　長谷川　淳也
	平家　嘉人（へいけ　よしと）	Studies on Attractive Interactions and Reactivities of Organophosphorus Compounds in Transition Metal Catalysis and Organocatalysis （遷移金属錯体触媒および有機触媒における有機リン化合物の引力性相互作用と反応性に関する研究） 主査：教授　鈴木　孝紀
	牟田　健祐（むた　けんすけ）	Taming of Halogen-Containing Metal Carbenoid Species Using Flow Microreactors （フローマイクロリアクターを用いた含ハロゲン金属カルベノイド種の反応制御） 主査：教授　澤村　正也
	六辻　晶大（むつじ　あきひろ）	Theoretical Study of Electron Transfer Reactions by Energy Decomposition （エネルギー分割による電子移動反応の理論的研究） 主査：教授　長谷川　淳也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	孟 宇（モウ ウ）	Synthesis, Crystal Structures, and Chloride-ion Conducting Properties of Oxychlorides with Open Borate Frameworks （ホウ酸塩の開骨格構造を有する酸塩化物の合成と結晶構造及び塩化物イオン伝導特性） 主査：教授　松井　雅樹
	Ridwan Pratama Putra（リドワン プラタマ プトラ）	Study on the Nanomechanical Properties of All-solid-state Li-ion Battery Electrodes during Charge and Discharge Processes （全固体リチウムイオン電池電極の充放電過程におけるナノメカニクス特性に関する研究） 主査：教授　佐田　和己
博士（工学）	安藤 廉平（あんどう れんぺい）	Development of Functional Crystalline Materials Based on NHC Metal Complexes （NHC金属錯体を用いた機能性結晶材料の開発） 主査：教授　猪熊　泰英
	李 采訓（イ チェフン）	Design of Sugar-Terpenoid Block Co-oligomers for Construction of Ultrasmall Microphase-Separated Structures （超微細ミクロ相分離構造構築を目指した糖-テルペノイドブロックコオリゴマーの設計） 主査：教授　松本　謙一郎
	江部 陽（えべ みなみ）	Design and Synthesis of Multicyclic Poly(dimethylsiloxane) to Study Their Properties in Melt State and Cross-Linked Network （溶融状態および架橋ネットワーク中における物性研究のための多環状ポリジメチルシロキサンの設計と合成） 主査：教授　松本　謙一郎
	加藤 将貴（かとう まさき）	Study on Gas Separation Membrane Based on Covalent Organic Frameworks （共有結合性有機構造体を用いた気体分離膜に関する研究） 主査：教授　青木　芳尚
	白倉 逸人（しらくら はやと）	Development of Image-Based Machine Learning Systems for Predicting Solid Mixture Ratios and Application to Analysis of Solid-State Reactions （画像機械学習による混合比予測システムの開発と固相反応分析への応用） 主査：教授　伊藤　肇
	髙橋 陸朗（たかはし りくろう）	Design and Mechanistic Studies of Transformations with Highly Reactive Organoboron and Silylborane Reagents for Efficient Organic Synthesis （高効率な有機合成に向けた高活性有機ホウ素化合物およびシリルボラン試薬を用いる有機変換反応の設計と機構解析） 主査：教授　大熊　毅
	杜 鵬飛（ドゥ ペンフェイ）	Development of High-Performance Catalysts for EtOH Synthesis via CO_2 Hydrogenation and Syngas Conversion （CO_2水素化と合成ガス変換によるEtOH合成触媒の開発） 主査：教授　村山　徹
	野口 真司（のぐち しんじ）	Construction of Photonic–Plasmonic Coupling Color Material Combining Structural Colors by Colloidal Particles and Localized Surface Plasmon Resonances by Metal Nitride Nanoparticles （コロイド粒子の構造色と金属窒化物ナノ粒子の局在表面プラズモン共鳴を組み合わせたフォトニック－プラズモニックカップリング発色体の構築） 主査：教授　島田　敏宏
	林 穣（はやし じょう）	Study on Luminescent Lanthanide Coordination Polymers with Amide-based Linker Ligands （アミド誘導体を架橋配位子とする発光性希土類配位高分子に関する研究） 主査：教授　青木　芳尚
	方 彤（ファン トン）	Development of Sulfide-based Inorganic-Organic Hybrid Solid Electrolytes for All-solid-state Lithium Batteries （全固体リチウム電池用硫化物系無機・有機ハイブリッド固体電解質の開発） 主査：教授　長谷川　靖哉

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	増田（ますだ） 直也（なおや）	Structural Analysis of Novel Halogen-Rich Argyrodite and Verifying the Applicability as a Solid Electrolyte for All-Solid-State Batteries （新規アルジロダイト型硫化物固体電解質の結晶構造解析と全固体電池への適用性検証） 主査：教授　青木　芳尚
	宮﨑（みやざき） 眞太（しんた）	Unsteady-state Catalytic Systems for Direct CO_2 Capture and Reduction （直接CO_2回収・還元に有効な非定常触媒反応プロセスの開発） 主査：教授　村山　徹
	渡邉（わたなべ） 智久（ともひさ）	Study of Polymer Topology Effects on Cyclic Poly(ethylene glycol) and Pluronic Surfactants in Solution and at Interfaces （環状ポリエチレングリコールおよびプルロニック界面活性剤の溶液ならびに界面におけるトポロジー効果の研究） 主査：教授　松本　謙一郎
博士（経営学）	岩田（いわた） 知子（ともこ）	ドラッグストアのグローバル戦略－ツルハホールディングスの事例－ 主査：准教授　宇田　忠司
	長桶（ながおけ） 和也（かずや）	産業用ロボット企業の競争優位に関する研究－世界3大ロボット企業の比較分析－ 主査：准教授　深山　誠也
博士（経済学）	NURILLAEV（ヌリラェフ） KARAMAT（カラマット） MARATOVICH（マラトビッチ）	Effects of Technological Change on Employment and Trade in Developing Economies （発展途上国における技術革新が雇用と貿易に与える影響の実証分析） 主査：教授　安部　由起子
	KHASANOV（ハサノフ） SHOKHRUKH（ショフルフ） HAMID UGLI（ハミドウグリ）	Essays on Trade, Environmental Challenges, and Poverty in Transition Economies （移行経済諸国における貿易，環境問題，貧困に関する研究） 主査：准教授　相澤　俊明
博士（医学）	FORGIONI（フォルジョーニ） Agustina（アグスティーナ）	Anti-inflammatory Effects of *ex-vivo* Generated Donor Antigen-specific Immunomodulatory Cells on Pancreatic Islet Transplantation （ドナー抗原特異的免疫抑制性細胞の膵島移植における抗炎症効果） 主査：教授　清野　研一郎
	阿部（あべ） 隆宏（たかひろ）	経カテーテル的大動脈弁置換術を施行された重症大動脈弁狭窄症患者における改訂日本語版Cardiovascular Health Studyを用いたフレイル評価の有用性および予後推定に関する検討 （Usefulness of frailty assessment using the revised Japanese version of the Cardiovascular Health Study on the prediction of clinical outcomes in patients with severe aortic stenosis undergoing transcatheter aortic valve replacement） 主査：教授　若狭　哲
	石井（いしい） 陸（りく）	羊膜由来間葉系幹細胞による黄色ブドウ球菌感染糖尿病性潰瘍の治療法の開発 （Development of a treatment for diabetic ulcers infected with ***Staphylococcus aureus*** using amniotic membrane-derived mesenchymal stem cells） 主査：准教授　外丸　詩野
	石津（いしづ） 帆高（ほたか）	骨粗鬆症の診断、治療に対する問題点への臨床的、基礎的病態解明アプローチ （Clinical and Basic Pathophysiological Approaches to the Challenges in Diagnosis and Treatment of Osteoporosis） 主査：教授　髙橋　誠
	大江（おおえ） 悠希（ゆうき）	糖尿病治療課題に対する多面的アプローチ （Investigation of multifaceted approach for diabetes treatments） 主査：教授　伊藤　陽一
	加藤（かとう） 万里絵（まりえ）	ハイドロゲルを用いた中皮腫幹細胞の創出および機能解析 （evelopment of mesothelioma stem cells using hydrogel and functional analysis） 主査：教授　加藤　達哉
	川代（かわしろ） 啓太（けいた）	腎移植レシピエントにおけるSARS-CoV-2 mRNAワクチンの効果についての検討 （Study about effect of SARS-CoV-2 mRNA vaccine in kidney transplant recipients） 主査：教授　小林　弘一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	北原 圭太（きたはら けいた）	TGF-β刺激好中球による軟骨保護作用のメカニズムの解明研究 （Research on the mechanism of chondroprotective functions of TGF-β stimulated neutrophil） 主査：教授　小林　弘一
	木野田 直也（きのた なおや）	ラットを用いた脳脊髄液トレーサーMRIについての研究 （Neurofluid tracer studies in rats using magnetic resonance imaging） 主査：教授　田中　真樹
	工藤 彰彦（くどう あきひこ）	自己免疫性小脳失調症における臨床像の検討研究と抗神経抗体測定に関する研究 （Studies on the clinical features and methods for detecting neural antibodies in autoimmune cerebellar ataxia） 主査：教授　石田　晋
	小泉 富基（こいずみ ふうき）	膵がん化学放射線療法におけるリンパ球温存放射線治療法の開発に関する研究 （Studies on the development of lymphocyte-sparing radiation therapy in patients with pancreatic cancer treated with concurrent chemoradiotherapy） 主査：教授　武冨　紹信
	侯（コウ） 佳慧（カケイ）	Studies about a therapeutic efficacy of EVA1-Antibody Drug Conjugate using glioblastoma-bearing mouse model （膠芽腫モデルマウスを用いたEVA1-抗体薬物複合体の治療効果に関する研究） 主査：教授　谷口　浩二
	甲谷 理紗子（こうや りさこ）	切除不能肝細胞癌患者における血清FGF21とレンバチニブ治療による食欲不振及び免疫チェックポイント阻害薬治療における予後との関連についての検討 （Study of the Involvement of Serum FGF21 in Lenvatinib-Induced Appetite Loss and Prognosis of Immune Checkpoint Inhibitor Therapy in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma） 主査：准教授　七戸　俊明
	阪田 敏聖（さかた としひろ）	肝がんにおけるNK細胞の抗腫瘍免疫を負に制御する因子の同定と新規治療標的の探索 （Study on potential targets for immune intervention by revealing NK cell function-related phenotypes in HCC patients） 主査：教授　清野　研一郎
	崎山 広大（さきやま こうだい）	リウマチ・膠原病における画像検査を用いた治療反応性および予後との関連についての研究 （Predicting treatment efficacy and prognosis using imaging analysis in rheumatic diseases） 主査：教授　氏家　英之
	佐々木 貴志（ささき たかし）	本邦でのB型肝炎患者におけるD型肝炎ウイルス共感染頻度に関する後方視的検討 （The Prevalence and Characteristics of Hepatitis Delta Virus Infection in Japanese Patients with HBV Infection） 主査：教授　本間　明宏
	佐々木 雄輝（ささき ゆうき）	腫瘍溶解性ウイルスと抗PD-1抗体の併用療法のマウスメラノーマモデルにおける検証 （Studies on oncolytic virus and anti-programmed cell death protein 1 antibody combination therapy in a murine melanoma model） 主査：教授　田中　伸哉
	佐野 修平（さの しゅうへい）	進行直腸癌の術前化学放射線療法における治療効果および長期予後に関連する病理学的予測因子の研究 （A Study on Pathological Predictive Factors Related to the Therapeutic Effects and Long-term Prognosis of Preoperative Chemoradiotherapy in Locally Advanced Rectal Cancer） 主査：教授　小野　尚子
	澤井 彩織（さわい さおり）	ハイドロゲルを用いた白血病幹細胞誘導に関する研究 （Analysis of synthetic polymer hydrogel-based generation of leukemia stem cells） 主査：教授　佐藤　典宏

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	椎谷（しいや） 研彦（あきひこ）	EGFR阻害により誘導されるEGFR変異陽性肺癌の腫瘍微小環境における自然免疫シグナル伝達経路の変化 （EGFR inhibition in EGFR-mutant lung cancer cells perturbs innate immune signaling pathways in the tumor microenvironment） 主査：准教授　中丸　裕爾
	塩田（しおた） 惇喜（じゅんき）	放射線量の異なるビタミンE配合高ポリエチレンライナー摩耗粉における炎症性骨吸収の検討 （Impact of different dosages of e-beam irradiation on mechanical strength of vitamin E-blended ultra-high-molecular-weight polyethylene and the osteolytic activities of its wear debris） 主査：教授　村上　正晃
	重沢（しげさわ） 郁美（いくみ）	グルコキナーゼヘテロ欠損が長期高脂肪高スクロース食負荷マウスにおける膵β細胞量・機能に与える影響 （Effects of glucokinase haploinsufficiency on the pancreatic β-cell mass and function in long-term high-fat, high-sucrose diet-fed mice） 主査：教授　南須原　康行
	島（しま） 秀起（ひでき）	肺疾患および/または低酸素血症に伴う肺高血圧症における右室機能障害の特徴と臨床的意義 （Characteristics and clinical significance of right ventricular dysfunction in pulmonary hypertension due to lung diseases and/or hypoxia） 主査：教授　藤村　幹
	鈴木（すずき） 久崇（ひさたか）	腰椎変性疾患における新規治療と診断技術の開発 （Novel therapeutic and diagnostic techniques in lumbar degenerative diseases） 主査：教授　髙橋　誠
	鈴木（すずき） 諒太（りょうた）	X染色体連鎖型アルポート症候群女性における、遺伝子型とX染色体不活化が表現型に与える影響に関する研究 （Studies on the phenotypic impact of genotype and X-chromosome inactivation in females with X-linked Alport syndrome） 主査：教授　西尾　妙織
	須藤（すとう） 啓斗（けいと）	CRISPR/Cas9 screeningによって同定されたMAD2L1BPとANAPC15はPTCLにおけるブレンツキシマブベドチンへの感受性に関与する （Genome-wide CRISPR screen identifies MAD2L1BP and ANAPC15 as targets for brentuximab vedotin sensitivity in CD30+ PTCL） 主査：教授　真部　淳
	許（スー） 哲源（チェユアン）	PTEN loss is a possible mechanism of trastuzumab resistance in extramammary Paget disease （PTEN欠失は乳房外Paget病においてトラスツズマブ抵抗性のメカニズムに関与している可能性がある） 主査：教授　高橋　将人
	立田（たつた） 大志郎（だいしろう）	日本人心不全患者に対する緩和ケアニーズアセスメントツールの妥当性と信頼性に関する研究 （Studies on Validity and Reliability of the Palliative Care Needs Assessment Tool in Japanese Patients with Heart Failure） 主査：教授　上田　佳代
	中村（なかむら） 公亮（こうすけ）	慢性心不全患者における軽度三尖弁閉鎖不全症が運動耐容能および予後に与える影響の検討 （Impact of Mild Tricuspid Regurgitation on Exercise Capacity and Clinical Outcomes in Patients with Chronic Heart Failure） 主査：教授　今野　哲
	西岡（にしおか） 典子（のりこ）	MRIのT2*強調画像を用いた微小出血の自動検出―モルフォロジーフィルタバンクと畳み込みニューラルネットワークの活用― （Automated detection of cerebral microbleeds on MRI T2*weighted images: using a morphology filter bank and convolutional neural network） 主査：教授　青山　英史

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	西田（にしだ） 善郎（よしお）	閉経後骨粗鬆症の新規治療薬開発に向けた骨マクロファージの解析研究 （Research on osteal macrophages as a potential innovative therapy for postmenopausal osteoporosis） 主査：教授　和田　剛志
	西野（にしの） 広太郎（こうたろう）	心房細動患者における低電位領域の新規バイオマーカーとしての血清血管作動性腸管ペプチドに関する研究 （Studies on Serum Vasoactive Intestinal Peptide as a Novel Biomarker for Low-Voltage Areas in Patients with Atrial Fibrillation） 主査：教授　藤村　幹
	原田（はらだ） 茂（しげる）	泌尿器科医師の手術時における精神労働負荷と関連する因子についての前向き観察研究 （Surgeons' Workloads and Associated Factors in Real-world Practice: A Prospective Study） 主査：教授　渡利　英道
	東野（ひがしの） 真幸（まさゆき）	Linked color imaging画像強調観察が胃癌の視認性に及ぼす効果と視覚化される色と病理組織像に関する検討 （Investigation of the effect on visibility of gastric cancer and the relationship between visualized color and histopathological images in linked color imaging） 主査：教授　長　祐子
	久田（ひさだ） 雄一郎（ゆういちろう）	縦断的全脊椎CT検査を用いた脊柱後縦靭帯骨化症の進展と危険因子に関する調査研究 （Distinct progression pattern of ossification of the posterior longitudinal ligament of the thoracic spine versus the cervical spine: a longitudinal whole-spine CT study） 主査：教授　矢部　一郎
	范（ファン） 彬（ビン）	Establishment of a Novel Method for Differentiating into Dopaminergic Neurons Using Charged Hydrogels （基質荷電を用いたドパミン作動性神経細胞への新規分化法及び治療法の確立） 主査：教授　吉川　雄朗
	麓（ふもと） 佳月（よしづき）	筋分化過程の連続的な観察を実現する、分化度ライブイメージングシステムの開発とその応用 （Development and application of a live differentiation imaging system for continuous observation of the myogenic differentiation process） 主査：教授　荒戸　照世
	古澤（ふるさわ） 翔（しょう）	2型糖尿病患者における経口セマグルチドの有効性・安全性に関する検討：多施設共同後ろ向き観察研究と多施設共同前向き非盲検並行群間無作為化比較試験による包括的評価 （Comprehensive analysis of efficacy and safety of oral semaglutide in patients with type 2 diabetes : a multicenter retrospective observational study and a multicentre, prospective, randomized, open-label, parallel-group comparison study） 主査：教授　的場　光太郎
	堀（ほり） 寛太（かんた）	Claspinを標的とした膀胱癌に対する遺伝子改変T細胞療法の樹立 （Establishment of potent TCR-T cells specific for cisplatin-resistance related tumor-associated antigen, CLSPN） 主査：教授　渡利　英道
	宮本（みやもと） 麻唯子（まいこ）	耐糖能異常患者における腎移植後の耐糖能変化に関する研究 （Studies on changes in glucose tolerance after kidney transplantation in patients with impaired glucose tolerance） 主査：教授　安部　崇重
	村西（むらにし） 雄貴（ゆうき）	孤発性非閉塞性無精子症患者115名における網羅的遺伝学的解析 （Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia） 主査：教授　西尾　妙織
	安井（やすい） 悠太郎（ゆうたろう）	慢性心不全患者における心肺運動負荷試験で測定された最大負荷量/体重比の予後的意義 （Prognostic Significance of Peak Workload-to-Weight Ratio by Cardiopulmonary Exercise Testing in Chronic Heart Failure） 主査：教授　森本　裕二

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	山本 岳（やまもと がく）	*KRAS*変異肺がんの治療抵抗性克服を目指した新規分子標的併用療法の開発 （Targeting WEE1 to improve the therapy of *KRAS*^{G12C} mutant non-small cell lung cancer） 主査：教授 園下 将大
	楊 一馳（ヤン イチ）	Development of Exacerbation Prediction Models for Patients with Refractory Asthma Based on Peak Flow Monitoring data （ピークフローモニタリングデータに基づいた難治性喘息患者における増悪予測モデルの開発） 主査：教授 玉腰 暁子
	渡邊 一永（わたなべ かずのり）	膵臓癌のリキッドバイオプシーによる循環腫瘍DNAの臨床的有用性に関する研究 （A study on the clinical utilities of liquid biopsy circulating tumor DNA in pancreatic cancer） 主査：教授 小野 尚子
	高橋 瑞奈（たかはし みずな）	胆道癌診断のための新規腫瘍マーカーに関する研究 （Research on novel tumor marker for diagnosis of biliary cancer） 主査：教授 武冨 紹信
博士（歯学）	魏 紫茉（ギ シマツ）	Physiological study of the effects of cisplatin-induced conditioned sweet taste aversion on feeding and drinking behavior in rats （シスプラチン誘発条件付け甘味嫌悪がラットの摂食・飲水行動に与える影響に関する生理学的研究） 主査：教授 舩橋 誠
	小西 大輔（こにし だいすけ）	Near-infrared light-boosted antimicrobial activity of minocycline/ hyaluronan/carbon nanohorn composite toward peri-implantitis treatments （インプラント周囲炎治療を目的とした近赤外光応答性ミノサイクリン／ヒアルロン酸／カーボンナノホーン複合体の抗菌効果の検討） 主査：教授 坂口 究
	YANG Shan（ヤン シャン）	Effects of different calcium hydroxide pastes on dentine resorption of osteoclasts in vitro （異なる水酸化カルシウム製剤がin vitro における破骨細胞による象牙質吸収に与える影響） 主査：教授 八若 保孝
	姚 斉（ヨウ キ）	Histochemical assessment of the femora of Spontaneously Diabetic Torii-*Lepr* ^{fa} (SDT-*fa/fa*) rats that mimic type II diabetes （Ⅱ型糖尿病モデルSpontaneously Diabetic Torii-*Lepr* ^{fa} (SDT-*fa/fa*)ラット大腿骨の組織化学的解析） 主査：教授 網塚 憲生
	吉田 理志（よしだ たかし）	Histochemical assessment of interradicular and interalveolar septa following a single anti-RANKL antibody injection in mice （抗RANKL 中和抗体単回投与後のマウス根間中隔及び槽間中隔における組織化学的検索） 主査：教授 網塚 憲生
	小石 桃子（こいし ももこ）	乳歯エナメル質の硬度と関連する因子 主査：教授 佐藤 嘉晃
	榊原 真子（さかきばら まこ）	Histochemical analysis of osteoclast and osteoblast distributions on a hydroxyapatite/collagen bone-like nanocomposite embedded in rat tibiae （ラット脛骨に埋入したハイドロキシアパタイトコラーゲンナノ複合材における破骨細胞と骨芽細胞分布の組織化学的解析） 主査：教授 網塚 憲生
	鈴木 悠人（すずき ゆうと）	味覚嫌悪学習の神経基盤：視床室傍核の機能的意義 主査：教授 舩橋 誠
	中川 悠（なかがわ ゆう）	Day-to-day variation in masseteric electromyographic waveforms during the diurnal awake state （日中覚醒時における咬筋筋電図波形の日間変動） 主査：教授 黒嶋 伸一郎
	西浦 まい（にしうら まい）	Extracellular Laminins distinctively regulate phenotypic expression of PC-12 neuronal cells （細胞外ラミニンはPC-12神経細胞の表現型発現を特有に制御する） 主査：教授 飯村 忠浩

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（歯学）	馬場（ばば） 政典（まさのり）	睡眠時ブラキシズムの日間変動とその関連因子の実態解明 主査：教授　黒嶋　伸一郎
	昊（ウー） 楠（ナン）	Effect of Chitin on the Physical and Mechanical Properties of Glass Ionomer Cements （グラスアイオノマーセメントの物理的・機械的特性に対するキチンの影響） 主査：教授　友清　淳
	兼子（かねこ） 裕史（ひろふみ）	Evaluation of Shade Integration of a Novel Universal-Shade Flowable Bulk-Filling Resin Composite （新規ユニバーサルシェード・バルクフィルタイプ・フロアブルレジンの色調適合性の評価） 主査：教授　友清　淳
	阪田（さかた） 哲郎（てつろう）	新規レジンセメントプライマーと様々なレジンセメントとの接着強さの比較 主査：教授　友清　淳
	髙橋（たかはし） 浩司（こうじ）	介護保険施設入所要介護高齢者における低栄養と臼歯部咬合支持数との関係 主査：教授　山崎　裕
	槌谷（つちや） 賢太（けんた）	Physio-Chemical and Bioactive Properties of Experimental Calcium Silicate-Based Cement Containing Phosphate Compounds （リン酸化合物を含んだカルシウムシリケート セメントの物理化学的性質と生体活性特性について） 主査：教授　友清　淳
	町（まち） 捺美（なみ）	介護保険施設における要介護高齢者の看取りと歯科衛生士の常勤勤務との関係：2 年間の多施設縦断研究 主査：教授　山崎　裕
	佐久間（さくま） 柚衣（ゆい）	ファイル到達不可根管への高周波通電による*Enterococcus faecalis*バイオフィルムの焼灼および除去効果 主査：特任教授　菅谷　勉
	白石（しらいし） 司（つかさ）	高周波通電によるファイル到達不可根管の焼灼に対する 根管の長さと通電回数の影響 主査：特任教授　菅谷　勉
	赤堀（あかほり） 永倫香（えりか）	*Porphyromonas gingivalis*による血管内皮細胞間接着の低下を介した腫瘍転移誘導 主査：教授　樋田　京子
	ALANAZI（アラナズィ） Hamad Khalaf G（ハマド カーラフジー）	Study of clinicopathological factors related to recurrence, metastasis, and prognosis in lower gingival squamous cell carcinoma （下顎歯肉扁平上皮癌における再発、転移および予後に関する臨床病理学的検討 ） 主査：教授　大廣　洋一
	板垣（いたがき） 竜樹（たつき）	dysbiosis と多様性の検討 主査：教授　長谷部　晃
	内田（うちだ） 知希（かずき）	E4領域によるアデノウイルス後期遺伝子群　翻訳反応の活性化 主査：教授　長谷部　晃
	桜井（さくらい） 優弥（ゆうや）	Endothelial cell senescence enhances the endocytosis of SARS-CoV-2 leading to vascular dysfunction in COVID-19 （血管内皮細胞の老化によるエンドサイトーシスを介したSARS-CoV-2 の取り込み増強は COVID-19 における血管内皮機能障害の一因である） 主査：教授　樋田　京子
	任（ニン） 子驍（シギョウ）	Changes in High Endothelial Venules with Progression of Oral Squamous Cell Carcinoma （口腔扁平上皮癌進展に伴う高内皮細静脈の変化） 主査：教授　樋田　京子
	劉（リュウ） 軒宇（ケンウ）	Histochemical assessment of the anabolic effects of abaloparatide on the femoral metaphyses of ovariectomized mice （アバロパラチド投与卵巣摘出マウスの大腿骨骨梁における組織化学的評価） 主査：教授　網塚　憲生
	藤川（ふじかわ） 優理絵（ゆりえ）	Burning mouth syndrome患者における唾液中ストレスマーカーおよび自律神経活動の検討 主査：教授　宮本　郁也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（獣医学）	加藤（かとう） 千博（かずひろ）	EPRレドックスイメージングと他のイメージング技術の併用によるがん治療応答評価に関する研究 （Studies on the evaluation of cancer treatment response using combined EPR redox imaging and other imaging techniques） 主査：教授　森松　正美
	川元（かわもと） 誠（せい）	A Clinical Study on Left Atrial Reverse Remodeling after Mitral Valvuloplasty for Myxomatous Mitral Valve Disease in Dogs （犬の粘液腫様僧帽弁疾患に対する僧帽弁形成術後の左房リバースリモデリングに関する臨床研究） 主査：教授　木村　享史
	谷田（たにだ） 孝志（たかし）	Identification of the structual element of osteopontin for the restoration of the normal endometrial epidermal growth factor profile and fertility in repeat breeder dairy cows （乳用リピートブリーダー牛の子宮内膜上皮成長因子発現と受胎性を回復させるオステオポンチンの構造的最小単位の同定） 主査：教授　坪田　敏男
	平井（ひらい） 杏梨（あんり）	Establishment of a highly sensitive detection method for neurotransmission disturbances and elucidation of neurotoxicity mechanism, using neonicotinoids as model compounds （ネオニコチノイドをモデルとした、神経伝達撹乱の高感度検出法の確立と神経毒性メカニズムの解明） 主査：教授　乙黒　兼一
	山下（やました） 晃矢（こうや）	がん細胞集団におけるDNA量不均一性が放射線治療後の放射線抵抗性細胞出現におよぼす影響に関する研究 （Study on the Role of DNA Ploidy Heterogeneity in Cancer Cell Populations in the Emergence of Radioresistant Cells after Radiotherapy） 主査：教授　岡松　優子
博士（医理工学）	落合（おちあい） 彩花（あやか）	心電図同期による^{15}O-水標識dynamic心筋PETを用いた虚血性心筋病変における灌流可能組織割合および心筋血流予備能推定プロトコルの改善 （Improvement in the estimation of perfusable tissue fraction and myocardial flow reserve in the ischemic myocardial lesions using ECG-gated dynamic myocardial PET with ^{15}O-water） 主査：教授　加藤　千恵次
	北川（きたがわ） 真歩（まほ）	脳機能評価における定量MRI指数の探索研究 （Development and Application of Quantitative MRI Indices for Advancing Brain Function Evaluation） 主査：准教授　タ　キンキン
博士（獣医学）	有泉（ありいずみ） 拓馬（たくま）	Studies on the pathogenicity of emerging orthonairovirus, Yezo virus, and effects of antiviral agents against Yezo virus using a mouse model （感染マウスモデルを用いた新興オルソナイロウイルスであるエゾウイルスの病原性と抗ウイルス薬の効果に関する研究） 主査：特任教授　大橋　和彦
博士（感染症学）	ERDENEBAT（エルデネバト） Temuulen（テムーレン）	Studies on prion propagation in neurons and neurons vulnerable to prion infection （神経細胞におけるプリオンの増殖とプリオン感染に脆弱性を示す神経細胞に関する研究） 主査：教授　迫田　義博
	Harvey Kakoma（ハーヴィー カコマ） Kamboyi（カンボイ）	Molecular characterization of the type VII secretion system in *Bacillus* species （バシルス属細菌VII型分泌装置の分子機能解析） 主査：教授　高田　礼人
博士（獣医学）	小林（こばやし） 広子（ひろこ）	Studies on the viral proliferation and pathogenicity of flaviviruses isolated from mosquitoes and wild animals in Zambia （ザンビアの蚊および野生動物から単離されたフラビウイルスの増殖機構と病原性解析） 主査：教授　迫田　義博

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（感染症学）	田谷（たや） 友里恵（ゆりえ）	Studies on the Eukaryotic Communities in Ticks （マダニが保有する真核生物群に関する研究） 主査：特任教授　大橋　和彦
博士（文学）	朝山（あさやま） 明彦（あきひこ）	「関帝」の誕生へー明中後期の関羽信仰 主査：准教授　梅村　尚樹
博士（学術）	新井（あらい） 洋史（ひろふみ）	北東アジアにおける国際協力を通じた地方振興に関する考察 主査：教授　服部　倫卓
博士（文学）	稲荷森（いなもり） 輝一（きいち）	Philosophical Intuitions in the Free Will Debate:Unraveling Boundaries and Insights （自由意志論争における哲学的直観：境界と探求と新たな視座） 主査：准教授　宮園　健吾
	何（カ） 松延（ショウエン）	出土『日書』と先秦数術家の世界観 主査：教授　近藤　浩之
	金（キム） 雲龍（ウニョン）	直観と道徳的判断に対するピーター・シンガーの立場とその補完：道徳的正当化を中心に 主査：教授　藏田　伸雄
博士（学術）	魏（ギ） ブン君（クン）	利用者の主体性を促す展示に関する研究－都道府県立博物館の常設展示を事例として－ 主査：特任教授　佐々木　亨
博士（文学）	倉田（くらた） 守（まもる）	幕末期加賀藩の政治と海防 主査：教授　谷本　晃久
	KOZHEVNIKOVA（コジェブニコワ） Daria（ダリア）	第二次世界大戦後の南サハリンにおける「混在」生活 主査：教授　権　錫永
	セン 麗珊（レイサン）	観光地を生きる人々－中国・貴州省西江（シ・ジャン）ミャオ寨の観光人類学的研究 主査：教授　小田　博志
	張（チョウ） 易臻（イシン）	後藤新平研究－「大日本主義者」の国家構想－ 主査：教授　権　錫永
	張（チョウ） 瑩（エイ）	日本語と中国語における分配量化と全称量化の生成文法による分析 主査：教授　藤田　健
博士（学術）	寺農（てらの） 織苑（しきん）	ミュージアムにおけるビデオゲームアーカイブズ考-展示評価実践によって顕在化した来館者のニーズと現状との差異- 主査：特任教授　佐々木　亨
博士（文学）	長坂（ながさか） 祥悟（しょうご）	共感する我－メーヌ・ド・ビランの心理学と道徳の基礎についての試論 主査：教授　村松　正隆
	Nurmi（ヌルミ） Jussi（ユッシ） Henri（ヘンリ） Sebastian（セバスティアン）	アイヌ語否定表現の語用論的研究 ―口承文芸テキストを中心に― 主査：教授　佐藤　知己
	藤原（ふじわら） 秀樹（ひでき）	北海道における縄文時代の墓と社会 主査：教授　高瀬　克範
	宮﨑（みやざき） 勝正（かつまさ）	H.G.ガダマー『真理と方法』における存在の遊び―芸術、伝承、言語の呈示的本性をめぐって― 主査：教授　田口　茂
	吉村（よしむら） 佳樹（よしき）	Toward a Credible Form of Scanlonian Contractualism （スキャンロン的契約主義のもっともらしい形態の構築に向けて） 主査：教授　藏田　伸雄
博士（人間科学）	貴堂（きどう） 雄太（ゆうた）	協力及びその文化差の起源を探る―文化的集団淘汰理論に基づく理論・実証的検討― 主査：教授　竹澤　正哲
	澤井（さわい） 啓（けい）	社会的受容性の高い野生動物保全の課題: インドネシア共和国カリマンタン島焼畑農耕民による 商業的野生動物猟の民族誌的研究 主査：教授　笹岡　正俊
	段（ダン） 玉（ギョク）	人口減少時代における中国農村地域と宗教団体―ソーシャル・キャピタルの視点から― 主査：教授　櫻井　義秀
	FREEMAN（フリーマン） Jason Dillon（ジェイソン ディロン）	Relational mobility as a socio-ecological foundation of prosocial minds and behaviors （向社会心理・行動における社会生態学的基盤としての関係流動性） 主査：教授　結城　雅樹

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（文学）	土田（つちだ） 修平（しゅうへい）	協力と罰の共進化：罰に対する感受性を中心とした理論的および実証的研究 主査：教授　竹澤　正哲
博士（情報科学）	須崎（すざき） 太久弥（たくみ）	音響を用いた屋内測位およびエコー埋め込みに関する研究 主査：教授　杉本　雅則
	田中（たなか） 海（かい）	Simulation and Detection of Abnormal Behaviors for the Elderly Living Alone in a Smart Home （スマートホームに住まう独居高齢者の異常行動シミュレーションと検出） 主査：教授　中村　篤祥
	張（チョウ） 恩智（オンチ）	Study on Robust Large-scale Neural Network Optimization （堅牢な大規模ニューラルネットワーク最適化に関する研究） 主査：教授　棟朝　雅晴
	町（まち） 光二郎（こうじろう）	A Framework for Extraction of Structured Organic Synthesis Procedures from the Literature （文献から構造化された有機合成手順を抽出するための枠組み） 主査：教授　吉岡　真治
	森（もり） 雄斗（ゆうと）	A Study on the Development of an Electrically Assisted Smart Walker （電動アシストを有するスマート歩行器の開発に関する研究） 主査：教授　川村　秀憲
博士（工学）	呉（ウ） 宇璋（ユジャン）	Effect of zinc incorporation on electron transport properties of indium oxide thin-film transistors （亜鉛導入が酸化インジウム薄膜トランジスタの電子輸送特性に及ぼす影響） 主査：教授　植村　哲也
	江藤（えとう） 亘平（こうへい）	スピン偏極発光ダイオードにおける電子スピン保持輸送とスピン増幅発光に関する研究 主査：特任教授　村山　明宏
博士（情報科学）	宣（セン） 妍（ケン）	Study of Flexible Sensors Toward Internet of Things (IoT) Applications （モノのインターネット（IoT）応用に向けたフレキシブルセンサに関する研究） 主査：教授　植村　哲也
	曹（ソウ） 恩（オン）	Investigation of Interfacial Engineering and Mechanisms of Water Oxidation under Plasmon-Nanocavity Strong Coupling Conditions （プラズモン-ナノキャビティ強結合条件下における界面工学と水中間体生成メカニズムの解明） 主査：教授　橋本　守
	角井（つのい） 建（たける）	Genetic variation and diversity in wild small mammals: an analysis on a mutation in coat color-determining gene of Norway rat (*Rattus norvegicus*) and phylogeography in Japanese moles （野生小型哺乳類における遺伝的多型と多様性: ドブネズミ（*Rattus norvegicus*）における毛色決定遺伝子の変異解析と日本産モグラ類の系統地理学的解析） 主査：准教授　長田　直樹
博士（工学）	古川（ふるかわ） 凌（りょう）	超音波刺激を用いた神経変調システムの開発と生体脳活動修飾への応用 主査：教授　舘野　高
	小屋迫（こやさこ） 優士（ゆうし）	低遅延な遠隔モーション制御を実現するアクセスエッジ技術に関する研究 主査：客員教授　吉田　智暁
博士（情報科学）	SZWOCH（シュフォフ） Joanna Eleonora（ヨアンナ エレオノラ）	Study on propaganda detection in Polish online news （ポーランドのオンラインニュースにおけるプロパガンダ検出に関する研究） 主査：准教授　Rzepka　Rafal
	竹下（たけした） 昌志（まさし）	人工知能への常識道徳の実装および反種差別的観点からの批判的評価の試み 主査：准教授　Rzepka　Rafal
博士（工学）	西沢（にしざわ） 秀樹（ひでき）	データセンタエクスチェンジを実現する光パス自動設計・制御技術 主査：客員教授　吉田　智暁
博士（情報科学）	花房（はなぶさ） 竜馬（りょうま）	ナラティブ・セラピー及び対話の文脈情報を考慮したユーモア処理を有する対話処理システムの開発及び精神医療への応用 主査：准教授　Rzepka　Rafal
	地引（じびき） 琢人（たくと）	電磁デバイスの最適設計および機械学習による高速化に関する研究 主査：教授　五十嵐　一
	林田（はやしだ） 淳（あつし）	EV駆動用蓄電池の定置リユースと地域マイクログリッドにおける活用 主査：准教授　原　亮一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏　名	博　士　論　文　名
博士（情報科学）	本山（もとやま）　風馬（ふうま）	Model Reduction and Control of Boolean Networks Using Binary Decision Diagrams （二分決定グラフを用いたブーリアンネットワークの低次元化と制御） 主査：教授　小林　孝一
博士（工学）	李（リ）　一達（イーダ）	Mobility as a Serviceとマイクログリッドの運用計画の統合に関する研究 主査：准教授　原　亮一
博士（食資源学）	WIWIET（ウィウィット） TEGUH（タグ） TAUFANI（タウファニ）	Precision of growth curve parameters and biological reference points estimated from the length fish data: A case study of Yellowfin tuna (***Thunnus albacares***) in Indonesia （体長データから推定した成長曲線パラメータと生物学的管理基準の精度：インドネシアのキハダマグロ（***Thunnus albacares***）の事例研究） 主査：教授　松石　隆
	沖宗（おきむね）　慶一（けいいち）	Development of a nucleosome assembly method using a wheat germ cell-free co-expression system （コムギ胚芽無細胞タンパク質共翻訳によるヌクレオソーム再構成法の確立） 主査：准教授　高須賀　太一
	陳（チン）　展灼（テンシャク）	A Study on Process-based Modeling of Monoterpene Emission from Terrestrial Ecosystem （陸域生態系からのモノテルペン排出量のプロセスベースモデルによる推定） 主査：教授　加藤　知道
	二宮（にのみや）　秀輝（ひでき）	The impact of non-structural carbohydrate production on the forest dynamics under climate change estimated by spatially explicit individual-based global dynamic vegetation model （空間明示的個体ベース動的全球植生モデルを用いた気候変動下における非構造性炭水化物の生産が森林構造に与える影響の将来予測） 主査：教授　加藤　知道

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	櫻木（さくらぎ） 雄太（ゆうた）	Studies on habitat use of ringed seals (*Pusa hispida*) in glacial fjords, northwestern Greenland （グリーンランド北西部の氷河フィヨルドにおけるワモンアザラシの生息地利用に関する研究） 主査：教授　宮下　和士
博士（農学）	池ヶ谷（いけがや） 智仁（ともひと）	北海道水稲育種の高度化に関わる出穂性と澱粉特性の遺伝的基礎 主査：教授　貴島　祐治
	輿水（こしみず） 健一（けんいち）	日高山脈西部の豪雨低頻度地域における航空写真解析に基づく拡大崩壊の推移評価 主査：特任教授　山田　孝
博士（生命科学）	MUTMAINAH（ムトマイナー）	Study on Malabaricone C Isolated From the Mace of *Myristica fragrans* as Natural Antiviral Against SARS-CoV-2 and Discovery of Its Mechanism of Actions （香辛料由来マラバリコーンCによるSARS-CoV-2感染阻害とその機構解明） 主査：教授　門出　健次
博士（学術）	青木（あおき） 千加子（ちかこ）	英語ライティングにおけるチャットを活用したプレライティング・ディスカッションの考察：「深い学び」と「協同学習」に焦点を当てて 主査：特任教授　河合　靖
博士（工学）	山崎（やまざき） 貴史（たかし）	Dispersion Control and Application of Cationic Polymer Particles by Surface Modification （カチオン性ポリマー粒子表面の改質による分散性制御と応用） 主査：教授　松本　謙一郎
博士（獣医学）	日吉（ひよし） 秀行（ひでゆき）	Studies on removal of off-target cells for clinical application of pluripotent stem cell-derived pancreatic islet cells （多能性幹細胞由来の膵島様細胞の臨床応用に向けた目的外細胞除去に関する研究） 主査：教授　岡松　優子
博士（文学）	井出（いで） 達郎（たつろう）	Vulnerability as the Beginning of Care in Modernist Literature:F.Scott Fitzgerald, Raymond Chandler, Henry Miller, and J. D. Salinger （モダニズム期のアメリカ文学におけるケアのはじまりとしての傷つきやすさ―― F. スコット・フィッツジェラルド、レイモンド・チャンドラー、ヘンリー・ミラー、J. D. サリンジャー） 主査：教授　竹内　康浩

▌表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
7.3.24	ザンビア大学（ザンビア共和国）　Mundia Muya 学長	今後の交流に関する懇談

Mundia Muya ザンビア大学学長（左から5人目）

（国際部国際連携課）

▌人事

令和7年3月16日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
大学院工学研究院教授	三　浦　　章	大学院工学研究院准教授

令和7年3月31日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
（定年）	池　田　清　治	大学院法学研究科教授
	工　藤　　勲	大学院水産科学研究院教授
	露　崎　史　朗	大学院地球環境科学研究院教授
	渡　邉　悌　二	大学院地球環境科学研究院教授
	北　　孝　文	大学院理学研究院教授
	根　本　幸　児	大学院理学研究院教授
	松　本　圭　司	大学院理学研究院教授
	洞　　彰　人	大学院理学研究院教授
	松　田　　正	大学院薬学研究院教授
	井　上　　京	大学院農学研究院教授
	西　村　紳一郎	大学院先端生命科学研究院教授
	大　野　栄　三	大学院教育学研究院教授
	松　田　康　子	大学院教育学研究院教授
	守　屋　　淳	大学院教育学研究院教授
	西　川　克　之	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	加　藤　千恵次	大学院保健科学研究院教授
	結　城　美智子	大学院保健科学研究院教授
	岩　井　一　彦	大学院工学研究院教授
	大　熊　　毅	大学院工学研究院教授
	大　島　伸　行	大学院工学研究院教授
	小　澤　丈　夫	大学院工学研究院教授
	菊　地　　優	大学院工学研究院教授
	藤　田　　修	大学院工学研究院教授
	山　本　有　平	大学院医学研究院教授
	山　崎　　裕	大学院歯学研究院教授
	苅　和　宏　明	大学院獣医学研究院教授
	稲　波　　修	大学院獣医学研究院教授
	稲　葉　　睦	大学院獣医学研究院教授
	櫻　井　義　秀	大学院文学研究院教授
	佐　藤　知　己	大学院文学研究院教授
	弛　　和　順	大学院文学研究院教授
	五十嵐　　一	大学院情報科学研究院教授
	富　田　章　久	大学院情報科学研究院教授
	山　下　　裕	大学院情報科学研究院教授
	佐　藤　典　宏	北海道大学病院教授
	江　淵　直　人	低温科学研究所教授
	三　寺　史　夫	低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授
	玉　置　信　之	電子科学研究所教授
	大　原　昌　宏	総合博物館教授
	FIRKOLA PETER	高等教育推進機構教授
（任期満了）	永　井　健　治	電子科学研究所教授

	鈴木定彦	人獣共通感染症国際共同研究所教授
	野田仁	スラブ・ユーラシア研究センター教授
（辞職）	嶋拓哉	大学院法学研究科教授
	空井護	大学院法学研究科教授
	藤野陽平	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	藏田伸雄	大学院文学研究院教授
【准教授】		
（定年）	工藤岳	大学院地球環境科学研究院准教授
	豊田和弘	大学院地球環境科学研究院准教授
	渡辺豊	大学院地球環境科学研究院准教授
	三品具文	大学院理学研究院准教授
	西村裕一	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授
	長谷川英祐	大学院農学研究院准教授
	黒田明慈	大学院工学研究院准教授
	田中嘉浩	大学院経済学研究院准教授
	工藤正尊	大学院医学研究院准教授
	岡本淳	大学院情報科学研究院准教授
	石黒信久	北海道大学病院准教授
【助教】		
（定年）	山形定	大学院工学研究院助教
	池田考績	大学院歯学研究院助教
	山本裕一	情報基盤センター助教
【部長】		
（役職定年）	佐々木好美	工学系事務部長
（辞職）	岩佐俊明	理学・生命科学事務部長（兼）理学・生命科学事務部事務課長
【課長・室長】		
（役職定年）	的野裕司	学務部学務企画課長
	鵜澤和往	附属図書館研究支援課長
（任期満了）	熊谷正広	財務部主計課財務管理室長
【技術職員等】		
（役職定年）	岡林靖子	北海道大学病院看護部長
【特命職】		
（定年）	桃山光樹	監事支援室特命職（一般職）（兼）監事支援室室長補佐
	荒谷正樹	研究推進部研究支援課特命職（一般職）（兼）研究推進部研究支援課課長補佐
	入澤秀次	社会共創部広報課卒業生・基金室特命職（一般職）
		（兼）社会共創部広報課卒業生・基金室室長補佐
	富樫理香	附属図書館管理課特命職（一般職）
	菊地茂	函館キャンパス事務部特命職（一般職）（兼）函館キャンパス事務部係長
	澤田浩一	環境科学事務部特命職（一般職）
	鈴木敦生	大学院理学研究院特命職（一般職）
	山羽好幸	薬学事務部特命職（一般職）
	千葉良秀	教育学事務部特命職（一般職）（兼）教育学事務部係長
	相内征也	工学系事務部教務課特命職（一般職）（兼）工学系事務部教務課係長
	鴨志田敏則	医学系事務部総務課特命職（一般職）（兼）医学系事務部総務課係長
	白川孝子	文学事務部特命職（一般職）
	生田稔	北方生物圏フィールド科学センター特命職（一般職）
	角田貴敬	北方生物圏フィールド科学センター特命職（一般職）
	佐藤哲也	安全衛生本部特命職（一般職）
	津田弓子	大学院医学研究院特命職（医療職）
	川合真次	北海道大学病院薬剤部特命職（医療職）
	宮本剛典	北海道大学病院薬剤部特命職（医療職）
	横山英辰	北海道大学病院医療技術部特命職（医療職）

	石　塚　千恵子	北海道大学病院看護部特命職（看護職）
	鹿　内　三起子	北海道大学病院看護部特命職（看護職）
	新　山　久　美	北海道大学病院看護部特命職（看護職）

令和7年4月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【副学長】		
副学長	南須原　康　行	北海道大学病院教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副学長	LA FAY MICHELLE KAY	大学院文学研究院教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副学長	網　塚　　浩	大学院理学研究院教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副学長	西　邑　隆　徳	総合イノベーション創発機構特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
【副理事】		
副理事	長谷川　康　弘	
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	阿　部　　弘	統合URA本部特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	村　山　明　宏	大学院情報科学研究院特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	寺　内　伊久郎	産学・地域協働推進機構特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	吉　野　正　則	産学・地域協働推進機構特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	土　屋　　努	産学・地域協働推進機構特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
副理事	佐　藤　典　宏	北海道大学病院特任教授
（期間：令和8年3月31日まで）		
【総長補佐】		
（期間：令和8年3月31日まで）	田　中　晋　吾	統合URA本部総括主任URA
（期間：令和8年3月31日まで）	池　　炫　周	大学院公共政策学連携研究部教授
（期間：令和8年3月31日まで）	岡　崎　太一郎	大学院工学研究院教授
（期間：令和8年3月31日まで）	渡　辺　隆　之	大学院工学研究院准教授
（期間：令和8年3月31日まで）	森　　太　郎	大学院工学研究院教授
【経営協議会委員】		
（期間：令和9年3月31日まで）	菊　池　加奈子	ユーシービージャパン（株）代表取締役社長
【部局長・施設長等】		
大学院理学院長	久　保　英　夫	大学院理学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）		
大学院理学研究院長	永　井　隆　哉	大学院理学研究院教授
理学部長		
（期間：令和9年3月31日まで）		
大学院薬学研究院長	市　川　　聡	大学院薬学研究院教授
薬学部長		
（期間：令和9年3月31日まで）		
大学院農学研究院長	野　口　　伸	大学院農学研究院教授
大学院農学院長		
農学部長		
（期間：令和9年3月31日まで）		

大学院生命科学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	藤田知道	大学院理学研究院教授
大学院先端生命科学研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	芳賀永	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院長 大学院国際広報メディア・観光学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	奥聡	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院保健科学研究院長 大学院保健科学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	石津明洋	大学院保健科学研究院教授
大学院工学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	泉典洋	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院長 工学部長 （期間：令和9年3月31日まで）	幅﨑浩樹	大学院工学研究院教授
大学院医学研究院長 大学院医学院長 医学部長 （期間：令和9年3月31日まで）	田中伸哉	大学院医学研究院教授
大学院獣医学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	乙黒兼一	大学院獣医学研究院教授
大学院獣医学研究院長 獣医学部長 （期間：令和9年3月31日まで）	迫田義博	大学院獣医学研究院教授
大学院医理工学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	橋本孝之	大学院医学研究院教授
大学院国際感染症学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	今内覚	大学院獣医学研究院教授
大学院国際食資源学院長 （期間：令和9年3月31日まで）	曾根輝雄	大学院農学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長 （期間：令和9年3月31日まで）	岩谷將	大学院公共政策学連携研究部教授
北海道大学病院長 （期間：令和10年3月31日まで）	南須原康行	北海道大学病院教授
電子科学研究所長 （期間：令和9年3月31日まで）	太田裕道	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授
人獣共通感染症国際共同研究所長 （期間：令和9年3月31日まで）	髙田礼人	人獣共通感染症国際共同研究所教授
情報基盤センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	棟朝雅晴	情報基盤センター教授
観光学高等研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	山村高淑	国際連携研究教育局・観光学高等研究センター教授
北極域研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	杉山慎	低温科学研究所教授
One Healthリサーチセンター長 （期間：令和9年3月31日まで）	堀内基広	大学院獣医学研究院教授
外国語教育センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	田中英資	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
数理・データサイエンス教育研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	長谷山美紀	大学院情報科学研究院教授
人間知・脳・AI研究教育センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	田口茂	大学院文学研究院教授

総合博物館長 （期間：令和8年3月31日まで）	坪田敏男	大学院獣医学研究院教授
保健センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	朝倉　聡	保健センター教授
埋蔵文化財調査センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	高瀬克範	大学院文学研究院教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 （期間：令和8年3月31日まで）	桑原朝子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	小川宏人	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	野村昂亮	大学院理学研究院准教授
大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長 （期間：令和8年3月31日まで）	中村公則	大学院先端生命科学研究院教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 （期間：令和8年3月31日まで）	川田　学	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	柴山環樹	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
大学院医学研究院附属動物実験施設長 （期間：令和8年3月31日まで）	藤山文乃	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院附属動物病院長 （期間：令和9年3月31日まで）	滝口満喜	大学院獣医学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	宇野二朗	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 （期間：令和9年3月31日まで）	坂岡桂一郎	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 （期間：令和9年3月31日まで）	中垣俊之	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
附属図書館北図書館長 （期間：令和8年3月31日まで）	佐藤美洋	大学院薬学研究院教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院理学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	村越　敬	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	黒岩麻里	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	脇本敏幸	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	久保友彦	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	森　春英	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	相沢智康	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	田中英資	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院保健科学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	矢野理香	大学院保健科学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	林　重成	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	伊藤真由美	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	佐藤太裕	大学院工学研究院教授

大学院医学研究院副研究院長	武　冨　紹　信	大学院医学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）		
大学院医学研究院副研究院長	矢　部　一　郎	大学院医学研究院教授
（期間：令和7年11月30日まで）		
大学院獣医学研究院副研究院長	森　松　正　美	大学院獣医学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）		
北海道大学病院副病院長	本　間　明　宏	大学院医学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）		
北海道大学病院副病院長	武　冨　紹　信	大学院医学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）		
北海道大学病院副病院長	大　廣　洋　一	大学院歯学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）		
北海道大学病院副病院長	今　野　　哲	大学院医学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）		
北海道大学病院副病院長	城　石　陽　子	北海道大学病院看護部看護部長
（期間：令和10年3月31日まで）		
電子科学研究所副所長	長　山　雅　晴	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
（期間：令和9年3月31日まで）		
人獣共通感染症国際共同研究所副所長	東　　秀　明	人獣共通感染症国際共同研究所教授
（期間：令和9年3月31日まで）		
【教育研究評議会評議員】		
（期間：令和9年3月31日まで）	村　越　　敬	大学院理学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	脇　本　敏　幸	大学院薬学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	久　保　友　彦	大学院農学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	林　　重　成	大学院工学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	武　冨　紹　信	大学院医学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	森　松　正　美	大学院獣医学研究院教授
【教授】		
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授	尾　崎　一　郎	大学院法学研究科教授
国際連携研究教育局・大学院法学研究科教授	辻　　康　夫	国際連携研究教育局・大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授	眞　壁　　仁	大学院法学研究科教授
大学院水産科学研究院教授	井　尻　成　保	大学院水産科学研究院准教授
大学院水産科学研究院教授	清　水　宗　敬	北方生物圏フィールド科学センター教授
大学院水産科学研究院教授	野　村　大　樹	北方生物圏フィールド科学センター准教授
大学院地球環境科学研究院教授	佐　藤　友　徳	大学院地球環境科学研究院准教授
大学院理学研究院教授	大　津　珠　子	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院教授	瀬　戸　　治	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院教授	中　冨　晶　子	大学院理学研究院准教授
大学院農学研究院教授	宮　本　敏　澄	大学院農学研究院講師
大学院農学研究院教授	吉　澤　和　徳	大学院農学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	大　竹　政　美	大学院教育学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	加　藤　弘　通	大学院教育学研究院准教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授	川　田　　学	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	阿　部　　真	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	上　田　裕　文	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院工学研究院教授	エラクネス　ヨガラジャ	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	高　井　伸　雄	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	東　條　安　匡	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	西　村　　聡	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院工学研究院教授	橋　本　　望	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	松　本　高　志	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院医学研究院教授	渥　美　達　也	北海道大学病院教授
大学院医学研究院教授	加　藤　隆　弘	九州大学准教授

大学院歯学研究院教授	高　橋　直　紀	新潟大学准教授
大学院歯学研究院教授	渡　邊　　裕	大学院歯学研究院准教授
大学院獣医学研究院教授	安　井　博　宣	大学院獣医学研究院准教授
大学院文学研究院教授	小　川　健　二	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	小　椋　　彩	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	高　橋　泰　城	大学院文学研究院准教授
大学院情報科学研究院教授	坂　本　大　介	大学院情報科学研究院准教授
大学院情報科学研究院教授	伊　達　宏　昭	大学院情報科学研究院准教授
大学院公共政策学連携研究部教授	安　部　由起子	大学院経済学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部教授	長　井　宏　平	大学院工学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部教授	吉　井　稔　雄	大学院工学研究院教授
北海道大学病院教授	遠　藤　知　之	北海道大学病院講師
電子科学研究所教授	中野谷　　一	九州大学准教授
電子科学研究所教授	藤　原　幸　一	名古屋大学准教授
電子科学研究所教授	堀　江　正　樹	（採用）
スラブ・ユーラシア研究センター教授	呉　人　徳　司	東京外国語大学教授
広域複合災害研究センター教授	南　里　智　之	（採用）
高等教育推進機構教授	COOK EMMA ELIZABETH	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
高等教育推進機構教授	KLIEN SUSANNE	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
高等教育推進機構教授	佐々田　博　教	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
（転出）		
九州大学教授	HAZUCHA BRANISLAV	大学院法学研究科教授
苫小牧工業高等専門学校校長	長　野　克　則	大学院工学研究院教授
旭川工業高等専門学校校長	矢久保　考　介	大学院工学研究院教授
東京大学教授	金　沢　英　之	大学院文学研究院教授
【部長・次長】		
企画調整役（兼）経営企画本部企画課長	小　澤　嘉　麿	経営企画本部企画課長
総務企画部次長（兼）総務企画部総務課長	乾　　優紀子	総務企画部総務課長
財務部長	吉　成　竜　也	東京科学大学財務部長
学務部長	高　橋　慶　匡	放送大学学園学務部長
学術情報部長	久保田　壮　活	附属図書館事務部長
理学・生命科学事務部長（兼）理学生命科学事務部事務課長	菅　原　育　哉	研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長
工学系事務部長	佐　藤　哲　生	財務部経理課長
（転出）		
東京大学財務部長	加賀谷　次　朗	財務部長
国立高等専門学校機構事務局部長（併）学務課長	平　田　公　明	学務部長
【課長・事務長・室長】		
経営企画本部半導体事業推進担当課長	山　内　貴　敏	経営企画本部企画課課長補佐
総務企画部総務課安全衛生室長	髙　橋　貴代美	歯学事務部事務長
総務企画部人事課長	進　藤　　玄	文部科学省大臣官房人事課専門官（併）総務班総務係長
財務部主計課長	岩　井　教　晃	文部科学省大臣官房会計課第一予算班第一係長
財務部主計課財務管理室長	伊　藤　広　雄	財務部主計課課長補佐
財務部経理課長	馬　場　勝　浩	財務部調達課長
財務部調達課長	島　谷　知　克	財務部資産運用管理課長
学務部学務企画課長	山　本　　透	学務部入試課長
学務部入試課長	泉　澤　成　実	文学事務部事務長
学務部キャリア支援課長	横　澤　史　彦	総務企画部情報企画課課長補佐
研究推進部研究振興企画課長	柳　橋　光　人	研究推進部研究支援課ワクチン研究開発拠点事務室長
研究推進部研究振興企画課研究公正推進室長	小田切　和　博	北キャンパス合同事務部事務長
研究推進部研究支援課ワクチン研究開発拠点事務室長	猫　塚　和　美	財務部主計課課長補佐
国際部国際企画課長	岩　村　沙綾香	文部科学省国際統括官付ユネスコ第二係長
学術情報部図書館企画課長	福　井　啓　介	東京海洋大学学術情報課長
学術情報部図書館利用支援課長	横　井　有　紀	附属図書館利用支援課長

学術情報部学術情報支援課長	中村　陽	北海道国立大学機構北見工業大学事務部情報図書課長
学術情報部情報企画課長	對馬秀俊	総務企画部情報企画課長
教育学事務部事務長	清水智之	低温科学研究所事務長
工学系事務部情報科学研究院事務課長	勘原和彦	メディア・観光学事務部事務長
経済学事務部事務長	西村直樹	学務部キャリア支援課長
医学系事務部保健科学研究院事務課長	折田朋子	北海道大学病院医事課長
歯学事務部事務長	及川晃男	教育学事務部事務長
文学事務部事務長	土橋祐美	経済学事務部事務長
北海道大学病院総務課長	中﨑　治	総務企画部情報企画課課長補佐
北海道大学病院医事課長	佐藤規久	工学系事務部情報科学研究院事務課長
北海道大学病院医療支援課長	隅田宇通	総務企画部人事課課長補佐
低温科学研究所事務長	久米繁輝	北海道大学病院医療支援課長
北キャンパス合同事務部事務長	里　眞理子	総務企画部総務課安全衛生室長
（出向復帰）		
財務部資産運用管理課長	岩部　順	室蘭工業大学経理課長
メディア・観光学事務部事務長	大峡賢也	北海道教育大学総務企画部総務課長
研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長	金森淳二	旭川医科大学研究支援課長
（出向）		
函館工業高等専門学校総務課長	蟹口宏幸	医学系事務部保健科学研究院事務課長
（転出）		
文化庁政策課専門官	玉城　直	総務企画部人事課長
長崎大学財務部財務企画課長	今泉守正	財務部主計課長
日本学術振興会経営企画部企画調整官（兼）経営支援課学術情報企画室長	山岡寧子	研究推進部研究振興企画課研究公正推進室長
北海道国立大学機構小樽商科大学事務部企画総務課長	竹内佑介	研究推進部研究振興企画課長
苫小牧工業高等専門学校総務課長	佐藤哲也	国際部国際企画課長
情報・システム研究機構国立情報学研究所	樋口秀樹	附属図書館管理課長
岡山大学病院経営戦略課長	壬生篤志	北海道大学病院総務課長

新任副学長等紹介

令和7年4月1日付

副学長・北海道大学病院長に

南須原（なすはら）　康行（やすゆき）　氏

令和7年3月31日限りで渥美達也北海道大学病院長が任期満了となり、その後任として南須原康行教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

併せて、令和7年4月1日付で、副学長として発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

担　当

病院経営・病院再開発

兼務する職

北海道大学病院長

略　歴

生　年　月　日　昭和38年2月11日
昭和63年 3月　北海道大学医学部卒業
昭和63年 6月　北海道大学医学部附属病院医員
平成 8年 3月　博士（医学）（北海道大学）
平成 8年10月～平成11年 3月　インベリアル大学国立心肺研究所胸部疾患部門研究員
平成11年 4月　北海道大学病院助手
平成17年 4月　北海道大学病院講師
平成20年 4月　北海道大学病院准教授
平成28年 4月　北海道大学病院病院長補佐
平成29年 7月　北海道大学病院教授
平成31年 4月　北海道大学病院副病院長

副学長に

LA FAY（ラ　フエイ）　MICHELLE（ミシェル）　氏

令和7年4月1日付で、副学長にLA FAY MICHELLE教授が発令されました。

任期は令和8年3月31日までです。

担　当

新渡戸カレッジ

略　歴

平成 2年 5月　マクファーソン大学卒業
平成 9年 3月　北海道大学大学院文学研究科修士課程
平成15年 6月　博士（大学）（北海道大学）
平成19年 4月　白樺学園高等学校外国人講師
平成20年 4月　北海道教育大学教育学部講師
平成23年 4月　北海道教育大学教育学部准教授
平成26年 4月　北海道大学大学院文学研究科特任准教授
平成28年 4月　北海道大学大学院文学研究科准教授
平成31年 4月　北海道大学大学院文学研究院准教授
令和 4年 4月　北海道大学大学院文学研究院教授

副学長に

網塚（あみつか）　浩（ひろし）　氏

令和7年4月1日付けで、副学長に網塚　浩教授が発令されました。

任期は令和8年3月31日までです。

担　当

総合イノベーション創発機構、同窓会・校友会支援

兼務する職

総合イノベーション創発機構副機構長・同機構グローバルファシリティセンター長

略　歴

生　年　月　日	昭和39年3月27日
昭和62年　3月	北海道大学理学部卒業
平成元年　3月	北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
平成元年　6月	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学
平成元年　7月	北海道大学理学部助手
平成　6年　3月	博士（理学）（北海道大学）
平成　7年　4月	北海道大学大学院理学研究科助手
平成　7年　5月 平成　8年　2月	ファンデルワールス=ゼーマン研究所文部省在外研究員
平成　7年10月	北海道大学大学院理学研究科講師
平成12年　5月	北海道大学大学院理学研究科助教授
平成17年　4月	北海道大学大学院理学研究科教授
平成18年　4月	北海道大学大学院理学研究院教授
平成26年　4月 平成29年　3月	北海道大学総長補佐、北海道大学創成研究機構副機構長
平成26年　4月 平成27年12月	北海道大学創成研究機構共用機器管理センター長
平成28年　1月 平成30年　3月	北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター長
平成29年　4月 令和　3年　3月	北海道大学大学院理学院長
令和　2年　1月	北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター長
令和　3年　4月 令和　7年　3月	北海道大学理学研究院長

副学長（再任）紹介

令和7年4月1日付

副学長に
西邑（にしむら）　隆徳（たかのり）　氏

西邑隆徳氏は、令和6年4月1日から副学長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

担当は地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）です。

新任部局長等紹介

令和7年4月1日付

理学院長に

久保（くぼ）　英夫（ひでお）　教授

令和7年3月31日限りで永井隆哉理学院長が任期満了となり、その後任として久保英夫教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和42年
平成 3年 3月	北海道大学理学部卒業
平成 8年 3月	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
平成 8年 3月	博士（理学）（北海道大学）
平成 8年 4月	静岡大学工学部講師
平成 9年 4月	静岡大学工学部助教授
平成15年 4月	大阪大学大学院理学研究科助教授
平成19年 4月	大阪大学大学院理学研究科准教授
平成20年10月	東北大学大学院情報科学研究科教授
平成24年10月	北海道大学大学院理学研究院教授
令和 5年 4月 令和 7年 3月	北海道大学大学院理学研究院副研究院長

理学研究院長・理学部長に

永井（ながい）　隆哉（たかや）　教授

令和7年3月31日限りで網塚　浩理学研究院長・理学部長が任期満了となり、その後任として永井隆哉教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

昭和63年 3月	東京大学理学部卒業
平成 2年 3月	東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
平成 4年 1月	東京大学大学院理学系研究科博士後期課程中退
平成 4年 2月	大阪大学教養部助手
平成 6年 4月	大阪大学理学部助手
平成 7年 3月	博士（理学）（東京大学）
平成 8年 4月	大阪大学大学院理学研究科助手
平成15年11月	北海道大学大学院理学研究科助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院理学研究院助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院理学研究院准教授
平成22年10月	北海道大学大学院理学研究院教授
平成31年 4月 令和 3年 3月	北海道大学大学院理学研究院副研究院長
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学大学院理学院長

薬学研究院長・薬学部長に

市川（いちかわ）　聡（さとし）　教授

令和7年3月31日限りで木原章雄薬学研究院長・薬学部長が任期満了となり、その後任として市川　聡教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和46年9月28日
平成 6年 3月	北海道大学薬学部卒業
平成 8年 3月	北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了
平成11年 3月	北海道大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
平成11年 3月	博士（薬学）（北海道大学）
平成11年 4月 平成13年 6月	米国スクリプス研究所博士研究員
平成13年 4月	北海道大学薬学部助手
平成18年 4月	北海道大学大学院薬学研究院助手
平成19年 4月	北海道大学大学院薬学研究院助教
平成21年 5月	北海道大学大学院薬学研究院准教授
平成27年 4月	北海道大学大学院薬学研究院教授
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学大学院薬学研究院副研究院長
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学教育研究評議会評議員

生命科学院長に

藤田（ふじた）　知道（ともみち）　教授

令和7年3月31日限りで佐藤美洋生命科学院長が任期満了となり、その後任として藤田知道教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和39年10月3日
昭和63年 3月	早稲田大学教育学部卒業
平成 5年 3月	東京大学大学院理学研究科博士後期課程修了
平成 5年 3月	博士（理学）（東京大学）
平成 5年 4月	国立予防衛生研究所ウイルスⅠ部流動研究員
平成 6年10月	パデュー大学ポストドクトラルフェロー
平成10年 5月	京都大学大学院理学研究科リサーチ・アソシエイト
平成11年 4月	名古屋大学大学院理学研究科リサーチ・アソシエイト
平成11年10月	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所形質統御実験施設助手
平成16年 4月	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 総合研究大学院大学担当助手
平成17年 7月	北海道大学大学院理学研究科助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院理学研究院助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院理学研究院准教授
平成28年 4月	北海道大学大学院理学研究院教授

保健科学研究院長・保健科学院長に

石津（いしづ）　明洋（あきひろ）　教授

令和7年3月31日限りで矢野理香保健科学研究院長・保健科学院長が任期満了となり、その後任として石津明洋教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和40年4月11日
平成 2年 3月	北海道大学医学部医学科卒業
平成 7年 3月	北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
平成 7年 4月 平成 8年 1月	北海道大学医学部研究生
平成 8年 2月 平成 9年 7月	北海道大学医学部付属病院医員
平成 9年 7月 平成11年 8月	ニューヨーク大学医療センター病理部門客員研究員
平成11年10月	北海道大学医学部助手
平成15年 4月	北海道大学医学部講師
平成17年 4月	北海道大学医学部助教授
平成19年 4月	北海道大学医学部教授
平成20年 4月	北海道大学大学院保健科学研究院教授
令和 5年 4月	北海道大学大学院保健科学研究院副研究院長

医学研究院長・医学院長・医学部長に

田中（たなか）　伸哉（しんや）　教授

令和7年3月31日限りで畠山鎮次医学研究院長・医学院長・医学部長が任期満了となり、その後任として田中伸哉教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和39年10月6日
平成 2年 3月	北海道大学医学部卒業
平成 6年 3月	北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
平成 6年 3月	博士（医学）（北海道大学）
平成 6年 4月	北海道大学医学部助手
平成 6年10月 平成 9年 8月	ロックフェラー大学博士研究員
平成12年 4月	北海道大学大学院医学研究科講師
平成15年 4月	北海道大学大学院医学研究科助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院医学研究科准教授
平成20年 5月	北海道大学大学院医学研究科教授
平成28年 6月 令和 2年 3月	北海道大学国際連携研究教育局兼任
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点兼任
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学大学院医学研究院副研究院長
令和 5年 4月 令和 7年 3月	北海道大学教育研究評議会評議員
令和 6年 4月	北海道大学病院部長兼任
令和 6年 4月	日本学術会議連携会員

獣医学院長に

乙黒（おつぐろ）　兼一（けんいち）　教授

令和7年3月31日限りで石塚真由美獣医学院長が任期満了となり、その後任として乙黒兼一教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和45年3月17日
平成 6年 3月	北海道大学獣医学部卒業
平成 9年 4月	日本学術振興会特別研究員
平成10年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了
平成10年 3月	博士（獣医学）（北海道大学）
平成11年 4月 平成14年 5月	民間（三共株式会社）
平成14年 6月	北海道大学大学院獣医学研究科助手
平成19年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科助教
平成21年 6月	北海道大学大学院獣医学研究科准教授
平成29年 4月	北海道大学大学院獣医学研究院准教授
平成30年 4月	北海道大学大学院獣医学研究院教授

獣医学研究院長・獣医学部長に

迫田（きこだ）　義博（よしひろ）　教授

令和7年3月31日限りで滝口満喜獣医学研究院長・獣医学部長が任期満了となり、その後任として迫田義博教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和45年1月17日
平成 6年 3月	北海道大学獣医学部卒業
平成 6年 4月 平成13年 3月	農林水産技官（家畜衛生試験場研究員）
平成11年 6月	博士（獣医学）（北海道大学）
平成13年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科助手
平成17年 7月	北海道大学大学院獣医学研究科助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科准教授
平成26年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科教授
平成29年 4月	北海道大学大学院獣医学研究院教授
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学教育研究評議会評議員
令和 3年 4月 令和 7年 3月	北海道大学大学院獣医学副研究院長

医理工学院長に

橋本（はしもと）　孝之（たかゆき）　教授

令和7年3月31日限りで久下裕司医理工学院長が任期満了となり、その後任として橋本孝之教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

平成11年 3月　筑波大学医学専門学群卒業
平成11年 5月　筑波大学附属病院医員（研修医）
平成11年10月　国立病院東京災害医療センター臨床研修医
平成12年 4月　筑波大学附属病院医員（研修医）
平成13年 4月　筑波大学附属病院医員
平成15年 4月　北海道大学医学部附属病院医員
平成16年 4月　筑波大学附属病院医員
平成17年 4月　筑波大学大学院人間総合科学研究科助手
平成18年 4月　静岡県立静岡がんセンター副医長
平成21年 2月　筑波大学大学院人間総合科学研究科講師
平成23年10月　筑波大学医学医療系講師
平成24年 8月　博士（医学）（筑波大学）
平成25年 3月　北海道大学大学院医学研究科特任准教授
平成29年 4月　北海道大学大学院医学研究院特任准教授
平成30年12月　北海道大学国際連携研究教育局及び大学院医学研究院特任准教授
令和 2年 4月　北海道大学大学院医学研究院准教授
令和 6年10月　北海道大学大学院医学研究院教授

国際感染症学院長に

今内（こんない）　覚（さとる）　教授

令和7年3月31日限りで堀内基広国際感染症学院長が任期満了となり、その後任として今内　覚教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和46年9月23日
平成 6年 3月　酪農学園大学酪農学部酪農学科卒業
平成11年 3月　酪農学園大学酪農学部獣医学科卒業
平成15年 3月　北海道大学大学院獣医学研究科博士課程単位取得退学
平成15年 9月　博士（獣医学）（北海道大学）
平成15年 4月　北海道大学大学院獣医学研究科科学研究支援員
平成15年12月　北海道大学大学院獣医学研究科COE研究員
平成16年12月　北海道大学大学院獣医学研究科助手
平成19年 4月　北海道大学大学院獣医学研究科助教
平成20年12月　北海道大学大学院獣医学研究科准教授
平成29年 4月　北海道大学大学院獣医学研究院准教授
令和 4年 7月　北海道大学大学院獣医学研究院教授

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に

岩谷（いわたに）　將（のぶ）　教授

令和7年3月31日限りで山崎幹根公共政策学連携研究部・教育部長が任期満了となり、その後任として岩谷　將教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和51年11月27日
平成11年 3月　慶應義塾大学法学部卒業
平成19年 3月　慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士後期課程単位取得退学
平成19年 4月　防衛省防衛研究所戦史部教官
平成20年 6月　博士（法学）（慶應義塾大学）
平成23年 4月　防衛省防衛研究所戦史研究センター教官
平成25年 4月　防衛省防衛研究所戦史研究センター主任研究官
平成28年 2月　防衛省防衛研究所戦史研究センター主任研究官
　　（併）外務省大臣官房国際文化協力室外務事務官
平成28年 4月　北海道大学大学院法学研究科教授
令和 3年 4月　北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
令和 3年 8月 ┐
令和 5年 3月 ┘ 北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長

電子科学研究所長に

太田（おおた）　裕道（ひろみち）　教授

令和7年3月31日限りで居城邦治電子科学研究所長が任期満了となり、その後任として太田裕道教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和46年9月21日
平成 6年 3月　埼玉大学工学部卒業
平成 8年 3月　名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了
平成 8年 4月 ┐
平成 9年12月 ┘ 民間（三洋電機株式会社）
平成10年 1月 ┐
平成11年10月 ┘ 民間（HOYA株式会社）
平成11年11月　国立研究開発法人科学技術振興機構研究員
平成13年 9月　博士（工学）（東京工業大学）
平成15年10月　名古屋大学大学院工学研究科助教授/准教授
平成24年 9月　北海道大学電子科学研究所教授
令和 3年 4月 ┐
令和 7年 3月 ┘ 北海道大学電子科学研究所副所長
令和 5年 4月　北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授

北極域研究センター長に

杉山（すぎやま）　慎（しん）　教授

令和7年3月31日限りで深町　康北極域研究センター長が任期満了となり、その後任として杉山　慎教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和44年3月5日
平成 3年 3月	大阪大学基礎工学部卒業
平成 5年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了
平成 5年 4月 平成 9年 8月	民間（信越化学工業株式会社）
平成 9年 9月	独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊隊員候補生
平成 9年12月 平成11年12月	独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊理数科教師隊員 ザンビア共和国ペンバ中高等学校派遣
平成15年 3月	博士（地球環境科学）（北海道大学）
平成15年 4月 平成17年 9月	スイス連邦工科大学水理水文氷河学研究所研究員
平成17年10月	北海道大学低温科学研究所講師
平成26年 2月	北海道大学低温科学研究所准教授
平成29年 4月	北海道大学低温科学研究所教授
令和 5年11月 令和 7年 3月	北海道大学北極域研究センター副センター長

外国語教育センター長に

田中（たなか）　英資（えいすけ）　教授

不在となっていた外国語教育センター長に田中英資教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和50年6月10日
平成11年 3月	東京大学教養学部卒業
平成12年10月	サセックス大学ヨーロッパ研究所修士課程修了
平成20年 5月	ケンブリッジ大学考古学・人類学部博士課程修了
平成20年 5月	Ph.D.（ケンブリッジ大学）
平成23年 4月	福岡女学院大学人文学部准教授
令和 2年 4月	福岡女学院大学人文学部教授
令和 4年 9月	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

数理・データサイエンス教育研究センター長に

長谷山（はせやま）　美紀（みき）　教授

令和7年3月31日限りで大鐘武雄数理・データサイエンス教育研究センター長が任期満了となり、その後任として長谷山美紀教授が発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略　歴

昭和61年 3月	北海道大学工学部卒業
昭和63年 3月	北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成 5年 9月	博士（工学）（北海道大学）
平成元年 8月 平成 5年12月	北海道大学応用電気研究所（現 電子科学研究所）助手
平成 6年 1月 平成16年 3月	北海道大学工学部・大学院工学研究科助教授
平成 7年10月 平成 8年 7月	ワシントン大学客員准教授
平成16年 4月 平成18年 3月	北海道大学大学院情報科学研究科助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院情報科学研究院（旧 情報科学研究科）教授
平成25年 4月 平成26年 3月	北海道大学役員補佐
平成26年 4月 令和 2年 3月	北海道大学総長補佐
平成29年 4月 令和 2年 3月	北海道大学総合IR室副室長
平成29年 4月 平成31年 3月	北海道大学人材育成本部女性研究者支援室室長
平成29年 7月 令和 3年 3月	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センターセンター長
平成30年 4月 令和 2年 3月	北海道大学大学院情報科学研究院（旧 情報科学研究科）副研究院長
令和 2年 4月 令和 6年 3月	北海道大学大学院情報科学研究院研究院長
令和 2年10月	北海道大学副学長、北海道大学総合IR本部本部長
令和 4年 4月 令和 5年 3月	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センターセンター長
令和 4年 7月	北海道大学総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）拠点長

部局長等（再任）紹介

令和7年4月1日付

農学研究院長・農学院長・農学部長に
野口（のぐち）　伸（のぼる）　教授

野口　伸教授は、令和5年4月1日から農学研究院長・農学院長・農学部長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長に
奥（おく）　聡（さとし）　教授

奥　聡教授は、令和5年4月1日からメディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

工学研究院長・工学部長に
幅﨑（はばざき）　浩樹（ひろき）　教授

幅﨑浩樹教授は、令和5年4月1日から工学研究院長・工学部長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

人獣共通感染症国際共同研究所長に
髙田（たかだ）　礼人（あやと）　教授

髙田礼人教授は、令和5年4月1日から人獣共通感染症国際共同研究所長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

観光学高等研究センター長に
山村（やまむら）　高淑（たかよし）　教授

山村高淑教授は、令和5年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

先端生命科学研究院長に
芳賀（はが）　永（ひさし）　教授

芳賀　永教授は、令和5年4月1日から先端生命科学研究院長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

工学院長に
泉（いずみ）　典洋（のりひろ）　教授

泉　典洋教授は、令和5年4月1日から工学院長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

国際食資源学院長に
曾根（そね）　輝雄（てるお）　教授

曾根輝雄教授は、令和5年4月1日から国際食資源学院長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

情報基盤センター長に
棟朝（むねとも）　雅晴（まさはる）　教授

棟朝雅晴教授は、令和5年4月1日から情報基盤センター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

One Healthリサーチセンター長に
堀内（ほりうち）　基広（もとひろ）　教授

堀内基広教授は、令和5年4月1日からOne Healthリサーチセンター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

人間知・脳・AI研究教育センター長に

田口（たぐち）　茂（しげる）　教授

田口　茂教授は、令和5年4月1日から人間知・脳・AI研究教育センター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

保健センター長に

朝倉（あさくら）　聡（さとし）　教授

朝倉　聡教授は、令和5年4月1日から保健センター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

総合博物館長に

坪田（つぼた）　敏男（としお）　教授

坪田敏男教授は、令和5年4月1日から総合博物館長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

埋蔵文化財調査センター長に

高瀬（たかせ）　克範（かつのり）　教授

高瀬克範教授は、令和5年4月1日から埋蔵文化財調査センター長を務め、令和7年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

新任部課長等紹介

令和7年4月1日付

企画調整役（兼）経営企画本部企画課長に

小澤（おざわ）　嘉麿（よしまろ）　氏

平成 4年 4月　北海道大学
平成16年 4月　北海道大学総務部人事課専門職員
平成16年 7月　北海道大学総務部総務課専門職員
平成17年 4月　北海道大学総務部総務課法規係長
平成19年 4月　北海道大学総務部総務課係長
平成23年 4月　北海道大学総務企画部総務課係長
平成24年 4月　北海道大学総務企画部総務課専門員
平成25年 4月　北海道教育大学総務部総務課副課長
平成25年10月　北海道大学研究推進部外部資金戦略課課長補佐
平成27年 4月　北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐
平成28年 4月　北海道大学総務企画部人事課課長補佐
平成30年 4月　北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
令和 3年 4月　北海道大学医学系事務部総務課長
令和 5年 5月　北海道大学総務企画部企画課長
令和 6年10月　北海道大学経営企画本部企画課長

総務企画部次長（兼）総務課長に

乾（いぬい）　優紀子（ゆきこ）　氏

昭和59年 7月　帯広畜産大学
平成 7年 4月　北海道大学
平成18年 4月　北海道大学農学事務部主任
平成22年10月　北海道大学施設部施設企画課主任
平成24年 4月　北海道大学法学研究科・法学部係長
平成27年 4月　北海道大学施設部施設企画課係長
平成28年 4月　北海道大学総務企画部広報課課長補佐
平成31年 4月　北海道大学総務企画部広報課長
令和 2年10月　北海道大学政策調整室長
令和 2年10月　北海道大学総務企画部秘書室長
令和 6年 4月　北海道大学総務企画部総務課長（兼）秘書室長
令和 6年10月　北海道大学総務企画部総務課長

財務部長に

吉成（よしなり）　竜也（たつや）　氏

昭和49年 9月30日生
平成 5年 4月　群馬大学工学部
平成10年 6月　文部科学省高等教育局専門教育課
平成12年 4月　文部科学省高等教育局大学課
平成16年 4月　文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室
平成17年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課総務係主任
平成18年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課管理係長
平成19年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課国立大学法人評価委員会室企画係長（併）放送大学係長
平成20年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課国立大学法人評価委員会室評価調査係長
平成21年 4月　文部科学省高等教育局国立大学法人支援課病院総括係長
平成23年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課総務係長
平成25年 4月　京都大学財務課長
平成28年 4月　文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室大学院振興専門官
平成28年 9月　文部科学省高等教育局大学振興課課長補佐
平成31年 4月　文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐
令和 2年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐
令和 5年 4月　東京工業大学財務部長
令和 6年10月　東京科学大学財務部長

学務部長に

髙橋（たかはし）　慶匡（よしまさ）　氏

昭和43年10月27日生
昭和62年 3月　北海道深川西高校卒業
昭和62年 4月　北海道大学
平成 7年 4月　文部省教育助成局教職員課
平成 8年 4月　文部省教育助成局財務課
平成11年 4月　岩手県教育委員会義務教育課教育行政係主任
平成12年 4月　岩手県教育委員会義務教育課教育行政係長
平成13年 4月　文部科学省初等中等教育局財務課教育財政室調整係長
平成15年 4月　文部科学省初等中等教育局国際教育課庶務・助成係長
平成17年 4月　文部科学省初等中等教育局教科書課無償給与係長
平成18年 4月　宝塚市教育委員会学校教育部学校教育室長
平成20年 4月　文部科学省高等教育局医学教育課医療技術係長
平成21年 4月　筑波大学附属病院総務部総務課長
平成23年 4月　独立行政法人教員研修センター総務課長
平成25年 4月　文部科学省初等中等教育局財務課高校修学支援室室長補佐
平成26年 4月　松原市教育委員会教育監
平成29年 4月　文部科学省初等中等教育局財務課高校修学支援室室長補佐
平成31年 4月　鳴門教育大学企画調整役（兼）総務部長
令和 3年 4月　弘前大学学務部長
令和 5年 4月　放送大学学園学務部長

理学・生命科学事務部長（兼）事務課長に

菅原（すがわら）　育哉（いくや）　氏

昭和41年7月19日生
平成 9年 4月　北海道大学
平成15年 4月　大学評価・学位授与機構評価事業部評価第3課研究評価第2係長
平成16年 4月　大学評価・学位授与機構評価事業部評価第3課法人評価第2係長
平成17年 4月　北海道大学財務部主計課第二予算係長
平成18年 4月　北海道大学財務部主計課予算第三係長
平成18年 9月　北海道大学総務部総務課秘書室係長
平成19年 4月　北海道大学総務企画部秘書室係長（秘書担当）
平成21年 4月　北海道大学企画部企画調整課係長（組織整備担当）
平成23年 4月　北海道大学総務企画部企画課係長（組織整備担当）
平成24年 4月　北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐
平成28年 4月　北海道大学財務部経理課課長補佐（資産活用・増収検討PT）
平成29年 4月　北海道大学総務企画部総務課課長補佐
平成30年 4月　北海道大学政策調整室室長代理
令和 2年 4月　北海道大学財務部調達課長
令和 5年 4月　北海道大学研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長

工学系事務部長に

佐藤（さとう）　哲生（てつお）　氏

昭和43年6月22日生
昭和62年 3月　北海道函館北高等学校卒業
昭和62年 4月　北海道大学
平成16年 7月　帯広畜産大学企画総務部財務課財務企画係長
平成17年 4月　帯広畜産大学企画総務部財務課予算担当専門職員
平成19年 4月　北海道大学財務部主計課係長
平成23年 4月　北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成25年 7月　北海道大学財務部主計課係長
平成26年 7月　北海道大学施設部施設企画課課長補佐
平成29年 4月　北海道大学財務部主計課課長補佐
令和 2年 4月　北海道大学函館キャンパス事務部事務長
令和 6年 4月　北海道大学財務部経理課長

経営企画本部半導体事業推進担当課長に

山内（やまうち）　貴敏（たかとし）　氏

昭和47年10月14日生
平成 5年 4月　北海道大学
平成22年 4月　北海道大学農学事務部係長
平成24年 4月　北海道大学函館キャンパス事務部係長
平成27年 4月　北海道大学工学系事務部経理課係長
平成30年 4月　北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成31年 4月　北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐
令和 4年 4月　北海道大学社会共創部産学連携課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学総務企画部企画課課長補佐
令和 6年10月　北海道大学経営企画本部企画課課長補佐

総務企画部人事課長に

進藤（しんどう）　玄（ひかる）　氏

昭和59年3月19日生
平成20年 3月　北海道大学大学院教育学研究科修了
平成20年 9月　北海道大学学務部教務課
平成25年 4月　北海道大学総務企画部人事課
平成27年 4月　文部科学省大臣官房人事課給与班
平成28年 4月　放送大学学園総務課人事係主任
平成28年10月　放送大学学園総務課人事係長
平成31年 4月　文部科学省大臣官房人事課栄典班栄典第二係長
令和 2年 4月　文部科学省大臣官房人事課栄典班栄典第一係長
令和 4年 4月　文部科学省大臣官房人事課計画調整班研修係長
平成 5年 4月　文部科学省大臣官房人事課専門官（併）総務班総務係長

財務部主計課長に

岩井（いわい）　教晃（のりあき）　氏

昭和60年8月7日生
平成20年12月　金沢大学
平成23年 4月　国立青少年機構能登青少年交流の家管理係
平成24年 4月　文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課
平成24年10月　文部科学省生涯学習政策局社会教育課
平成25年 4月　文部科学省大臣官房会計課経理班
平成27年 4月　文部科学省大臣官房会計課第三予算班
平成28年 4月　文部科学省大臣官房会計課総括予算班
平成28年10月　文部科学省大臣官房会計課総括予算班第二係主任
平成29年10月　文部科学省大臣官房会計課総括予算班第二係長
平成30年 4月　文部科学省大臣官房会計課第一予算班第二係長
令和 2年 1月　文部科学省初等中等教育局情報教育課専門職
令和 2年 4月　文部科学省大臣官房会計課第三予算班第一係長
令和 3年 4月　文部科学省高等教育局高等教育企画課管理係長
令和 4年 4月　文部科学省高等教育局国立大学法人支援課支援第三係長
令和 6年 4月　文部科学省大臣官房会計課第一予算班第一係長

財務部主計課財務管理室長に

伊藤（いとう）　広雄（ひろお）　氏

昭和50年1月生
平成 9年 3月　北海道大学農学部卒業
平成10年10月　北海道大学
平成23年 4月　北海道大学学務部学生支援課係長
平成25年 7月　小樽商科大学財務課予算係長
平成27年 7月　北海道大学総務企画部企画課係長
平成29年10月　北海道大学財務部主計課係長
令和 2年 4月　北海道大学病院経営企画課課長補佐
令和 6年 4月　北海道大学財務部主計課課長補佐

学務部キャリア支援課長に

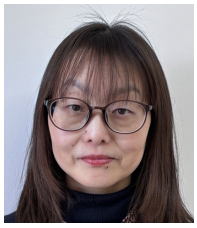
横澤（よこざわ）　史彦（ふみひこ）　氏

昭和47年2月生
平成 6年 4月　北海道大学
平成19年 4月　室蘭工業大学入試課入学試験係長
平成21年 4月　北海道大学歯学研究科・歯学部係長
平成24年 4月　北海道大学文学研究科・文学部係長
平成28年 4月　北海道大学学務部学務企画課係長
平成29年 4月　北海道大学学務部学務企画課専門員
平成31年 4月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐
令和 4年 4月　北海道大学総務企画部情報企画課課長補佐

研究推進部研究支援課
ワクチン研究開発拠点事務室長に

猫塚（ねこづか）　和美（かずみ）　氏

昭和49年生
平成 7年 4月　北海道大学
平成24年 4月　北海道教育大学事務局財務部財務課係長
平成26年 4月　北海道大学財務部主計課係長
平成26年 7月　北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成30年 7月　北海道大学財務部主計課専門員
令和元年 7月　小樽商科大学企画戦略課課長代理（兼）経営改革推進室
令和 3年 4月　北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 4年 4月　北海道大学財務部主計課課長補佐



国際部国際企画課長に

岩村（いわむら）　沙綾香（さやか）　氏

平成16年 3月　お茶の水女子大学文教育学部卒業
平成16年 4月　文部科学省初等中等教育局児童生徒課
平成19年 4月　文化庁政策課文化広報・地域連携室
平成20年 4月　米国出張（国際教育交流担当職員長期研修プログラム）
平成21年 4月　文化庁国際課
平成22年10月　文化庁国際課国際文化交流室
平成23年10月　文化庁国際課国際文化交流室振興係主任
平成24年 4月　文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室人物交流係主任
平成24年10月　文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室人物交流係長
平成25年 4月　日本学術振興会国際事業部研究協力第二課戦略交流係長
平成28年 4月　文部科学省大臣官房国際課専門職
平成28年11月　文化庁記念物課世界文化遺産室世界文化遺産企画係長
平成29年11月　文化庁記念物課世界文化遺産室専門職
（ユネスコ世界遺産センター）
平成30年10月　文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室専門職
（ユネスコ世界遺産センター）
令和元年11月　文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室世界文化遺産企画係長
令和 3年 7月　文化庁著作権課著作物流通推進室専門職
令和 3年 8月　文化庁著作権課著作物流通推進室流通推進係長
令和 5年 4月　文部科学省国際統括官付ユネスコ第二係長

学術情報部図書館企画課長に

福井（ふくい）　啓介（けいすけ）　氏

昭和44年4月6日生
平成 4年 4月　筑波大学
平成19年 4月　筑波大学附属図書館情報管理課図書購入係長
平成21年 4月　筑波大学附属図書館情報管理課企画渉外係長
平成25年 4月　放送大学学園図書情報課課長補佐
平成30年 4月　筑波大学学術情報部アカデミックサポート課主幹
平成31年 4月　九州大学附属図書館利用者サービス課長
令和 3年 4月　岐阜大学管理部学術情報課長
令和 4年 4月　岐阜大学教学事務部門学術情報課長
（兼）東海国立大学機構情報管理課主幹
令和 5年 4月　東京海洋大学総務部学術情報課長

学術情報部学術情報支援課長に

中村（なかむら）　陽（あきら）　氏

昭和48年7月生
平成 9年 4月　北海道大学
平成20年 4月　北海道大学附属図書館情報サービス課付係長
平成21年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課付係長
平成22年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課係長
平成25年 4月　北海道大学附属図書館管理課係長
平成28年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課付係長
平成30年 4月　北海道大学附属図書館研究支援課係長
平成31年 4月　室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室長
令和 3年 4月　北海道大学附属図書館管理課課長補佐
令和 5年 4月　北見工業大学情報図書課長
（兼）北海道国立大学機構事務局経営企画課大学連携室情報基盤係
令和 5年10月　北見工業大学情報図書課長（兼）同課目録管理係長
（兼）北海道国立大学機構事務局経営企画課大学連携室情報基盤係
令和 6年 4月　北見工業大学情報図書課長

北海道大学病院総務課長に

中﨑（なかざき）　治（おさむ）　氏

令和 2年 4月　北海道大学総務企画部情報企画課課長補佐

北海道大学病院医療支援課長に

隅田（すみた）　宇通（ひろみち）　氏

昭和46年生
平成 2年 4月　北海道大学医学部附属病院医事課
平成20年 4月　北海道大学病院医事課係長
平成22年 4月　北方生物圏フィールド科学センター係長
平成24年 4月　財務部調達課係長
平成27年 7月　施設部施設企画課係長
平成30年 4月　北海道大学病院管理課係長
平成31年 4月　北海道大学病院医事課課長補佐
令和 4年 4月　総務企画部人事課課長補佐

財務部資産運用管理課長に

岩部（いわべ）　順（じゅん）　氏

昭和47年1月生
平成 3年 1月　北見工業大学
平成 7年 4月　北海道大学
平成20年 4月　北海道大学法学研究科・法学部係長
平成22年 4月　北海道大学財務部経理課係長
平成23年 7月　小樽商科大学財務課総務係長
平成25年 7月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
平成28年 7月　北海道大学病院管理課係長
平成30年 4月　帯広畜産大学戦略企画課課長補佐
令和 2年 4月　北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 4年 7月　北海道大学医学系事務部会計課課長補佐
令和 5年 4月　室蘭工業大学経理課長

メディア・観光学事務部事務長に

大峡（おおはざま）　賢也（けんや）　氏

昭和45年4月生
平成 5年 3月　北海学園大学経済学部卒業
平成 5年10月　北海道大学
平成18年 4月　室蘭工業大学総務課人事係長
平成21年 4月　北海道大学総務企画部人事課係長
平成22年10月　北海道大学工学系事務部総務課係長
平成26年 4月　北海道大学文学研究科・文学部係長
平成28年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター係長
平成30年 4月　北海道大学総務企画部人事課課長補佐
令和 5年 4月　北海道教育大学総務企画部総務課長

研究推進部研究支援課
化学反応創成研究拠点事務室長に

金森（かなもり）　淳二（じゅんじ）　氏

昭和46年12月生
平成 4年 4月　室蘭工業大学
平成14年 4月　北海道大学
平成18年 9月　小樽商科大学財務課予算係長
平成21年 4月　北海道大学病院経営企画課係長
平成23年 7月　北海道大学財務部主計課財務管理室係長
平成26年 7月　北海道大学獣医学研究科・獣医学部係長
平成28年 7月　北海道大学函館キャンパス事務部係長
令和元年 7月　北海道大学財務部調達課係長
令和 2年 4月　北海道大学財務部資産運用管理課課長補佐
令和 5年 4月　旭川医科大学研究支援課長

北海道大学病院看護部長に

城石（しろいし）　陽子（ようこ）　氏

昭和48年10月22日生
平成 8年 3月　千葉大学看護学部卒業
平成 8年 4月　北海道大学医学部附属病院看護部看護助手
平成 8年 5月　北海道大学医学部附属病院看護部看護婦
平成15年10月　北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護師
平成18年 4月　北海道大学病院看護部副看護師長
平成27年 4月　北海道大学病院看護部看護師長
令和 3年 4月　北海道大学病院看護部副看護部長

新任教授紹介

令和7年3月16日付

工学研究院教授に

三浦（みうら）　章（あきら）　氏

応用化学部門無機材料化学分野

生年月日
昭和56年11月16日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成19年12月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
固体化学、材料化学、結晶学

令和7年4月1日付

水産科学研究院教授に

井尻（いじり）　成保（しげほ）　氏

海洋応用生命科学部門
増殖生物学分野

最終学歴
北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）
博士（水産学）（北海道大学）
専門分野
魚類生殖生理学

水産科学研究院教授に

野村（のむら）　大樹（だいき）　氏

海洋生物資源科学部門
海洋環境科学分野

生年月日
昭和55年8月28日
最終学歴
北海道大学大学院環境科学院博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（環境科学）（北海道大学）
専門分野
海氷生物地球化学、極域海洋学

地球環境科学研究院教授に

佐藤（さとう）　友徳（とものり）　氏

統合環境科学部門
環境地理学分野

生年月日
昭和52年1月27日
最終学歴
筑波大学大学院地球科学研究科修士課程修了（平成13年3月）
博士（理学）（筑波大学）
専門分野
気候学、気象学

理学研究院教授に

大津（おおつ）　珠子（しゅこ）　氏

広報企画推進室

生年月日
昭和46年6月26日
最終学歴
筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了（平成10年3月）
修士（デザイン学）（筑波大学）
専門分野
科学技術コミュニケーション

理学研究院教授に

瀬戸（せと）　治（おさむ）　氏

物理学部門量子物理学分野

生年月日
昭和49年9月6日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士課程修了（平成15年3月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
素粒子、原子核、
宇宙線及び宇宙物理に関連する理論

理学研究院教授に

中冨（なかとみ）　晶子（あきこ）　氏

理学研究院教育研究戦略室

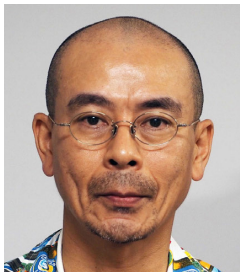
最終学歴
北海道大学大学院理学研究科博士課程修了（平成15年3月）
博士（理学）（北海道大学）
専門分野
理学分野における高等教育に関する研究

農学研究院教授に

宮本（みやもと）　敏澄（としずみ）　氏

基盤研究部門森林科学分野

最終学歴
北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）
博士（農学）（北海道大学）
専門分野
造林学、森林保護学、森林生態学



農学研究院教授に

吉澤（よしざわ）　和徳（かずのり）　氏

基盤研究部門生物資源科学分野

生年月日
昭和46年5月2日
最終学歴
九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程修了（平成11年3月）
博士（理学）（九州大学）
専門分野
昆虫分類学、系統学、形態学

教育学研究院教授に

大竹（おおたけ）　政美（まさみ）　氏

教育基礎論分野

最終学歴
北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位修得退学（平成3年3月）
教育学修士（北海道大学）
専門分野
教育方法学

教育学研究院教授に

加藤（かとう）　弘通（ひろみち）　氏

教育心理学分野

生年月日
昭和48年8月31日
最終学歴
中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学（平成16年3月）
博士（心理学）（中央大学）
専門分野
発達心理学

教育学研究院附属
子ども発達臨床研究センター教授に

川田（かわた）　学（まなぶ）　氏

教育心理学分野

生年月日
昭和48年4月6日
最終学歴
東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位修得退学（平成17年3月）
博士（心理学）（首都大学東京）
専門分野
乳幼児発達論

メディア・コミュニケーション研究院教授に

阿部（あべ）　真（まこと）　氏

メディア・コミュニケーション部門
言語コミュニケーション論分野

生年月日
昭和53年8月11日
最終学歴
メルボルン大学博士課程修了（令和2年4月）
Ph.D.（メルボルン大学）
専門分野
第二言語習得、外国語教育

メディア・コミュニケーション研究院教授に

上田（うえだ）　裕文（ひろふみ）　氏

メディア・コミュニケーション部門
国際地域文化論分野

生年月日
昭和53年6月8日
最終学歴
カッセル大学建築・都市計画・景観計画学部都市・地域社会学科
博士課程単位修得退学（平成21年3月）
Dr.rer.pol.（カッセル大学）
専門分野
造園学、風景計画学、森林美学

工学研究院教授に

エラクネス　ヨガラジャ　氏

環境循環システム部門
地圏循環工学分野

生年月日
昭和53年10月15日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成21年9月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
化学モデリング、地球化学、界面化学、
建設材料設計、CO2キャプチャー

工学研究院教授に

髙井（たかい）　伸雄（のぶお）　氏

建築都市部門先端空間性能分野

生年月日
昭和45年1月9日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科修士課程修了（平成7年3月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
地震工学、強震動地震学

工学研究院教授に

東條（とうじょう）　安匡（やすまさ）　氏

環境工学部門環境工学分野

最終学歴
北海道大学大学院工学研究科修士課程修了（平成5年3月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
廃棄物処分工学

工学研究院教授に

橋本（はしもと）　望（のぞむ）　氏

機械・宇宙航空工学部門
宇宙航空システム分野

生年月日
昭和51年10月19日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
燃焼工学、火災安全

医学研究院教授に

加藤（かとう）　隆弘（たかひろ）　氏

神経病態学分野

最終学歴
九州大学大学院医学研究学府博士課程修了（平成20年3月）
博士（医学）（九州大学）
専門分野
精神医学、神経免疫学、精神分析学

歯学研究院教授に

高橋（たかはし）　直紀（なおき）　氏

口腔医学部門口腔健康科学分野

生年月日
昭和57年2月5日
最終学歴
新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了（平成23年3月）
博士（歯学）（新潟大学）
専門分野
歯周病学・歯周治療学

歯学研究院教授に

渡邊（わたなべ）　裕（ゆたか）　氏

口腔医学部門口腔健康科学分野

生年月日
昭和43年10月19日
最終学歴
北海道大学歯学部歯学科卒業（平成6年3月）
博士（歯学）（東京歯科大学）（平成14年11月）
専門分野
老年歯科医学

獣医学研究院教授に

安井（やすい）　博宣（ひろのぶ）　氏

応用獣医科学分野
放射線学教室

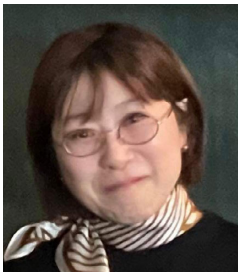
生年月日
昭和53年10月17日
最終学歴
北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了（平成20年3月）
博士（獣医学）（北海道大学）
専門分野
放射線生物学、放射線腫瘍学、生体イメージング

文学研究院教授に

小川（おがわ）　健二（けんじ）　氏

人間科学部門心理学分野

生年月日
昭和53年7月生
最終学歴
京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了（平成19年1月）
博士（情報学）（京都大学）
専門分野
認知神経科学

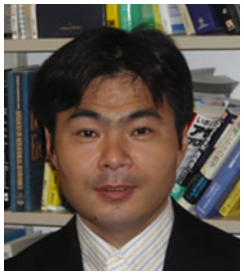


文学研究院教授に

小椋（おぐら）　彩（ひかる）　氏

人文学部門表現文化論分野

最終学歴
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位修得退学（平成18年3月）
博士（文学）（東京大学）
専門分野
ロシア・中東欧文学



文学研究院教授に

高橋（たかはし）　泰城（たいき）　氏

人間科学部門行動科学分野

生年月日
昭和48年9月生
最終学歴
東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（理学）（東京大学）
専門分野
行動経済学、神経経済学、量子認知科学

情報科学研究院教授に

坂本（さかもと）　大介（だいすけ）　氏

情報理工学部門複合情報工学分野

生年月日
昭和56年5月1日
最終学歴
公立はこだて未来大学大学院システム情報科学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（システム情報科学）（公立はこだて未来大学）
専門分野
ヒューマンコンピュータインタラクション、
ユーザインタフェース、インタラクション設計と評価

情報科学研究院教授に

伊達（だて）　宏昭（ひろあき）　氏

システム情報科学部門
システム創成学分野

最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成15年3月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
形状モデリング、3次元計測データ処理、
デジタルエンジニアリング

北海道大学病院教授に

遠藤（えんどう）　知之（ともゆき）　氏

生年月日
昭和43年5月11日
最終学歴
北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成14年3月）
博士（医学）（北海道大学）
専門分野
血液内科学、感染症学

電子科学研究所教授に

中野谷（なかのたに）　一（はじめ）　氏

光科学研究部門
有機量子光デバイス研究分野

生年月日
昭和56年9月8日
最終学歴
九州大学大学院工学府博士後期課程修了（平成22年3月）
博士（工学）（九州大学）
専門分野
有機エレクトロニクス、有機半導体物理、光化学

電子科学研究所教授に

藤原（ふじわら）　幸一（こういち）　氏

生命科学研究部門
生体データサイエンス研究分野

生年月日
昭和56年1月11日
最終学歴
京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（工学）（京都大学）
専門分野
機械学習、生体信号処理、医療AI、医用工学

電子科学研究所教授に

堀江　正樹（ほりえ　まさき）　氏

物質科学研究部門
超分子マテリアル研究分野

生年月日
昭和52年3月9日
最終学歴
東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（東京工業大学）
専門分野
超分子化学、共役分子合成

スラブ・ユーラシア研究センター教授に

呉人　徳司（くれびと　とくす）　氏

地域比較部門

生年月日
昭和40年7月10日
最終学歴
京都大学大学院文学研究科（言語学）博士後期課程研究指導認定退学（平成10年3月）
博士（文学）（京都大学）
専門分野
言語学

広域複合災害研究センター教授に

南里　智之（なんり　ともゆき）　氏

広域複合災害研究センター

生年月日
昭和41年6月14日
最終学歴
北海道大学大学院農学院博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（農学）（北海道大学）
専門分野
砂防学

▌訃報

名誉教授　眞嶋（まじま）　二郎（じろう）　氏

（享年85歳）

名誉教授　眞嶋　二郎　先生は、令和7年3月7日にご逝去されました。

眞嶋先生は、昭和39年3月に北海道大学工学部建築工学科を卒業後、同年4月北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程に入学、同41年3月に同課程を修了され、同年4月に同専攻博士課程に入学し、同44年3月に同課程を単位修得退学されました。引き続き昭和44年4月に室蘭工業大学講師に採用され、同45年4月助教授に昇任されました。その後、昭和55年3月に工学博士の学位を授与され、同年4月に北海道大学工学部助教授に配置換になり、平成7年4月同教授に昇任されました。平成16年に定年退職され、在職中の本学及び社会に対する大きな貢献によって、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

教育面では、建築調査解析、住居計画、住環境計画学特論などの建築計画学分野の講義・演習を通じて後進の指導にあたられ、多数の優秀な人材を育成されました。その間学外においても、福井大学、室蘭工業大学などの非常勤講師を併任して本学以外の学生の教育にも尽力されました。研究面では、主に住宅の需給構造を軸に、地方性研究及び住宅政策研究に取り組まれ、日本の世帯成長段階と住宅型構成及びその地方類型など、住宅事情の地域的特性を生み出す要因を明らかにし、精密な住宅事情を反映した住宅計画研究の方向性とその意義を示されました。住宅の地方性研究の蓄積を基に、住宅市場圏構造のメカニズムを解明した功績は大きく、この分野の指導的役割を果たしてこられました。

常に熱意を持って学生指導と研究活動に取り組んでおられた眞嶋先生のパワフルな姿は、とても印象深く記憶に残っています。眞嶋先生の長年にわたるご功績に敬意を表しますとともに、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（工学院・工学研究院・工学部）

▌資料

令和7年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等			募集人員	入学者数		一般・フロンティア・国際総合入試（備考）								その他	
						人数		比率		人数		比率		人数	比率
				全体	女子	道内	道外	道内	道外	R6年度卒業	過年度卒業	R6年度卒業	過年度卒業		
総合入試文系			95	99	28	18	81	18.2%	81.8%	86	13	86.9%	13.1%	0	0.0%
	国際総合入試		5	1	1	1	0	100.0%	0.0%	1	0	100.0%	0.0%	0	0.0%
	計		100	100	29	19	81	19.0%	81.0%	87	13	87.0%	13.0%	0	0.0%
総合入試理系	数学重点選抜群		133	133	20	37	96	27.8%	72.2%	104	29	78.2%	21.8%	0	0.0%
	物理重点選抜群		239	243	27	90	153	37.0%	63.0%	162	81	66.7%	33.3%	0	0.0%
	化学重点選抜群		240	244	59	76	167	31.1%	68.4%	164	79	67.2%	32.4%	1	0.4%
	生物重点選抜群		169	174	75	28	146	16.1%	83.9%	130	44	74.7%	25.3%	0	0.0%
	総合科学選抜群		253	254	74	72	179	28.3%	70.5%	196	55	77.2%	21.7%	3	1.2%
	国際総合入試		10	6	6	0	6	0.0%	100.0%	6	0	100.0%	0.0%	0	0.0%
	計		1,044	1,054	261	303	747	28.7%	70.9%	762	288	72.3%	27.3%	4	0.4%
文学部			155	161	56	38	121	23.6%	75.2%	127	32	78.9%	19.9%	2	1.2%
教育学部			30	32	15	11	20	34.4%	62.5%	27	4	84.4%	12.5%	1	3.1%
法学部			180	185	68	70	112	37.8%	60.5%	128	54	69.2%	29.2%	3	1.6%
経済学部			160	165	39	67	97	40.6%	58.8%	128	36	77.6%	21.8%	1	0.6%
理学部	数学科		23	24	3	9	14	37.5%	58.3%	16	7	66.7%	29.2%	1	4.2%
	物理学科		17	17	0	4	13	23.5%	76.5%	11	6	64.7%	35.3%	0	0.0%
	化学科		31	31	8	8	21	25.8%	67.7%	21	8	67.7%	25.8%	2	6.5%
	生物科学科	生物学専修分野	10	10	3	0	10	0.0%	100.0%	6	4	60.0%	40.0%	0	0.0%
		高分子機能学専修分野	5	5	1	2	3	40.0%	60.0%	3	2	60.0%	40.0%	0	0.0%
		小　計	15	15	4	2	13	13.3%	86.7%	9	6	60.0%	40.0%	0	0.0%
	地球惑星科学科		10	10	3	1	9	10.0%	90.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%
	計		96	97	18	24	70	24.7%	72.2%	66	28	68.0%	28.9%	3	3.1%
医学部	医学科		90	90	25	28	61	31.1%	67.8%	56	33	62.2%	36.7%	1	1.1%
	保健学科	看護学専攻	67	68	64	56	12	82.4%	17.6%	63	5	92.6%	7.4%	0	0.0%
		放射線技術科学専攻	35	35	17	23	12	65.7%	34.3%	32	3	91.4%	8.6%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	35	24	25	10	71.4%	28.6%	29	6	82.9%	17.1%	0	0.0%
		理学療法学専攻	17	17	4	9	8	52.9%	47.1%	15	2	88.2%	11.8%	0	0.0%
		作業療法学専攻	17	17	12	13	4	76.5%	23.5%	14	3	82.4%	17.6%	0	0.0%
		小　計	171	172	121	126	46	73.3%	26.7%	153	19	89.0%	11.0%	0	0.0%
	計		261	262	146	154	107	58.8%	40.8%	209	52	79.8%	19.8%	1	0.4%
歯学部			43	43	21	13	30	30.2%	69.8%	23	20	53.5%	46.5%	0	0.0%
薬学部			24	28	9	3	25	10.7%	89.3%	19	9	67.9%	32.1%	0	0.0%
工学部	応用理工系学科		48	51	3	10	41	19.6%	80.4%	30	21	58.8%	41.2%	0	0.0%
	情報エレクトロニクス学科		38	40	3	3	35	7.5%	87.5%	30	8	75.0%	20.0%	2	5.0%
	機械知能工学科		30	30	2	5	25	16.7%	83.3%	24	6	80.0%	20.0%	0	0.0%
	環境社会工学科		56	56	15	9	46	16.1%	82.1%	27	28	48.2%	50.0%	1	1.8%
	計		172	177	23	27	147	15.3%	83.1%	111	63	62.7%	35.6%	3	1.7%
農学部			53	53	14	1	52	1.9%	98.1%	37	16	69.8%	30.2%	0	0.0%
獣医学部			35	37	18	1	36	2.7%	97.3%	26	11	70.3%	29.7%	0	0.0%
水産学部			175	181	45	36	143	19.9%	79.0%	118	61	65.2%	33.7%	2	1.1%
現代日本学プログラム			−	17	6	−	−	−	−	−	−	−	−	17	100.0%
合　計			2,528	2,592	768	767	1,788	29.6%	69.0%	1,868	687	72.1%	26.5%	37	1.4%

備考：「一般・フロンティア・国際総合入試」の欄には、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、外国の学校等卒業者、帰国生徒選抜による入学者及び外国人留学生は含まれない。これらの入学者は、「その他」の欄に計上している。

（学務部入試課）

令和7年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
北海道	767	491	276	29.6%
東北	109	71	38	4.2%
青森県	15	9	6	
岩手県	14	11	3	
宮城県	37	19	18	
秋田県	10	8	2	
山形県	16	12	4	
福島県	17	12	5	
関東	793	583	210	30.6%
茨城県	49	38	11	
栃木県	36	25	11	
群馬県	21	19	2	
埼玉県	118	91	27	
千葉県	70	55	15	
東京都	354	250	104	
神奈川県	145	105	40	
北陸・中部	400	299	101	15.4%
新潟県	32	23	9	
富山県	33	24	9	
石川県	59	40	19	
福井県	11	10	1	
山梨県	13	11	2	
長野県	29	23	6	
岐阜県	29	22	7	
静岡県	61	42	19	
愛知県	133	104	29	

地域名	入学者	男子	女子	地域%
近畿	298	218	80	11.5%
三重県	19	15	4	
滋賀県	7	5	2	
京都府	49	36	13	
大阪府	106	74	32	
兵庫県	73	55	18	
奈良県	29	22	7	
和歌山県	15	11	4	
中国・四国	103	76	27	4.0%
鳥取県	5	3	2	
島根県	6	4	2	
岡山県	17	13	4	
広島県	46	34	12	
山口県	7	5	2	
徳島県	7	6	1	
香川県	4	4	0	
愛媛県	10	6	4	
高知県	1	1	0	
九州・沖縄	85	62	23	3.3%
福岡県	38	29	9	
佐賀県	5	3	2	
長崎県	5	3	2	
熊本県	11	9	2	
大分県	3	3	0	
宮崎県	3	3	0	
鹿児島県	11	7	4	
沖縄県	9	5	4	
その他	37	24	13	1.4%
高等学校卒業程度認定試験等	8	7	1	
帰国生徒選抜	2	0	2	
外国人留学生	27	17	10	
入学者数合計	2,592	1,824	768	

地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならない場合がある。

（学務部入試課）

編集メモ

●3月末に広報誌『リテラポプリ』Vol.74を発行しました。今回は、「広がる」をテーマに、北大の宇宙研究から、「次世代ロケット」「宇宙で創薬研究」「超小型衛星」を特集で取り上げています。ぜひご覧ください。
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html

●今月号から、裏表紙に「キャンパス懐古」を新しく掲載します。大学文書館・北海道大学150年史編集室のご協力のもと、創基150周年にあわせて、昔の北大の建物や風景の写真を、全24回にわたり掲載する予定です。

キャンパス懐古 01 入学式当日の部・サークル勧誘風景（1960年代初め）

北海道の入学式は、花と緑の時節にはまだ早く、緩んだ気温に積雪が解け、道はぬかるみ、水たまりがあちこちに。案外、地味な新生活のスタートである。

1960年代初めには、1・2年生が講義を受ける教養部は旧林学科建物（古河講堂、写真背景）にあり、今はもうなくなった旧畜産学科建物（写真背景右端）や旧農業経済学科建物などを教室として使用した。入学式は現在のクラーク会館の北側にあった中央講堂で行い、部・サークル室は中央講堂や正門を入って左手の学生会館の中にあった。

このころの新入生の学生生活の中心はキャンパスの南であった。1963～64年、北17条に教養部の新建物（現在の高等教育推進機構）が完成すると、新入生の活動の場はキャンパスの北へと移っていった。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）

北大時報 ④　No.853　　令和7年4月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html